

臨 床 実 習 必 携〔Ⅰ〕

—— 区分および課題 ——

124 期 生

(平成29年 4 月～平成30年 4 月)

東 京 歯 科 大 学

学 生 番 号	氏 名

目 次

§ 1	全般的心得	1 頁
§ 2	第124期生名簿	6
§ 3	臨床実習区分表	9
	臨床実習および全体集合日等	
§ 4	卒前臨床実習ガイドライン・全科共通学生自己評価表・ 全科共通学生用指導体制評価表	21
§ 5	臨床実習教育目標・実施方法・リクアイヤメント・評価方法	
	共 通 臨 床 実 習（0期）	25
	保 存 科	27
	補 綴 科	35
	口 腔 外 科	45
	歯 科 麻 酔 科	55
	小児歯科・障害者歯科	61
	矯 正 歯 科	69
	放 射 線 科	76
	口 腔 イ ン プ ラ ン ト 科	82
	臨 床 検 査 部	88
	ス ポ ー ツ 歯 科	94
	摂食嚥下リハビリテーション科	100
	障害者歯科・口腔顔面痛	105
	市 川 総 合 病 院	111
§ 6	指導教員一覧	119

§ 1 全 般 的 心 得

全 般 的 心 得

第1章 一般的心得

1. 臨床実習を履修する学生は、常に歯科学生としての自覚を持ち、この心得ならびに大学の諸規程を守り、責任ある言動をしなければならない。
2. 臨床実習は、指導者の指示に従わなければならない。
3. 院内における朝礼、診療開始・終了等の時刻を厳守すること。
4. 実習終了後、ガス栓、水道、電気スイッチ等の確認、特に火気取扱いに留意すること。

第2章 院内のマナー

1. 服装は下記のものを原則とする。
 - (1) 白衣は、本学で指定したものを着用し、胸の上部に名札及び所属部の「バッジ」を付けること。なお、白衣の下は、無地又は、薄い色のシャツを着用すること。
 - (2) 靴下は、くるぶしが隠れるものを履くこと。
2. 白衣は、各自2着以上を用意し、常に清潔なものを着用すること。
3. 診療中は「マスク」を使用すること。
4. 頭髪を整え、ヒゲをそり、爪を短く切り、ピアス、指輪等の装飾品は身に付けないこと。
5. 喫煙および飲食は所定の場所以外は禁止する。
6. 病院玄関から出入することは禁止する。
7. 病院内では静粛にすること。
8. 白衣のまま外出してはならない。
9. 患者に付き添うとき以外は、教職員・学生は専用エレベーターを使用すること。
10. 院内を清潔に保つよう常に注意すること。

第3章 実習期間・区分および実習時間

1. 臨床実習期間・区分および実習期間は別に定める。

第4章 出欠・遅刻・早退および外出

1. 担当患者の配当の有無を問わず、決められた時刻に登院すること。
2. 出席をとる際は、所属部の指示に従うこと。
3. 臨床実習の出席は、1日1回以上確認する。
4. 実習時間中は無断で外出してはならない。
5. 遅刻・早退があった場合には、0.5回の欠席とする。
6. やむを得ない事故または病気のため欠席する者は、実習開始前に、その旨を所属部あるいは教務課に連絡すること。遅刻の場合もまた同じ。なお、初登校後7日以内に学年主任の認印を受けた欠席届を提出すること。

第5章 器械・器具

1. 病院備付の器械・器具を丁寧に取扱い、紛失または破損することのないよう注意すること。

第6章 接 遇

1. 患者は病を持った弱者である。ホスピタリティにあふれた接遇をめざす。
2. 患者に対しては親切を旨とし、自己の怠慢のため患者に迷惑をかけてはならない。
3. 常に患者の来院に注意し、必要以上に患者を待たせないこと。
4. 患者の受診する心理を的確に知り、正しい診療を行なう上に必要な理解と協力を得るよう努めること。
5. 当日の診療終了後は指導者と相談の上、次回の診療日時を約束し、これを守らなければならない。

第7章 受付および会計

1. 病院事務部から患者に交付した、診療録および診療券等の記載を点検してから診療を開始すること。
2. 患者の支払うべき料金を、担当学生が代納してはならない。
3. 材料室の運用を確認。
4. 投薬の場合、患者が処方箋に会計の検印を受け、それを薬局に提出する。

第8章 制裁および処罰

1. 下記の心得に違反した者および学生の本分にもとった行為があると認められた者は、訓告、実習停止、停学または退学処分に科せられることがある。

- ・ 病院外において患者を治療したとき
- ・ 診療録および処方箋等の記載事項を、指導者の許可なく変更したとき
- ・ 指導者の指導によらず、実習を行なったとき
- ・ 各自所有すべき器械・器具の補充を命ぜられたにもかかわらず、これに応じなかったとき
- ・ 出欠を偽証したとき
- ・ 交付を受けた材料の取扱いに不正行為があったとき
- ・ 各自の責任として、弁償を命ぜられたにもかかわらず、その義務を履行しなかったとき
- ・ 所定の服装をしなかったとき
- ・ 許可なく時間外の実習をしたとき
- ・ 無断で欠席・早退・実習時間中外出したとき
- ・ 所定の器械・器具を持たず、また不衛生であったとき
- ・ 患者に迷惑をかけたとき
- ・ 指導者から、再三注意を与えられたにもかかわらず、なお改悛の情がなかったとき

2. その他所属部の指示に従わなかったとき制裁および処罰を受けることがある。

§ 3 臨 床 実 習 区 分 表

第 1 2 4 期生 臨床実習区分表

※ 4月6日（木）～10日（月）：新年度オリエンテーション，課題講義13コマ

課題講義内訳 8コマ 医療管理，5コマ スポーツ歯学（講義・実習）

4月11日（火）午前：登院時オリエンテーション 午後：0期講義

4月12日（水）午前：登院式

4月12日（水）午後～14日（金）：準備期間（各科説明・見学，講義）（20頁参照）

区 分 け									
A班	27名	B班	27名	C班	26名	D班	28名	E班	28名
A-1	1～7	B-1	31～37	C-1	61～67	D-1	91～97	E-1	121～127
A-2	8～14	B-2	38～44	C-2	68～74	D-2	98～104	E-2	128～134
A-3	15～21	B-3	45～51	C-3	75～80	D-3	105～111	E-3	135～141
A-4	22～27	B-4	52～57	C-4	81～86	D-4	112～118	E-4	142～148

※ 臨床実習時間は 平日 午前 8：30～12：30 午後 13：30～18：00（1日）

土曜日 午前 8：30～12：30（1/2日） とする。

[午前の開始時刻に出席を取る。なお，千葉病院の午前開始時刻は8：45とする。]

{自 平成29年 4月15日（土）} {至 平成30年 4月中旬}

【表-1】 (水)は水道橋病院，(千)は千葉病院，(市)は市川総合病院

期 間			日数	(水)	(水)	(水)	(水)	(千), (市)
				保存	補綴	口外 (後期) 麻酔	歯放, 矯正, 児歯・障害者 [(前期)インプラント, 麻酔] [(後期)臨検, ス菌, 摂食, 障害者]	市川総合病院 口外(千), 児歯(千) [(前期)矯正(千), 麻酔(千)]
前 期	第1期	4.15(土)～ 5.18(木)	24	A	B	C	D※表－2	E※表－12
	第2期	5.19(金)～ 6.16(金)	24	E	A	B	C※表－3	D※表－13
	第3期	6.17(土)～ 7.14(金)	23	D	E	A	B※表－4	C※表－14
	第4期	7.15(土)～ 8.22(火)	24	C	D	E	A※表－5	B※表－15
	第5期	8.23(水)～ 9.22(金)	24	B	C	D	E※表－6	A※表－16
後 期	第6期	9.25(月)～10.24(火)	24	D	E	A	B※表－7	C※表－17
	第7期	10.25(水)～11.24(金)	24	C	D	E	A※表－8	B※表－18
	第8期	11.25(土)～12.25(月)	24	B	C	D	E※表－9	A※表－19
	第9期	12.26(火)～ 2. 1(木)	23	A	B	C	D※表－10	E※表－20
	第10期	2. 3(土)～ 3. 6(火)	24	E	A	B	C※表－11	D※表－21
保留者発表		3. 7(水)						
保留者試験期間		3. 8(木)～ 3.13(火)	ケース補充期間			3. 8(木)～ 3.17(土)		
臨床実習判定発表		3.22(木) (進級判定教授会)						
プログレス期間		3.19(月)～ 4 月中旬	20～25	水道橋病院		千葉病院		市川総合病院
				ベーシック				
総 合 講 義		平成30年 4 月中旬～						

夏期休暇について：第4期の期間中に交代で6日間とする。

【水道橋病院】口腔インプラント科，歯科麻酔科，放射線科，矯正歯科，小児歯科・障害者歯科
配属区分表

(平成29年4月15日(土)～平成29年9月22日(金))【前期】

(表－2) D班

【水道橋病院】

前期(1期)	口腔インプラント科	歯科麻酔科	放射線科	矯正歯科 小児歯科・障害者歯科
4.15(土)～4.21(金)(6)	D－1	D－2	D－3	D－4
4.22(土)～4.28(金)(6)	D－2	D－3	D－4	D－1
5.1(月)～5.10(水)(6)	D－3	D－4	D－1	D－2
5.11(木)～5.18(木)(6)	D－4	D－1	D－2	D－3

(表－3) C班

【水道橋病院】

前期(2期)	口腔インプラント科	歯科麻酔科	放射線科	矯正歯科 小児歯科・障害者歯科
5.19(金)～5.25(木)(6)	C－1	C－2	C－3	C－4
5.26(金)～6.1(木)(6)	C－2	C－3	C－4	C－1
6.2(金)～6.8(木)(6)	C－3	C－4	C－1	C－2
6.9(金)～6.16(金)(6)	C－4	C－1	C－2	C－3

(表－4) B班

【水道橋病院】

前期(3期)	口腔インプラント科	歯科麻酔科	放射線科	矯正歯科 小児歯科・障害者歯科
6.17(土)～6.23(金)(6)	B－1	B－2	B－3	B－4
6.24(土)～6.30(金)(6)	B－2	B－3	B－4	B－1
7.1(土)～7.7(金)(6)	B－3	B－4	B－1	B－2
7.10(月)～7.14(金)(5)	B－4	B－1	B－2	B－3

(表－５) A班

【水道橋病院】

前期（４期）	口腔インプラント科	歯科麻酔科	放射線科	矯正歯科 小児歯科・障害者歯科
7.15(土)～ 7.22(土)(6)	A－１	A－２	A－３	A－４
7.24(月)～ 7.29(土)(6)	A－２	A－３	A－４	A－１
7.31(月)～ 8. 5(土)(6)	夏期休暇			
8. 7(月)～ 8.15(火)(6)	A－３	A－４	A－１	A－２
8.16(水)～ 8.22(火)(6)	A－４	A－１	A－２	A－３

(表－６) E班

【水道橋病院】

前期（５期）	口腔インプラント科	歯科麻酔科	放射線科	矯正歯科 小児歯科・障害者歯科
8.23(水)～ 8.29(火)(6)	E－１	E－２	E－３	E－４
8.30(水)～ 9. 6(水)(6)	E－２	E－３	E－４	E－１
9. 7(木)～ 9.14(木)(6)	E－３	E－４	E－１	E－２
9.15(金)～ 9.22(金)(6)	E－４	E－１	E－２	E－３

【水道橋病院】 小児歯科，臨床検査，スポーツ歯科，摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科・
訪問歯科，障害者歯科・口腔顔面痛，放射線科，矯正歯科 配属区分表

(平成29年9月25日(月)～平成30年3月6日(火))【後期】

(表－7) B班

【水道橋病院】

後期(6期)	小児歯科 臨床検査	スポーツ歯科， [摂食嚥下・訪問歯科] [障害者歯科・口腔顔面痛]	放射線科	矯正歯科
9.25(月)～9.30(土)(6)	B－1	B－2	B－3	B－4
10.2(月)～10.7(土)(6)	B－2	B－3	B－4	B－1
10.10(火)～10.17(火)(6)	B－3	B－4	B－1	B－2
10.18(水)～10.24(火)(6)	B－4	B－1	B－2	B－3

(表－8) A班

【水道橋病院】

後期(7期)	小児歯科 臨床検査	スポーツ歯科， [摂食嚥下・訪問歯科] [障害者歯科・口腔顔面痛]	放射線科	矯正歯科
10.25(水)～10.31(火)(6)	A－1	A－2	A－3	A－4
11.1(水)～11.8(水)(6)	A－2	A－3	A－4	A－1
11.9(木)～11.16(木)(6)	A－3	A－4	A－1	A－2
11.17(金)～11.24(金)(6)	A－4	A－1	A－2	A－3

(表－9) E班

【水道橋病院】

後期(8期)	小児歯科 臨床検査	スポーツ歯科， [摂食嚥下・訪問歯科] [障害者歯科・口腔顔面痛]	放射線科	矯正歯科
11.25(土)～12.1(金)(6)	E－1	E－2	E－3	E－4
12.2(土)～12.8(金)(6)	E－2	E－3	E－4	E－1
12.11(月)～12.16(土)(6)	E－3	E－4	E－1	E－2
12.18(月)～12.25(月)(6)	E－4	E－1	E－2	E－3

(表-10) D 班

【水道橋病院】

後期 (9期)	小児歯科 臨床検査	スポーツ歯科, [摂食嚥下・訪問歯科] [障害者歯科・口腔顔面痛]	放射線科	矯正歯科
12.26(火)～ 1.11(木)(6)	D - 1	D - 2	D - 3	D - 4
1.12(金)～ 1.18(木)(5)	D - 2	D - 3	D - 4	D - 1
1.19(金)～ 1.25(木)(6)	D - 3	D - 4	D - 1	D - 2
1.26(金)～ 2. 1(木)(6)	D - 4	D - 1	D - 2	D - 3

(表-11) C 班

【水道橋病院】

後期 (10期)	小児歯科 臨床検査	スポーツ歯科, [摂食嚥下・訪問歯科] [障害者歯科・口腔顔面痛]	放射線科	矯正歯科
2. 3(土)～ 2. 9(金)(6)	C - 1	C - 2	C - 3	C - 4
2.13(火)～ 2.20(火)(6)	C - 2	C - 3	C - 4	C - 1
2.21(水)～ 2.27(火)(6)	C - 3	C - 4	C - 1	C - 2
2.28(水)～ 3. 6(火)(6)	C - 4	C - 1	C - 2	C - 3

【千葉病院・市川総合病院】矯正歯科，歯科麻酔科，口腔外科，小児歯科

市川総合病院〔医科〕 配属区分表

(平成29年4月15日(土)～平成29年9月22日(金))【前期】

(表-12) E班

【千葉病院・市川総合病院】

前期(1期)	矯正歯科(千) 歯科麻酔科(千)	口腔外科(千) 小児歯科(千)	市川総合病院 医科外来実習
4.15(土)～4.21(金)(6)	E-1	E-2	E-3 E-4
4.22(土)～4.28(金)(6)	E-2	E-1	
5.1(月)～5.10(水)(6)	E-3	E-4	E-1 E-2
5.11(木)～5.18(木)(6)	E-4	E-3	

(表-13) D班

【千葉病院・市川総合病院】

前期(2期)	矯正歯科(千) 歯科麻酔科(千)	口腔外科(千) 小児歯科(千)	市川総合病院 医科外来実習
5.19(金)～5.25(木)(6)	D-1	D-2	D-3 D-4
5.26(金)～6.1(木)(6)	D-2	D-1	
6.2(金)～6.8(木)(6)	D-3	D-4	D-1 D-2
6.9(金)～6.16(金)(6)	D-4	D-3	

(表-14) C班

【千葉病院・市川総合病院】

前期(3期)	矯正歯科(千) 歯科麻酔科(千)	口腔外科(千) 小児歯科(千)	市川総合病院 医科外来実習
6.17(土)～6.23(金)(6)	C-1	C-2	C-3 C-4
6.24(土)～6.30(金)(6)	C-2	C-1	
7.1(土)～7.7(金)(6)	C-3	C-4	C-1 C-2
7.10(月)～7.14(金)(5)	C-4	C-3	

(表-15) B班

【千葉病院・市川総合病院】

前期（４期）	矯正歯科（千） 歯科麻酔科（千）	口腔外科（千） 小児歯科（千）	市川総合病院 医科外来実習
7.15(土)～ 7.22(土)(6)	B－１	B－２	B－３ B－４
7.24(月)～ 7.29(土)(6)	B－２	B－１	
7.31(月)～ 8. 5(土)(6)	夏期休暇		
8. 7(月)～ 8.15(火)(6)	B－３	B－４	B－１ B－２
8.16(水)～ 8.22(火)(6)	B－４	B－３	

(表-16) A班

【千葉病院・市川総合病院】

前期 (5期)	矯正歯科 (千) 歯科麻酔科 (千)	口腔外科 (千) 小児歯科 (千)	市川総合病院 医科外来実習
8.23(水)～8.29(火)(6)	A-1	A-2	A-3 A-4
8.30(水)～9.6(水)(6)	A-2	A-1	
9.7(木)～9.14(木)(6)	A-3	A-4	A-1 A-2
9.15(金)～9.22(金)(6)	A-4	A-3	

【千葉病院・市川総合病院】矯正歯科，歯科麻酔科，口腔外科，小児歯科

市川総合病院〔歯科〕 配属区分表

(平成29年9月25日(月)～平成30年3月6日(火))【後期】

(表-17) C班

【千葉病院・市川総合病院】

後期(6期)	口腔外科(千)	小児歯科(千)	市川総合病院 歯科外来実習
9.25(月)～9.30(土)(6)	C-1	C-2	C-3 C-4
10.2(月)～10.7(土)(6)	C-2	C-1	
10.10(火)～10.17(火)(6)	C-3	C-4	C-1 C-2
10.18(水)～10.24(火)(6)	C-4	C-3	

(表-18) B班

【千葉病院・市川総合病院】

後期(7期)	口腔外科(千)	小児歯科(千)	市川総合病院 歯科外来実習
10.25(水)～10.31(火)(6)	B-1	B-2	B-3 B-4
11.1(水)～11.8(水)(6)	B-2	B-1	
11.9(木)～11.16(木)(6)	B-3	B-4	B-1 B-2
11.17(金)～11.24(金)(6)	B-4	B-3	

(表-19) A班

【千葉病院・市川総合病院】

後期(8期)	口腔外科(千)	小児歯科(千)	市川総合病院 歯科外来実習
11.25(土)～12.1(金)(6)	A-1	A-2	A-3 A-4
12.2(土)～12.8(金)(6)	A-2	A-1	
12.11(月)～12.16(土)(6)	A-3	A-4	A-1 A-2
12.18(月)～12.25(月)(6)	A-4	A-3	

(表-20) E班

【千葉病院・市川総合病院】

後期 (9期)	口腔外科 (千)	小児歯科 (千)	市川総合病院 歯科外来実習
12.26(火)～ 1.11(木)(6)	E - 1	E - 2	E - 3 E - 4
1.12(金)～ 1.18(木)(5)	E - 2	E - 1	
1.19(金)～ 1.25(木)(6)	E - 3	E - 4	E - 1 E - 2
1.26(金)～ 2. 1(木)(6)	E - 4	E - 3	

(表-21) D班

【千葉病院・市川総合病院】

後期 (10期)	口腔外科 (千)	小児歯科 (千)	市川総合病院 歯科外来実習
2. 3(土)～ 2. 9(金)(6)	D - 1	D - 2	D - 3 D - 4
2.13(火)～ 2.20(火)(6)	D - 2	D - 1	
2.21(水)～ 2.27(火)(6)	D - 3	D - 4	D - 1 D - 2
2.28(水)～ 3. 6(火)(6)	D - 4	D - 3	

(表-22) 夏期休暇区分表

期 間	A	B	C	D	E
7. 31(月)～ 8. 5(土)(6)	別 表 (表- 5)	別 表 (表-15)	C - 1 C - 2	D - 1 D - 2	E - 1 E - 2
8. 7(月)～ 8.15(火)(6)			C - 3 C - 4	D - 3 D - 4	E - 3 E - 4

全員集合日（ホームルーム）：集合時間までに水道橋校舎本館13階・第1講義室に集合すること。

※ 2月1日（木）の全体集合は、新館にて実施予定。

年	平成29年	平成30年
月 日	5月18日（木）16：45	2月1日（木）16：45（新館）
	6月16日（金）16：45	2月23日（金）16：45
	7月14日（金）16：45	3月7日（水）18：00
	8月22日（火）16：45	
	9月22日（金）16：45	
	10月24日（火）16：45	
	11月24日（金）16：45	
	12月25日（月）16：45	

※ 集合日の実習終了時間について

○16：45～の場合：水道橋16：30，千葉15：15，市川15：45

○18：00～の場合：水道橋17：45，千葉16：30，市川17：00

第124期生 第5学年の春休み

平成29年

4/29(土)	4/30(日)	5/ 1(月)	5/ 2(火)	5/ 3(水)	5/ 4(木)	5/ 5(金)	5/ 6(土)	5/ 7(日)
○	○			○	○	○		○

※ ○：日曜，祝日 空欄：実習日

実習期間中大学行事等のため実習日数から除いた日

期 間	実習日数から除いた日
第4期	夏休み 平成29. 7. 31（月）～平成29. 8. 15（火）のうち6日間
第5期	第1回総合学力試験 平成29. 9. 2（土）
第8期	冬休み 平成29. 12. 28（木）～平成30. 1. 5（金）
第9期	一般入学試験（I期）平成30. 2. 2（金）
第10期	第2回総合学力試験 平成30. 2. 17（土）
保留者試験期間	発表及び補充試験，平成30. 3. 7（水）～平成30. 3. 12（月） 総合学力追・再試験

準備期間 日程表

(平成29年4月12日(水)～4月14日(金))

期 間			保存	補綴	口外 歯麻	児歯, 障害者, 矯正, 歯放	インプラント, スポ歯, 摂食・訪問, 臨検
準備 期 間	準備 第1期	4.12(水) 14:00～18:00	E	A	B	※1 C	※3 D
	準備 第2期	4.13(木) 9:00～13:00	D	E	A	※2 B	※4 C
	準備 第3期	4.13(木) 14:00～18:00	C	D	E	※1 A	※3 B
	準備 第4期	4.14(金) 9:00～13:00	B	C	D	※2 E	※4 A
	準備 第5期	4.14(金) 14:00～18:00	A	B	C	※1 D	※3 E

[タイムテーブル]

(児歯, 障害者, 矯正, 歯放)

	※1	※2
小児歯科	14:00～14:50	9:00～9:50
障害者・口腔顔面痛	15:00～15:50	10:00～10:50
矯正歯科	16:00～16:50	11:00～11:50
歯科放射線科	17:00～17:50	12:00～12:50

(インプラント, スポ歯, 摂食・訪問, 臨検)

	※3	※4
インプラント科	14:00～14:50	9:00～9:50
スポーツ歯科	15:00～15:50	10:00～10:50
摂食・嚥下リハ科	16:00～16:50	11:00～11:50
臨床検査部	17:00～17:50	12:00～12:50

§ 4 卒前臨床実習ガイドライン・全科共通学生
自己評価表・全科共通学生用指導体制評価表

卒前臨床実習 全科共通自己評価表

科臨床実習 _____ 学生氏名 _____

この評価表の完成と提出が臨床実習課程合格の条件の一つなので、学生はそれぞれの科ごとに記入すること。

※マークシートカードに鉛筆で記入すること。

I. 期間中に受け持った患者の数について〔 〕の内必要な事項を選ぶ

Na 保存科，補綴科，口腔外科，小児歯科，矯正歯科，インプラント科，
摂食嚥下リハビリテーション，スポーツ歯科，オーラルメディシン，臨床検査

- | | |
|---|-------------|
| 〔 1. 歯科医療行為を行った患者の数は.....名
2. そのうち治療計画を立案した患者の数は.....名
3. そのうち実地ケースを行った患者の数は.....名
4. そのうち診療補助・介補ケース・診療見学を行った患者の数は.....名 〕 | 以下のとおりマークする |
|---|-------------|

人 数	マーク
0 名	a
1 名～5 名	b
6 名～10 名	c
11 名～29 名	d
30 名以上	e

口腔外科，歯科麻酔科，オーラルメディシン

- | | |
|---|--|
| 〔 5. 入院手術を見学した患者の数は.....名
6. そのうち症例報告を行った患者の数は.....名 〕 | |
|---|--|

放射線科

- | | |
|--|--|
| 〔 7. 見学した画像検査症例の数は.....名
8. 見学した画像診断症例の数は.....名 〕 | |
|--|--|

市川総合病院・医科

- | | |
|---|--|
| 〔 9. 見学した外来患者の数は.....名
10. そのうち症例報告を行った患者の数は.....名
11. 入院ないし手術を見学した患者の数は.....名
12. そのうち症例報告を行った患者の数は.....名 〕 | |
|---|--|

- あなたの臨床実習生としての知識，臨床技能，診療業務行動，学習態度について本実習期間を振り返り以下の選択肢の中でもっとも近い状況にチェックすること。

13. 基礎知識の量と理解度

- a 知識の量や理解度は不十分であった。
 - b 知識の量や理解度はやや不十分であった。
 - c 臨床実習に必要な知識の量や理解度であった。
 - d 臨床実習学生に求められる知識の量や理解度以上であった。
 - e 知識の量や理解度はたいへん優れたものであった。
- (マークなし) わからない。

14. 問診，プロトコール記載（ケースレポート問診記載）
- a 問診，プロトコール記載内容は断片的で不十分であった。
 - b 問診，プロトコール記載内容はやや不十分で記載もれがいくぶんあった。
 - c 問診，プロトコール記載内容は患者の情報をほぼ把握できるものであった。
 - d 問診，プロトコール記載内容は完全であり診断，治療方針決定が行なえるものであった。
 - e 問診，プロトコール記載内容はたいへん優れたものであった。
- （マークなし）わからない，行っていない。
15. 歯科医療行為〔放射線，矯正歯科，インプラント科，市川総合病院・医科：記入不要〕
- a 重要な歯科医療行為の要点を把握しておらず適切な歯科医療行為を行う能力に欠けていた。
 - b 歯科医療行為は不完全なことがあり指導医の指導，介助をかなり必要とした。
 - c 一般的な歯科医療行為を行う技術があり指導医の指導により自ら歯科医療行為を行うことができた。
 - d 歯科医療行為を行うに十分な技術があり指導医の助言のもと自ら歯科医療行為を行うことができた。
 - e 優秀な歯科医療行為を行う技術があり自ら歯科医療行為を行うことができた。
- （マークなし）わからない，行っていない。
16. 市川総合病院・医科（前期）のみ回答
医行為（見学）
- a 重要な医行為の要点を把握しておらず，指導医の医行為を理解できなかった。
 - b 指導医の医行為を断片的にしか理解できなかった。
 - c 指導医の医行為をある程度理解できた。
 - d 指導医の医行為を十分に理解できた。
 - e 指導医の医行為を十分に理解でき，次に必要な医行為も予想できた。
- （マークなし）わからない。
17. 〔実地ケースの〕カルテ記載〔市川総合病院・医科：記入不要〕
- a 病歴，所見，診療内容などの記載は大雑把で断片的であり記載もれが多かった。
 - b 病歴，所見，診療内容などの記載はやや不十分で記載もれがいくぶんあった。
 - c 病歴，所見，診療内容などの記載は標準的であり患者情報，診療内容をほぼ把握できるものであった。
 - d 病歴，所見，診療内容などの記載は詳細で完全であり整理されたものであった。
- （マークなし）わからない。
18. 症例報告（ケースレポートあるいは実地ケースの術後レポート）
- a 報告（ケースレポート）内容は全く整理されておらず大雑把で断片的であり内容も不十分であった。
 - b 報告（ケースレポート）内容はやや不十分かつ不正確であった。
 - c 報告（ケースレポート）の内容，記載は標準的であり整理されたものであった。
 - d 報告（ケースレポート）の内容，記載は完全であり，よく整理されたものであった。
- （マークなし）わからない。

19. 臨床実習学生としての態度

- a 欠席，遅刻が多く歯科医師としての信頼性にも欠けると思わせるところがあった。
- b 患者の態度，欲求を把握し，対応することに消極的であった。
- c 患者の態度，欲求を把握し，ほぼ適切に対応することができた。
- d 患者の態度，欲求を把握し，積極的に対応することができた。
- e 患者の態度，欲求を把握し，積極的に対応し，患者の満足を得ることができた。
(マークなし) わからない。

20. 診療環境の整備

- a 大雑把で乱雑で器材の不足，不良があり定時に整備が完了していなかった。
- b 整理，整頓が不十分で診療時に不良が発見されることがあった。
- c 整理，整頓が十分で歯科医療行為を行う時にほぼ適切に対応することができた。
- d 整理，整頓が完全で効率良く歯科医療行為を行うことができた。
- e 整理，整頓が完璧で器材の整備も万全であった。
(マークなし) わからない。

21. 患者とのコミュニケーション

- a 患者の欲求，感情，希望に対し理解，配慮に欠けるところが多かった。
- b 時々，医師患者関係が適切にとれないことがあった。
- c 患者やその家族と適切な関係を構築することができた。
- d 患者やその家族との会話，対応に優れ十分な相互理解が得られた。
- e 患者やその家族と打ち解ける能力に優れ極めて良好な医師患者関係を構築できた。
(マークなし) わからない。

22. 自己学習能力と柔軟性

- a 自分の不十分さに全く気付かず指導医の助言にも耳を傾けなかった。
- b 自分の不適切さは自覚するものの指導医の助言には抵抗感を持った。
- c 指導医の助言や建設的意見に耳を傾けようとした。
- d 自分への評価，助言を受け入れ改善しようと努力した。
- e 自分への評価，助言を積極的に求め自らを向上しようと努力した。
(マークなし) わからない。

この実習の感想，総合評価

専用の用紙に記入の上，各科へ提出すること。

卒前臨床実習 全科共通学生用指導体制評価表

各項目について4段階で評価し、該当する番号をマークシートに記入してください。

全くそうではなかった	a
どちらかといえばそうではなかった	b
どちらかといえばそうだった	c
全くそうだった	d
評価不适当	e

No. (オリエンテーション・準備期間)

23. 初めに臨床実習で修得すべき項目が説明された。
24. 初めに臨床実習で自分に与えられる診療上の役割が説明された。
25. 初めに臨床実習の評価の基準やその方法が説明された。

(学習の機会、教材の提供)

26. 患者数や疾患の種類は適切であった。
27. 初めに臨床実習で自分に与えられた診療上の役割に追加、あるいは減らされた役割は時期に応じて自分の能力を高めるのに適切であった。
28. 歯科医療行為を行う機会が十分に与えられた。〔市川総合病院医科：記入不要〕
29. 資料収集、文献検索の機会が十分に与えられた。
30. 診療方針について自分なりの意見を述べる機会を十分与えてくれ、ディスカッションができた。
31. 口頭での情報提供、あるいは役に立つテキストや論文などが配付されるなど手技のコツや診断のカギとなる医学知識を良く学べるように適切な援助を受けた。
32. 指導医はチェアサイド、(ベッドサイド)での患者さんの接し方における模範として適切であった。

(フィードバック、学習の促進、指導態度)

33. 指導医(や看護職員)から技能、知識、態度に関するフィードバックがあった。
34. それらのフィードバックはタイミングや内容、方法などが適切で納得できるものだった。
35. 指導医は知識や技能、態度習得の意欲が湧いてくるような刺激を与えてくれた。
36. 自分の接した指導医は歯科学学生の指導に熱心であった。

(医療チーム間の人間関係対応)

37. 指導医は自分を医療チームの一員として尊重してくれた。
38. 指導医は相談しやすかった。
39. 指導医はチーム内(看護、事務職員)との人間関係がうまくいくように配慮してくれた。

(総括)

40. 総じて自分の接した指導医の指導・監査は適切だった。

以下の項目は、科により記入不要

41. 病歴聴取の機会が十分に与えられた。
42. 身体および、口腔内の診察と検査機会が十分に与えられた。
43. 回診、カンファレンスなどで症例呈示の機会が十分に与えられた。

後期臨床実習のみ記入

44. 初めに与えられた診療上の役割は前期より高度であった。

§ 5 臨床実習教育目標・実施方法・
リクアイヤメント・評価方法

0期

共通臨床実習 講義内容

〔オリエンテーション〕

実施日時：平成29年4月11日(火) 9:30～11:10

実施場所：水道橋校舎 本館13階 第1講義室

〔0期講義〕

実施日時：平成29年4月11日(火) 13:30～16:30

実施場所：水道橋校舎 本館13階 第1講義室

時限	時間	講義内容	講義担当者
1	13:30～14:10	個人情報保護管理	担当副病院長
2	14:20～15:20	緊急時の対応	医療安全管理室長
3	15:30～16:30	患者との接遇	教務部長

〔登院式〕

実施日時：平成29年4月12日(水) 10:30～11:00

実施場所：水道橋校舎 本館13階 第2講義室

共通臨床実習教育目標

項 目	教 育 目 標
1. 診療の基本技術	
1) 診療の態度技能	
(1) 医療面接	G I O：正確な症状把握，良好な医師・患者関係を築くために，医療面接の基礎を修得する。 S B O s：1. 歯科医師として好ましい態度で患者と家族に対応できる。 2. 患者・家族の身体的および精神的苦痛と社会的背景を判断し適切に対応できる。 3. 来院の動機と主訴を聞き取り記述できる。 4. 既往歴を聞き取り記述し，重要性を判断できる。 5. 時系列に現病歴を聞き取り記述できる。 6. プライバシーへの配慮ができる。 7. 収集した医療情報を整理し，問題点を抽出できる。
(2) 安全性への配慮と危機管理	G I O：歯科医療における安全性を確保し，適切な危機管理を行うために必要な知識と態度を修得する。 S B O s：1. 歯科医療を行うにあたっての危険性を説明できる。 2. 医療事故の防止法について説明できる。 3. 医療事故防止のための対策について説明できる。 4. 医療事故発生時の対応方法について説明できる。 5. 指示された症例について危機管理の点から評価できる。
2) 基本的診療技能	
(1) 診察と検査技術	G I O：正しい診断を行うために，必要な診察と検査に関する知識と技能を修得する。 S B O s：1. 診察によって得られた情報を記録できる。 2. 各種検査法の原理と解釈法を説明できる。
(2) 消毒・滅菌・院内感染	G I O：歯科医療を安全に行うために，感染予防に必要な消毒・滅菌の知識と技能を修得する。 S B O s：1. Standard precautions が実施できる。 2. 医療廃棄物を適切に扱える。
(3) 指示書及び依頼状等の作成	G I O：診療を的確に進めるために，診療記録と各種指示書の作成法を身につける。 S B O s：1. 診療記録の記載ができる。

保存科

「卒前臨床実習のガイドライン」

- ① 立案した治療計画や、装着予定の製作物などは事前に指導医（学生インストラクター）に提示して確認を受ける。
- ② 受け持ち患者さんに対する当日の治療内容と必要な器具・器材の確認。
- ③ 患者さんを診療室に案内し、ユニットに座ってもらう。
- ④ 当日の患者さんの状態、検査結果、治療計画・治療内容について指導医とディスカッションを行い、フィードバックを受ける。
- ⑤ 治療計画に沿って診療を行う。診療終了時に指導医の確認を受ける。
- ⑥ 指導医とともに患者さんへの病態の説明に参加する。
- ⑦ 患者さんの診療終了時には、当日行った治療内容につき詳しく資料録（レポート）に記載する。資料録（レポート）は必ず指導医がチェックし、確認と署名あるいは捺印を行う。
- ⑧ 使用した器具・器材の後片付けを行う。

臨床実習教育目標

項 目	教 育 目 標
1. 診療の基本技能	
1) 診療の態度技能	
(1) 医療面接	G I O：正確な症状把握，良好な医師・患者関係を築くために，医療面接の基礎を修得する。 S B O s：1. 歯科医師として好ましい態度で患者と家族に対応できる。 2. 患者・家族の身体的および精神的苦痛と社会的背景を理解し適切に対応できる。 3. 来院の動機と主訴を聞き取り記述できる。 4. 既往歴を聞き取り記述し，重要性を判断できる。 5. 時系列に現病歴を聞き取り記述できる。 6. プライバシーへの配慮ができる。 7. 収集した医療情報を整理し，問題点を抽出できる。
(2) 安全性への配慮と危機管理	G I O：歯科医療における安全性と危機管理について，基礎的知識を修得する。 S B O s：1. 医療事故防止のための対策について説明できる。 2. 医療事故発生時の対応法について説明できる。 3. 危機管理マニュアルに沿った対応ができる。
2) 基本的診療技能	
(1) 診査と検査技術	G I O：正しい診断を行うために，必要な診察と検査に関する知識と技能を修得する。 S B O s：1. 診察・検査によって得られた情報を記録できる。
(2) 診断・治療計画の立案	G I O：個々の患者に適した治療を行うために，基礎的な歯科疾患（歯髄・根尖（端）性歯周組織疾患・歯周疾患・齲蝕）についての診断能力を身につけ，治療計画立案の方法を修得する。 S B O s：1. 診察および検査結果から問題点を抽出できる。 2. 問題点の重要性を判定できる。 3. 診断名が推定できる。 4. 診断理由を述べることができる。 5. 診断名に対する治療法を列挙できる。 6. 治療方法に関する情報収集ができる。 7. 治療計画を立てることができる。
(3) 消毒・滅菌	G I O：歯科医療を安全に行うために，感染予防に必要な消毒・滅菌の知識と技能を修得する。 S B O s：1. Standard precautions が実施できる。 2. 手指，器具および技工物などの消毒・滅菌を説明できる。 3. 医療廃棄物を適切に扱うことができる。
(4) 診療記録等の作成	G I O：診療を進めるために，診療記録と各種指示書の作成法を身につける。 S B O s：1. 診療記録の記載ができる。 2. 処方箋の記載を説明できる。

保存科－2

項 目	教 育 目 標
2. 疾患別基本治療技能	
1) 歯・歯髄・歯周組織の疾患	
(1) 歯の硬組織疾患	G I O : 歯の硬組織疾患に関する診察・検査・診断, 治療および術後の口腔健康管理を行うために, 必要な知識, 技能および態度を修得する。 S B O s : 1. 歯の硬組織疾患における病態とその病因を説明する。 2. 歯の硬組織疾患の診断に必要な診察および検査を実施する。 3. 診察・検査結果をもとに歯の硬組織疾患を診断する。 4. 治療計画の立案ができる。 5. 治療法を選択し, その必要性と治療経過を説明する。 6. 歯の硬組織疾患に対する処置を実践する。 7. 象牙質・歯髄複合体の保護に配慮する。 8. 簡単な修復処置を行うことができる。 9. 修復処置の予後を推測し説明する。
(2) 歯周疾患	G I O : 基本的な歯周治療を行うために, 治療法の知識, 技能を修得する。 S B O s : 1. 歯周治療の流れが説明できる。 2. 主訴に対する治療法を説明できる。 3. 歯周組織検査を適切に行うことができる。 4. 予後を説明できる。 5. 治療計画の立案ができる。 6. 歯周基本治療を適切に行うことができる。 7. 再評価を行うことができる。 8. 歯周外科処置の治療術式を説明できる。 9. メインテナンス・SPT について説明できる。 10. 歯周病と歯周治療後の治療について病理組織学的に説明できる。
(3) 歯髄・根尖（端）性歯周組織疾患	G I O : 基本的な歯内療法処置を行うための治療法の知識, 技能を修得する。 S B O s : 1. 各疾患を診断するための診査法が実施できる。 2. 治療計画の立案ができる。 3. 疾患の概要と治療方針・術式・治療経過を患者に説明できる。 4. 基本的な根管処置操作の前準備ができる。 5. 基本的な根管処置操作が実施できる。 6. 治療後の治療について病理組織学的に説明できる。
2) 歯科疾患の予防・管理	
(1) 口腔保健指導と予防処置	G I O : セルフケア支援のための口腔保健指導と口腔保健状態を向上させるための予防処置（プロフェッショナルケア）を行うために必要な知識, 技能, および態度を修得する。 S B O s : 1. 歯科疾患の発症因子を推定できる。 2. 口腔の健康度やリスクの評価できる。 3. セルフケアのための動機づけができる。 4. 口腔清掃を指導できる。 5. 間食指導を実践できる。 6. 定期的な健康管理の重要性を説明できる。 7. PMTC を実践できる。 8. 定期的な予防処置の重要性を説明できる。
(2) 口臭の診断と対応	G I O : 口臭を訴える患者への診断とその対応を行うために, 必要な知識, 技能および態度を修得する。 S B O s : 1. 口臭の客観的測定法を説明できる。 2. 口臭の客観的測定法を実践できる。 3. 口臭の官能検査法を実践できる。 4. 口臭検査の結果をもとに診断できる。 5. 口臭検査の診断に基づいてその対応を説明できる。 6. 口臭の発生メカニズムについて説明できる。 7. 口臭の予防法について説明できる。 8. 口臭を訴える患者への精神的苦痛に配慮できる。

保存科－3

臨床実習実施方法

項 目	実習期間	SBOs No	方 法	場 所	時間(分)	評価方法	リクアイメント項目
医療面接：1-1) A4：A30-(1)	前期	1～7	臨床実習	診療室	－	観察記録	必修ケース
	後期	1～7	臨床実習	診療室	－	観察記録	必修ケース
安全性への配慮と危機管理：1-1) -(2)	前期	1～3	講義・実習	講義室	40	観察記録	講義・ 実地ケース
	後期	1～3	臨床実習	診療室	－	観察記録	実地ケース
診査と検査技術： 1-2) -(1)	－	1	「診断・治療計画の立案」の 項に含む	－	－	－	－
診断・治療計画の 立案：1-2) -(2)	前・後期	1～7	講義	講義室	270	ディスカッション	講義
	前期	1～7	臨床実習	診療室	－	レポート・ディス カッション・試験	必修ケース
	後期	1～7	臨床実習	診療室	－	レポート・ディス カッション・試験	必修ケース
消毒：1-2) -(3)	前期	1～3	臨床実習	診療室	－	観察記録	実地ケース・ その他のケース
	後期	1～3	臨床実習	診療室	－	観察記録	実地ケース・ その他のケース
	後期	1～3	示説・ロールプレイ	診療室	120	観察記録	相互実習
診療記録等の作成： 1-2) -(4)	前・後期	1, 2	講義	講義室	90	レポート・ ケーススタディ	講義
	前期	1, 2	臨床実習	診療室	－	レポート	必修ケース・ その他のケース・ 実地ケース
	後期	1, 2	臨床実習	診療室	－	レポート	必修ケース・ その他のケース・ 実地ケース
歯の硬組織疾患： 2-1) -(1)	前期	1～9	臨床実習	診療室	－	レポート・デ ィスカッション 観察記録	必修ケース・ 実地ケース
	後期	1～9	臨床実習	診療室	－	レポート・デ ィスカッション 観察記録	必修ケース・ 実地ケース
	後期	6	示説・ロールプレイ	診療室	120	観察記録	実地ケース・ 模型実習
歯周疾患： 2-1) -(2)	前期	1～10	講義	講義室	220	試験	講義
		1～10	臨床実習	診療室	－	レポート・デ ィスカッション 観察記録・試験	必修ケース・ 実地ケース
	後期	1～10	講義	講義室	140	試験	講義
		1～10	臨床実習	診療室	－	レポート・デ ィスカッション 観察記録・試験	必修ケース・ 実地ケース
		6	示説・ロールプレイ	診療室	120	観察記録	相互実習
歯髄・根尖（端）性 歯周組織疾患： 2-1) -(3)	前期	1～6	講義	講義室	220	試験	講義
		1～6	臨床実習	診療室	－	レポート・デ ィスカッション 観察記録・試験	必修ケース・ 実地ケース
	後期	1～6	講義	講義室	140	試験	講義
		1～6	臨床実習	診療室	－	レポート・デ ィスカッション 観察記録・試験	必修ケース・ 実地ケース
		4	示説・ロールプレイ	診療室	120	観察記録	模型実習
口腔保健指導と予防 処置：2-2) -(1)	前期	1～8	講義	講義室	60	試験	講義
口臭の診断と対応： 2-2) -(2)	後期	1～8	講義	講義室	40	試験	講義
		1～8	示説・ロールプレイ	診療室	30	レポート・試験	相互実習 (口臭測定)
基礎系知識の確認： 2-1) -(2)	前期	2-1)～2)	講義	講義室	30	－	講義
	後期	2-1)～2)	課題作成	講義室	30	－	課題作成

合格基準

全必修項目を満たさなければならない。

試験に合格しなければならない。（試験とは口頭試問および客観試験をいう。）

保存科－４

臨床実習リクアイヤメント

項 目	実施期間	G I O	SBOs No	学習方法	媒 体	評価方法	ケース数
●レポート& ディスカッション							
歯内療法学 ケースディスカッション	前・後期	1-2)-(2) 2-1)-(3)	1～7 1～5	ディスカッション	症例	自己評価・ ディスカッション	1
歯周病療法 ケースディスカッション	前・後期	1-2)-(2) 2-1)-(2)	1～7 1～10	ディスカッション	症例	自己評価・ ディスカッション	1
保存修復学 ケースディスカッション	前・後期	1-2)-(2) 2-1)-(2)	1～7 1～10	ディスカッション	症例	自己評価・ ディスカッション	1
●必修ケース							
医療面接・治療計画立案	前・後期	1-1)-(1)	1～7	臨床実習	患者	レポート・ 観察記録	3
		1-2)-(1)	1				
		1-2)-(2)	1～7				
		1-2)-(4)	1				
		2-1)-(1)	1～4				
		2-1)-(2)	1～5				
		2-1)-(3)	1～3				
歯髄鎮痛消炎療法・裏層・ 覆髄・レジンコーティング	前・後期	1-2)-(4) 2-1)-(1)	1 5	臨床実習	患者	レポート・ 観察記録	2
歯髄除去療法 (歯髄切断法、抜髄法)	前・後期	1-2)-(4) 2-1)-(3)	1 4, 5	臨床実習	患者	レポート・ 観察記録	2
根管処置 (形成・清掃・消毒)	前・後期	1-2)-(4) 2-1)-(3)	1 4, 5	臨床実習	患者	レポート・ 観察記録	2
根管充填	前・後期	1-2)-(4) 2-1)-(3)	1 5	臨床実習	患者	レポート・ 観察記録	2
顕微鏡処置	前・後期	2-1)-(3)	4, 5	臨床実習	患者	レポート・ 観察記録	2
歯周検査	前・後期	1-2)-(3) 2-1)-(2)	1 1～3, 7	臨床実習	患者	レポート・ 観察記録	2
治療計画の立案	前・後期	1-2)-(4) 2-1)-(2)	1 5	臨床実習	患者	レポート・ 観察記録	2
ブラッシング指導	前・後期	1-2)-(4) 2-2)-(1)	1 3, 4	臨床実習	患者	レポート・ 観察記録	2
スケーリング・ルートプレー ニング／歯周ポケット搔爬	前・後期	1-2)-(4) 2-1)-(2)	1 6	臨床実習	患者	レポート・ 観察記録	2
歯周外科	前・後期	1-2)-(4) 2-1)-(2)	1, 2 8	臨床実習	患者	レポート・ 観察記録	2
メンテナンス／SPT	前・後期	1-2)-(4) 2-1)-(2) 2-2)-(1)	1 9, 10 1～6	臨床実習	患者	レポート・ 観察記録	2
直接修復	前・後期	2-1)-(1)	5～9	臨床実習	患者	レポート・ 観察記録	2
間接修復	前・後期	2-1)-(1)	5～9	臨床実習	患者	レポート・ 観察記録	2
象牙質知覚過敏処置	前・後期	2-1)-(1)	5～9	臨床実習	患者	レポート・ 観察記録	2

保存科－5

項 目	実施期間	G I O	SBOs No.	学習方法	媒 体	評価方法	ケース数
● 実地ケース							
根管清掃	前・後期	1-1)-(2)	1～3	臨床実習 (模型実習)	患者	レポート・ 観察記録	1
		1-2)-(1)	1				
		1-2)-(3)	1～3				
		1-2)-(4)	1				
		2-1)-(3)	3～5				
根管充填	前・後期	1-2)-(1)	1	臨床実習 (模型実習)	患者	レポート・ 観察記録	1
		1-2)-(3)	1～3				
		1-2)-(4)	1				
		2-1)-(3)	3～5				
歯周検査	前・後期	1-2)-(4)	1	臨床実習 (相互実習)	患者	レポート・ 観察記録	1
		2-1)-(2)	3				
ブラッシング指導	前・後期	1-2)-(4)	1	臨床実習 (相互実習)	患者	レポート・ 観察記録	1
		2-2)-(1)	3, 4				
スケーリング・ ルートプレーニング	前・後期	1-1)-(2)	1～3	臨床実習 (相互実習)	患者	レポート・ 観察記録	1
		1-2)-(1)	1				
		1-2)-(3)	1～3				
		1-2)-(4)	1				
		2-1)-(2)	3, 6, 7				
成形修復	前・後期	1-2)-(2)	1～7	臨床実習 (模型実習)	患者	レポート・ 観察記録	1
		2-1)-(1)	1～9				

※合格基準：満たされなかった項目については模型実習もしくは相互実習をもって代替する。

保存科－6

前期臨床実習評価方法

G I O：保存治療に関する基本的な知識、技能を理解する。

評価項目	評価法	評価割合	実施時期	評価時期
1. 臨床実習ケース				
1) 必修ケース	レポート（観察記録）	10%	前期	同上
2) 累積ケース数	診療参加ケース数	10%	前期	同上
2. 実地ケース※				
1) 根管清掃、根管充填	レポート、観察記録	10%	前・後期	同上
2) 歯周検査、ブラッシング指導、スケーリング・ルートプレーニング	レポート、観察記録	10%	前・後期	同上
3) 成形修復	レポート、観察記録	10%	前・後期	同上
3. 試験成績	客観試験	20%	前期	前期臨床実習判定時
	口頭試問	20%	前期	同上
4. 出席		10%	前期	同上
総合評価		100%		

※実地ケースに関しては各分野より、一つ以上実地ケースを行うこと。

歯周療法学の実地ケースに関しては治療の順番に応じて学ぶため、歯周検査より始めることを推奨する。

1. 各項目の評価点数（前期）

1) 臨床実習ケース：

① 必修ケース

評価基準：A = 3点、B = 2点、C = 1点、D = 0点

A：診療内容の記載およびレポート内容が把握できた。

B：指導下にできた。=担当医の指導の下で診療内容記載およびレポート内容が把握できた。

C：再三の指導下にできた。

D：全くできなかった。

行ったレポートケースの総数×3を分母として10点満点に換算し、その累積点数を評価点数の合計で割った値を評価点数とする。

② 累積ケース数

各ケース数を分母として10点満点に換算し、各ケースの累積ケース数を必修ケース数で割った値を評価点数とする。

必修ケースが0の場合は補講を行い、1ケースとする。

2) 実地ケース：

① レポート（実地ケース臨床実習帳）

評価対象：術前・術後レポート

評価基準：A = 10点、B = 8点、C = 7点、D = 5点

② 観察記録：できた = 3点、指導下にできた = 2点、できなかった = 0点とし、各観察記録の評価項目数×3点を分母とした割合を、10点満点に換算して算出する。

但し、実地ケースを行えず補習を行った場合は、無条件に評価点数を4点とする。

3) 試験成績：客観試験および口頭試問の結果の平均点（10点満点）とする。

2. 合格判定（前期）

評価項目をすべて実施した上で総合評価が67%以上でなければならない。

また、期間日数の2割を成績の10%相当に換算し、欠席日数に応じた点数を減点する。

1) 必修ケース：各ケースの評価点数の平均が6.7点以上でなければならない。

2) 実地ケース：すべてのケースを満たさなければならない。

3) 試験成績が合格基準に達していなければならない。

保存科－ 7

後期臨床実習評価方法

G I O：基本的な保存治療を行うための、知識、態度および技能を修得する。

評価項目	評価法	評価割合	実施時期	評価時期
1. 臨床実習ケース				
1) 必修ケース	レポート（観察記録）	10%	後期	同上
2) 累積ケース数	診療参加ケース数	10%	後期	同上
2. 実地ケース				
1) 根管清掃, 根管充填	レポート, 観察記録	10%	前・後期	同上
2) 歯周検査, ブラッシング指導, スケーリング・ルートプレーニング	レポート, 観察記録	10%	前・後期	同上
3) 成形修復	レポート, 観察記録	10%	前・後期	同上
3. 試験成績	客観試験	20%	後期	後期臨床実習判定時
	口頭試問	20%	後期	同上
4. 出席		10%	後期	同上
総合評価		100%		

※実地ケースに関しては前期に行えなかった実習内容を行う。

1. 各項目の評価点数（後期）

1) 臨床実習ケース；

① 必修ケース

評価基準；A = 4 点, B = 3 点, C = 2 点, D = 1 点

A：診療内容の記載およびレポート内容が把握できた。

B：指導下にできた。＝担当医の指導の下で診療内容記載およびレポート内容が把握できた。

C：再三の指導下にできた。

D：全くできなかった。

但し、医療面接は、観察記録も評価内容に入れることとする。

行ったレポートケースの総数×3を分母として10点満点に換算し、評価点数の合計で割った値を評価点数とする。

② 累積ケース数

各ケース数を分母として10点満点に換算し、各ケースの累積ケース数を必修ケース数で割った値を評価点数とする。

必修ケースが0の場合は補講を行い、1ケースとする。

2) 実地ケース；

① レポート（実地ケース臨床実習帳）

評価対象；術前・術後レポート

評価基準；A = 10点, B = 8 点, C = 7 点, D = 5 点

② 観察記録＝基準は前期2) ②に準じる。

但し、実地ケースを行えず補習を行った場合は、無条件に評価点数を4点とする。

3) 試験成績；客観試験および口頭試問の結果の平均点（10点満点）とする。

2. 合格判定（後期）

評価項目をすべて実施した上で総合評価が67%以上でなければならない。

また、期間日数の2割を成績の10%相当に換算し、欠席日数に応じた点数を減点する。

1) 必修ケース；各ケースの評価点数の平均が6.7点以上でなければならない。

2) 実地ケース；すべてのケースを満たさなければならない。

3) 試験成績が合格基準に達していなければならない。

補綴科

「卒前臨床実習のガイドライン」

- ① 立案した治療計画や、装着予定の製作物などは事前に指導医（学生インストラクター）に提示して確認を受ける。
- ② 受け持ち患者さんに対する当日の治療内容と必要な器具・材料の確認。
- ③ 患者さんを診療室に案内し、ユニットに座ってもらう。
- ④ 当日の患者さんの状態、検査結果、治療計画・治療内容について指導医とディスカッションを行い、フィードバックを受ける。
- ⑤ 治療計画に沿って診療を行う。診療終了時に指導医の確認を受ける。
- ⑥ 指導医とともに患者さんへの病態の説明に参加する。
- ⑦ 使用した器具・材料の後片付けを行う。

臨床実習教育目標

項 目	教 育 目 標
1. 診療の基本技能	
1) 診療の態度技能	
(1) 医療面接	G I O：正確な症状把握，良好な医師・患者関係を築くために医療面接の基礎を修得する。 S B O s：1. 歯科医師がとる好ましい態度で患者と家族に対応できる。 2. 患者・家族の身体的および精神的苦痛と社会的背景を理解し適切に対応できる。 3. 来院の動機と主訴を聞き取り，記述ができる。 4. 既往歴を聞き取り記述し，重要性を判断できる。 5. 時系列に現病歴を聞き取り，記述ができる。 6. プライバシーへの配慮ができる。 7. 収集した医療情報を整理し，問題点を抽出できる。
(2) 安全性への配慮と危機管理	G I O：歯科医療における安全性と危機管理について基礎的知識を修得する。 S B O s：1. 医療事故防止のための対策について説明できる。 2. 医療事故発生時の対応法について説明できる。 3. 危機管理マニュアルに沿った対応ができる。
2) 基本的診療技能	
(1) 診察と検査技術	G I O：正しい診断を行うために，必要な診察と検査に関する知識と技能を修得する。 S B O s：1. 診察と検査によって得られた情報を記録できる。 2. 他科・医科との対診の必要性を判断できる。
(2) 診断・治療計画の立案	G I O：個々の患者に適した治療を行うために，基礎的な歯科疾患についての診断能力を身につけ，治療計画立案の方法を修得する。 S B O s：1. 診察および検査結果から問題点を抽出できる。 2. 問題点の重要性を判定できる。 3. 診断名を推定できる。 4. 診断理由を述べることができる。 5. 診断名に対する治療法を列挙できる。 6. 治療方法に関する情報収集ができる。 7. 治療計画を立てることができる。
(3) 消毒・滅菌	G I O：歯科医療を安全に行うために，感染予防に必要な消毒・滅菌の知識と技能を修得する。 S B O s：1. standard precautions を実施できる。 2. 手指，器具および技工物などの消毒・滅菌を実施できる。 3. 補綴関連の処置に関わる器材等の準備ができる。 4. 補綴関連の処置に関わる器材等の整理ができる。 5. 補綴関連の処置に関わる器材等の廃棄ができる。
(4) 指示書等の作成	G I O：診療を進めるために，診療記録と各種指示書の作成法を身につける。 S B O s：1. 診療記録の記載ができる。 2. 技工指示書の内容を説明できる。

補綴科－2

項 目	教 育 目 標
2. 疾患別基本治療技能	
1) 咬合・咀嚼障害	
(1) 歯質・歯の欠損	G I O：歯質・歯の欠損のために、固定性補綴装置についての基本的な知識、技術を修得する。 S B O s：1. 提示された症例に対して、歯質・歯の欠損のための治療方針を述べることができる。 2. 単純な固定性補綴装置の処置を行うことができる。 3. 単純な症例の処置前、後の保健指導ができる。 4. マネキンを使用して特定の歯冠修復処置を行うことができる。
(2) 歯の欠損	G I O：歯の欠損の治療のために、可撤性義歯についての基本的な知識、技術を修得する。 S B O s：1. 提示された症例に対して義歯の設計の基本方針を述べることができる。 2. 提示された症例に対して診療手順を述べることができる。 3. 適切な印象採得を行うことができる。 4. 正確な咬合採得を行うことができる。 5. 試適・装着を行うことができる。 6. 義歯の取り扱い方法、残存歯の清掃方法を患者に指導できる。 7. 装着後の変化への対応方法を述べることができる。
2) 歯科技工技能	
(1) 歯冠補綴装置の作製	G I O：安定した咬合が得られる症例の歯質の欠損に対する治療を行うために、歯冠補綴装置の技工技能を修得する。 S B O s：1. 適切な個人トレーを作製できる。 2. 適切な作業用模型を作製できる。 3. 採得された咬合関係を正確に咬合器に再現できる。 4. 咬合に調和した蝋型作製ができる。 5. 適切な鑄造操作ができる。 6. 咬合器上で適切な歯冠補綴装置を仕上げることができる。
(2) 可撤性義歯の作製	G I O：提示された症例の歯の欠損に対する治療を行うために、可撤性義歯の技工技能を修得する。 S B O s：1. 適切な個人トレーの設計ができる。 2. 適切な個人トレーの作製ができる。 3. 適切な作業用模型の作製ができる。 4. 適切な咬合床の設計ができる。 5. 適切な咬合床の作製ができる。 6. 採得された咬合関係を正確に咬合器に再現できる。 7. 適切な支台装置、連結装置の設計ができる。 8. 適切な支台装置、連結装置の作製ができる。 9. 咬合に調和した人工歯の排列ができる。 10. 適切な重合、掘り出し、研磨ができる。

補綴科－3

臨床実習実施方法

項 目	実習期間	SBOs No.	方 法	場 所	時間(分)	評価方法	リクアイメント項目
医療面接： 1-1)-(1)	前期	1～7	講義	水道橋：講義室	60	観察記録	臨床講義
		1～7	臨床実習	水道橋：診療室	－	観察記録	予診
	後期	1～7	臨床実習	水道橋：診療室	－	観察記録	患者担当時
安全性への配慮と 危機管理： 1-1)-(2)	前期	1～3	講義・実習・ シミュレーション実習	水道橋：診療室、 講義室 外部ラボ	20 (講義)	観察記録	自験ケース シミュレーション実習
	後期	1～3	臨床実習	水道橋：診療室	－	観察記録	自験ケース シミュレーション実習
診察と検査技術： 1-2)-(1)	前期	1～2	臨床実習	水道橋：診療室	－	観察記録 レポート	一般担当ケース 自験ケース 口腔機能検査・ 咬合検査実習
	後期	1～2	臨床実習・相互実習	水道橋：診療室	90 (講義)	観察記録 レポート	一般担当ケース 自験ケース 口腔衛生状態評価実習
診断・治療計画の 立案： 1-2)-(2)	前期	1～7	講義・臨床実習	水道橋：診療室、 講義室	90 (講義)	レポート	一般担当ケース 自験ケース
	後期	1～7	講義・臨床実習・ 相互実習	水道橋：診療室、 講義室	90 (講義)	レポート	一般担当ケース 自験ケース カメラ実習
消毒・滅菌： 1-2)-(3)	前期	1～5	講義・臨床実習	水道橋：診療室、 講義室	45 (講義)	－	一般担当ケース 自験ケース
	後期	1～5	講義・臨床実習	水道橋：診療室、 講義室	45 (講義)	－	一般担当ケース 自験ケース
指示書等の作成： 1-2)-(4)	前期	1～2	臨床実習	水道橋：診療室、 講義室	45 (講義)	観察記録	一般担当ケース
	後期	1～2	臨床実習・ 基礎系複合講義	水道橋：診療室、 講義室	60 (講義)	観察記録	一般担当ケース 基礎系複合講義
歯質・歯の欠損： 2-1)-(1)	前期	1～4	臨床講義・臨床実習・ シミュレーション実習	水道橋：診療室、 講義室 外部ラボ	60 (講義)	観察記録 レポート 口頭試問	シミュレーション実習 一般担当ケース 自験ケース
	後期	1～4	臨床講義・臨床実習・ テーマディスカッション	水道橋：診療室、 講義室 外部ラボ	60 (講義)	観察記録 レポート 口頭試問	テーマディスカッション 一般担当ケース 自験ケース
歯の欠損： 2-1)-(2)	前期	1～7	臨床講義・臨床実習・ シミュレーション実習	水道橋：診療室、 講義室 外部ラボ	120 (講義)	観察記録 レポート 口頭試問	シミュレーション実習 一般担当ケース 自験ケース 咬合器調整実習
	後期	1～7	臨床講義・臨床実習・ 相互実習 ケーススタディ・ テーマディスカッション	水道橋：診療室、 講義室 外部ラボ	120 (講義)	観察記録 レポート 口頭試問	テーマディスカッション 一般担当ケース 自験ケース 局部床義歯設計実習

補綴科－ 4

項 目	実習期間	SBOs No.	方 法	場 所	時間(分)	評価方法	リクアイメント項目
歯冠補綴装置の作製: 2-2)-(1)	前期	1～10	講義・技工操作	水道橋：学生ラボ	120 (講義)	観察記録 レポート 口頭試問	自験ケース
	後期	1～10	講義・技工操作	水道橋：学生ラボ	120 (講義)	観察記録 レポート 口頭試問	自験ケース
可撤性義歯の作製: 2-2)-(2)	前期	1～10	講義・技工操作	水道橋：学生ラボ	120 (講義)	観察記録 レポート	自験ケース 咬合器調整実習
	後期	1～10	講義・技工操作	水道橋：学生ラボ	120 (講義)	観察記録 レポート	自験ケース 局部床義歯設計実習

補綴科－5

臨床実習リクアイヤメント

リクアイヤメント	実施期間	G I O	SBOs	学習方法	媒 体	評価方法
●ディスカッション						
・テーマディスカッション (有床義歯症例)	後期	2-1)-(2)	1～2	スモールグループ ディスカッション	レポート	レポート
・テーマディスカッション (クラウンブリッジ症例)	後期	2-1)-(1)	1, 3	スモールグループ ディスカッション	レポート	レポート
・ポートフォリオディス カッション	前・後期	全て	全て	スモールグループ ディスカッション	ポートフォリオ	観察記録
●自験ケース						
・有床義歯症例	前期	2-1)-(2) 2-2)-(2)	5 9	臨床実習 ケーススタディ	患者	観察記録 レポート
・クラウンブリッジ症例	前期	2-1)-(1) 2-2)-(2)	2 6	臨床実習 ケーススタディ	患者	観察記録 レポート
・有床義歯症例	後期	2-1)-(2) 2-2)-(2)	1～7 1～10	臨床実習 ケーススタディ	患者	観察記録 レポート
・クラウンブリッジ症例	後期	2-1)-(1) 2-2)-(1)	1～3 1～6	臨床実習 ケーススタディ	患者	観察記録 レポート
●一般担当ケース						
・総義歯	前・後期	2-1)-(2) 2-2)-(2)	1, 2, 6 1～6	臨床実習 ケーススタディ	患者	観察記録 レポート
・局部床義歯	前・後期	2-1)-(2) 2-2)-(2)	1, 2, 6 1～5	臨床実習 ケーススタディ	患者	観察記録 レポート
・ブリッジ	前・後期	2-1)-(1) 2-2)-(1)	1, 3 1	臨床実習 ケーススタディ	患者	観察記録 レポート
・前歯部歯冠補綴	前・後期	2-1)-(1) 2-2)-(1)	1～3 1	臨床実習 ケーススタディ	患者	観察記録 レポート
・臼歯部歯冠補綴	前・後期	2-1)-(1) 2-2)-(1)	1～3 1	臨床実習 ケーススタディ	患者	観察記録 レポート
・有床義歯症例の術後管理 およびその他	前・後期	2-1)-(2)	1, 6, 7	臨床実習 ケーススタディ	患者	観察記録 レポート
・クラウンブリッジの術後 管理およびその他	前・後期	2-1)-(1)	1, 3	臨床実習 ケーススタディ	患者	観察記録 レポート
●相互実習・シミュレーション実習						
・口腔機能検査・咬合検査実習	前期	2-1)-(1) 2-1)-(2)	1 3	講義 相互実習	学生	観察記録
・シミュレーション実習 (支台歯形成実習)	前期	1-1)-(2) 2-1)-(1)	1, 2 1, 4	シミュレーション	マネキン	観察記録
・咬合器調整実習	前期	2-1)-(2) 2-2)-(2)	1 7	ケーススタディ	模型	観察記録
・口腔衛生状態評価実習	後期	1-2)-(1) 1-2)-(2)	1 1～2	講義 相互実習	学生	観察記録
・審美補綴における資料 採取実習	後期	1-2)-(1) 1-2)-(2)	1 1～2	講義 相互実習	学生	観察記録
・局部床義歯設計実習	後期	1-2)-(1) 1-2)-(2) 1-2)-(3) 2-1)-(1) 2-2)-(1) 2-2)-(2)	1 1～2 1～5 3 3 3	講義 相互実習	学生	観察記録
●その他のケース						
・客観試験	前期	2-1)-(1) 2-1)-(2)	1 1	客観試験		客観試験
	後期	2-1)-(1) 2-1)-(2)	1 1	客観試験		客観試験
・口頭試問	前期	2-1)-(1) 2-1)-(2)	1 1～7	口頭試問		口頭試問
	後期	2-1)-(1) 2-1)-(2)	1 1～7	口頭試問		口頭試問
・臨床講義	前期	1-2)-(4) 2-1)-(1) 2-1)-(2) 2-2)-(1) 2-2)-(2)	1 1～5 1～7	講義		客観試験
	後期	1-2)-(4) 2-1)-(1) 2-1)-(2) 2-2)-(1) 2-2)-(2)	1 1～5 1～7	講義		客観試験

補綴科－6

リクアイヤメント	実施期間	G I O	S B O s	学習方法	媒 体	評価方法
・基礎系複合講義	前・後期	1-2)-(4)	1, 2	講義		観察記録
		2-1)-(2)	4			
		2-2)-(1)	3～6			
		2-2)-(2)	6, 8, 10			

補綴科－ 7

臨床実習評価基準

評価項目	評価方法	評価割合
前期試験成績点	客観試験・口頭試験	25%
後期試験成績点	客観試験・口頭試験	25%
自験点	レポート・観察記録	25%
一般担当点	レポート・観察記録・ケース数	25%
総合点		100%

<合格基準>

次の各項を満たしたものを合格とする。

- ①総合点が6.7以上であること。
- ②前期試験成績点が6.7以上であること。
- ③後期試験成績点が6.7以上であること。
- ④指定ケースがすべて終了していること。
- ⑤自験ケースがすべて終了していること。
- ⑥一般担当ケースが基準症例数以上であること。
- ⑦相互実習をすべて履修していること。
- ⑧テーマディスカッションをすべて履修していること。

<備考>

1. 見学必須ケース・自験準備ケース

通年で下記の区分につき、それぞれ指定症例数以上の見学・ディスカッションを必須とする。

- 1) 有床義歯補綴症例
 - ①精密印象（筋圧形成）
 - ②咬合採得
 - ③試適
 - ④装着，調整
 - ⑤修理
 - ⑥顎顔面欠損補綴治療
- 2) クラウンブリッジ症例
 - ①支台歯形成
 - ②精密印象
 - ③咬合採得
 - ④試適，調整
 - ⑤合着
 - ⑥クラウン（CAD/CAM）
- 3) 一般
 - ①舌圧検査
 - ②顎口腔機能検査

2. 自験ケース

通年で下記の区分につき、それぞれ指定症例数以上を実施する。

- 1) 共通項目
 - ①概形印象採得
 - ②研究用模型製作
 - ③咬合床製作
 - ④診断と治療計画立案
 - ⑤口腔・顔面の写真撮影
 - ⑥技工指示書の作成
 - ⑦咬合検査
 - ⑧咀嚼能率検査
- 2) 有床義歯症例
 - ①個人トレー製作
 - ②筋圧形成・最終印象

補綴科－ 8

- ③作業用模型製作
- ④局部床義歯の設計
- ⑤咬合採得・咬合器調整
- ⑥人工歯選択
- ⑦ろう義歯試適
- ⑧装着
- ⑨装着時の患者指導
- ⑩メンテナンス
- ⑪義歯修理

3) クラウンブリッジ症例

- ①個人トレー製作
- ②支台築造
- ③支台歯形成
- ④ブリッジ支台歯形成
- ⑤プロビジョナルクラウン製作
- ⑥印象採得
- ⑦咬合採得
- ⑧作業用模型製作
- ⑨色調選択
- ⑩装着
- ⑪装着時の患者指導
- ⑫メンテナンス

3. 相互実習・シミュレーション実習・ディスカッション

下記の受講を必須とする。

1) 前期（水道橋）

- ①口腔機能検査・咬合検査実習
- ②支台歯形成実習
- ③咬合器調整実習
- ④ポートフォリオディスカッション

2) 後期（水道橋）

- ①口腔衛生状態評価実習
- ②審美補綴における資料採得実習（カメラ実習）
- ③局部床義歯設計実習
- ④ポートフォリオディスカッション

3) 通年（水道橋）

テーマディスカッション

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅰ－①）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

I. 一般 ①口腔・顔面の写真撮影

GIO：歯の欠損の治療のために，基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：口腔・顔面の写真撮影ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 口腔・顔面の試料採取について説明ができる					
1) 口腔・顔面の写真撮影の目的について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 口腔・顔面の写真撮影ができる					
1) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
2) 口腔・顔面の写真撮影ができる	5	4	3	2	1
3) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感を感じさせないように診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅰ－②）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅰ. 一般 ②咬合検査

GIO：歯の欠損の治療のために，基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：咬合検査ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 咬合検査について説明ができる					
1) 咬合検査の目的について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 咬合検査の種類について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 咬合検査ができる					
1) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
2) 咬合検査ができる	5	4	3	2	1
3) 患者に対して咬合検査の結果について説明ができる	5	4	3	2	1
4) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感を感じさせないように診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ (I-③)

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

I. 一般 ③咀嚼能率検査

GIO：歯の欠損の治療のために，基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：咀嚼能率検査ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 咀嚼能率検査について説明ができる					
1) 咀嚼能率検査の目的について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 咀嚼能率検査の種類について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 咀嚼能率検査ができる					
1) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
2) 咀嚼能率検査ができる	5	4	3	2	1
3) 患者に対して咀嚼能率検査の結果について説明ができる	5	4	3	2	1
4) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感を感じさせないように診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－①）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ①概形印象採得

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：概形印象採得ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にできた 3：指導医の介助下にできた
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 概形印象採得について説明ができる					
1) 概形印象に用いる材料について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 概形印象採得の目的について説明ができる	5	4	3	2	1
3) 概形印象採得の術式について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 概形印象採得ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 適切なトレーの選択ができる	5	4	3	2	1
3) トレーの試適ができる	5	4	3	2	1
4) 必要に応じてトレーの調整ができる	5	4	3	2	1
5) 印象材の練和ができる	5	4	3	2	1
6) 印象採得ができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感を感じさせないように診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－②）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ②研究用模型製作

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：研究用模型の製作ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 研究用模型について説明ができる					
1) 石膏の種類について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 研究用模型の製作方法について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 研究用模型の製作ができる					
1) 適切な石膏の選択ができる	5	4	3	2	1
2) 印象に石膏を注ぐことができる	5	4	3	2	1
3) 模型を適切な形にトリミングができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－③）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ③診断と治療計画立案

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：診断ができる

SBOs：治療計画の立案ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 診断ができる					
1) 歯列欠損の診断方法について説明ができる	5	4	3	2	1
2. 歯列欠損の治療計画について説明ができる					
1) 歯列欠損の分類について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 可撤性義歯の治療計画立案の手順について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

3. 診断ができる					
1) 歯列欠損の診断ができる	5	4	3	2	1
4. 治療計画の立案ができる					
1) 症例に応じた治療計画の立案ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－④）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ④個人トレー製作

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：個人トレーの製作ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 個人トレーについて説明ができる					
1) 個人トレーの設計について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 個人トレーの製作方法について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 個人トレーの製作ができる					
1) 個人トレーの設計ができる	5	4	3	2	1
2) 適切なリリーフができる	5	4	3	2	1
3) トレー用レジンを適切な厚みに圧接ができる	5	4	3	2	1
4) 辺縁の長さを適切に修正ができる	5	4	3	2	1
5) 把柄を適切な形態に固着ができる	5	4	3	2	1
6) 口腔内での使用に適した形態に修正ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－⑤）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ⑤筋圧形成・最終印象採得

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：可撤性義歯の印象採得ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にできた 3：指導医の介助下にできた
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 印象採得の目的について説明ができる	5	4	3	2	1
2. 筋圧形成の目的と術式について説明ができる					
1) 上顎の筋圧形成					
①前歯部の筋圧形成の術式について説明ができる	5	4	3	2	1
②臼歯部の筋圧形成の術式について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 下顎の筋圧形成					
①頬側の筋圧形成の術式について説明ができる	5	4	3	2	1
②唇側の筋圧形成の術式について説明ができる	5	4	3	2	1
③舌側の筋圧形成の術式について説明ができる	5	4	3	2	1
3) 最終印象採得の術式について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

3. 印象採得ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
3) 各個トレーの点検，調整ができる	5	4	3	2	1
4) 支台歯に対する印象前処置ができる	5	4	3	2	1
5) モデリングコンパウンドを用いて筋圧形成ができる	5	4	3	2	1
6) 支台歯に対してブロックアウトができる	5	4	3	2	1
7) シリコーンゴム印象材で最終印象採得ができる	5	4	3	2	1
8) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

4. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感を感じさせないように診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－⑥）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ⑥作業用模型製作

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：作業用模型の製作ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：指導医への説明

1. 作業用模型について説明ができる					
1) 作業用模型の製作方法について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 作業用模型の製作ができる					
1) 印象周囲にビーディングができる	5	4	3	2	1
2) ビーディング周囲に適切な高さにボクシングができる	5	4	3	2	1
3) 石膏を適切な厚みに注入ができる	5	4	3	2	1
4) 模型周囲を適切な形態にトリミングができる	5	4	3	2	1
5) 模型基底面を適切な厚みまでトリミングができる	5	4	3	2	1
6) 模型を破損しないように注意して取り扱うことができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－⑦）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ⑦局部床義歯の設計

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：局部床義歯の設計ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 局部床義歯設計の基本について説明ができる					
1) 支台歯の選択について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 義歯床外形の決定について説明ができる	5	4	3	2	1
3) 大連結子の選択について説明ができる	5	4	3	2	1
4) 支台装置の選択について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. サベイヤを用いてサベイニングができる					
1) 着脱方向の決定ができる	5	4	3	2	1
2) サベイラインの描記ができる	5	4	3	2	1
3) 鉤尖の位置決定ができる	5	4	3	2	1
4) アンダーカット量の計測ができる	5	4	3	2	1
5) 等高点・平行線の記入ができる	5	4	3	2	1
3. 義歯の構成要素の記入ができる					
1) レストの記入ができる	5	4	3	2	1
2) 義歯床外形線の記入ができる	5	4	3	2	1
3) 小連結子・隣接面板の記入ができる	5	4	3	2	1
4) 大連結子の記入ができる	5	4	3	2	1
5) 支台装置の記入ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－⑧）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ⑧咬合床製作

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：咬合床の製作ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：指導医への説明

1. 咬合床について説明ができる					
1) 咬合床の構成要素について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 咬合床の材料について説明ができる	5	4	3	2	1
3) 咬合床の使用目的について説明ができる	5	4	3	2	1
4) 咬合床の製作方法について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 作業用模型を製作することができる					
1) 模型に設計線の記入ができる	5	4	3	2	1
2) 基礎床の製作ができる	5	4	3	2	1
3) 適切な位置にワックスの圧接ができる	5	4	3	2	1
4) 適切な高さにワックスの修正ができる	5	4	3	2	1
5) 適切な幅にワックスの修正ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－⑨）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ⑨咬合採得・咬合器調整

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：可撤性義歯の咬合採得ができる

SBOs：咬合器調整ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にできた 3：指導医の介助下にできた
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 咬合採得の術式について説明ができる					
1) 歯の欠損形態に応じた咬合採得の術式について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 人工歯選択の方法について説明ができる	5	4	3	2	1
3) 咬合器の調節法について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 咬合採得ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 症例に即した方法や材料の選択ができる	5	4	3	2	1
3) 咬合床の上唇部の豊隆の修正ができる	5	4	3	2	1
4) 咬合平面の設定ができる	5	4	3	2	1
5) フェイスボウレジストレーションができる	5	4	3	2	1
6) 中心咬合位の採得ができる					
①垂直的顎間関係の決定ができる	5	4	3	2	1
②水平的顎間関係の決定ができる	5	4	3	2	1
③表示線の記入ができる	5	4	3	2	1
④上下顎咬合床の固定ができる	5	4	3	2	1
7) 前方チェックバイトの採得ができる	5	4	3	2	1
8) 咬合器の調節ができる	5	4	3	2	1
9) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感を感じさせないように診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－⑩）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ⑩人工歯選択

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：適切な人工歯選択ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にできた 3：指導医の介助下にできた
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 人工歯選択の方法について説明ができる					
1) 人工歯の種類について説明ができる	5	4	3	2	1
2. 人工歯選択方法について説明ができる					
1) 前歯部人工歯の選択基準について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 臼歯部人工歯の選択基準について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

3. 人工歯選択ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 症例に即した人工歯の種類の選択ができる	5	4	3	2	1
3) 前歯部人工歯の形態の選択ができる	5	4	3	2	1
4) 前歯部人工歯の色調の選択ができる	5	4	3	2	1
5) 前歯部人工歯の大きさの選択ができる	5	4	3	2	1
6) 臼歯部人工歯の形態の選択ができる	5	4	3	2	1
7) 臼歯部人工歯の色調の選択ができる	5	4	3	2	1
8) 臼歯部人工歯の大きさの選択ができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

4. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感を感じさせないように診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－⑪）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ⑪技工指示書の作成

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：技工指示書の作成ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：指導医への説明

1. 技工指示書について説明ができる					
1) 技工指示書の法的根拠について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 技工指示書の記載内容の列挙ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 技工指示書の作成ができる					
1) 義歯の設計の記入ができる	5	4	3	2	1
2) 人工歯の種類を記入ができる	5	4	3	2	1
3) 使用する金属の指示ができる	5	4	3	2	1
4) 付与する咬合様式の指示ができる	5	4	3	2	1
5) 法律で定められた内容の記載ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－⑫）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ⑫試適

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：蠟義歯の試適ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にてできた 3：指導医の介助下にてできた
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 蠟義歯の試適の手順について説明ができる					
1) 試適の確認事項について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 蠟義歯の試適ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
3) 支台装置や大連結子の適合状態について確認ができる	5	4	3	2	1
4) 床縁の範囲の確認ができる	5	4	3	2	1
5) 前歯の人工歯選択と排列の確認ができる	5	4	3	2	1
6) 臼歯の人工歯選択と排列の確認ができる	5	4	3	2	1
7) 咬合平面の高さが適正かどうか確認ができる	5	4	3	2	1
8) 咬合関係の確認ができる	5	4	3	2	1
9) 発音機能を検査し，必要に応じて調整ができる	5	4	3	2	1
10) 自然感の確認ができる	5	4	3	2	1
11) 感覚に問題がないか確認ができる	5	4	3	2	1
12) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－⑬）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ⑬装着

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：可撤性義歯の装着ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にできた 3：指導医の介助下にできた
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 義歯の装着の手順について説明ができる					
1) 装着時の確認の手順について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 義歯の調整方法について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 義歯の装着ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
3) 装着前に小突起などの除去，アンダーカット部の調整ができる	5	4	3	2	1
4) 構成要素の適合性の確認ができる	5	4	3	2	1
5) 義歯床辺縁部の適合性を確認し，必要に応じて調整ができる	5	4	3	2	1
6) 義歯床粘膜面の適合性を確認し，必要に応じて調整ができる	5	4	3	2	1
7) 咬合接触状態の検査を行い，必要に応じて調整ができる	5	4	3	2	1
8) 咬合時の粘膜適合状態を確認し，必要に応じて調整ができる	5	4	3	2	1
9) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－⑭）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ⑭装着時の患者指導

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：義歯の取り扱い方法，残存歯の清掃方法について患者に指導ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 義歯の装着時の患者指導ができる					
1) 義歯の取り扱い方法について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 残存歯の清掃方法について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 義歯の取り扱い方法，残存歯の清掃方法について指導ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 着脱方法の指導ができる	5	4	3	2	1
3) 義歯および口腔内の清掃法について指導ができる	5	4	3	2	1
4) 義歯の取り扱い方法について指導ができる	5	4	3	2	1
5) 義歯への慣れ等について指導ができる	5	4	3	2	1
6) リコールとメンテナンスについて指導ができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－⑮）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ⑮メンテナンス

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：可撤性義歯装着後の変化に対応ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 残存組織および義歯の経年的変化について説明ができる					
1) 残存組織の経年的変化について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 義歯の経年的変化について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 残存組織の術後管理ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
3) 顎堤・粘膜の変化への対応ができる					
①床粘膜適合試験を行うことができる	5	4	3	2	1
②必要に応じて調整ができる	5	4	3	2	1
4) 支台歯の変化への対応ができる					
①歯周検査ができる	5	4	3	2	1
5) 義歯床辺縁部の適合性を確認し，必要に応じて調整ができる	5	4	3	2	1
3. 義歯の変化に対して対応ができる					
1) 咬合関係の変化に対応ができる					
①咬合接触検査ができる	5	4	3	2	1
②必要に応じて調整ができる	5	4	3	2	1
2) 支台装置の変化に対応ができる					
①必要に応じて調整ができる	5	4	3	2	1
3) 清掃状態について指導ができる	5	4	3	2	1
4) 破損や変形部位の有無について確認ができる	5	4	3	2	1
5) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

4. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅱ－⑩）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅱ. 有床義歯症例 ⑩義歯修理

GIO：歯の欠損の治療のために，可撤性義歯についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：総義歯の術後管理のため，床破折の修理についての技能を修得する

SBOs：総義歯の術後管理のため，人工歯脱離の修理についての知識，技能を修得する

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 義歯破損の原因について説明ができる	5	4	3	2	1
2. 義歯修理の方法について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

3. 床破折の修理ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
3) 床の修理ができる	5	4	3	2	1
4) 支台装置の修理ができる	5	4	3	2	1
5) 人工歯の修理ができる	5	4	3	2	1
6) 増歯，増床ができる	5	4	3	2	1
7) 装着し，調整ができる	5	4	3	2	1
4. 人工歯脱離の修理ができる					
1) 人工歯の修理ができる	5	4	3	2	1
2) 人工歯脱離の原因の除去ができる	5	4	3	2	1
3) 装着し，調整ができる	5	4	3	2	1
4) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

5. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－①）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ①概形印象採得

GIO：歯の欠損治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：概形印象採得ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にできた 3：指導医の介助下にできた
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 概形印象採得について説明ができる					
1) 概形印象に用いる材料について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 概形印象採得の目的について説明ができる	5	4	3	2	1
3) 概形印象採得の術式について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 概形印象採得ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 適切なトレーの選択ができる	5	4	3	2	1
3) トレーの試適ができる	5	4	3	2	1
4) 必要に応じてトレーの調整ができる	5	4	3	2	1
5) 印象材の練和ができる	5	4	3	2	1
6) 印象採得ができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感を感じさせないように診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－②）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ②研究用模型製作

GIO：歯の欠損治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：研究用模型の製作ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 研究用模型について説明ができる					
1) 石膏の種類について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 研究用模型の製作方法について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 研究用模型の製作ができる					
1) 適切な石膏の選択ができる	5	4	3	2	1
2) 印象に石膏を注ぐことができる	5	4	3	2	1
3) 模型を適切な形にトリミングができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－③）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ③診断と治療計画立案

GIO：歯の欠損治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：診断をすることができる

SBOs：治療計画の立案ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 診断ができる					
1) 歯列欠損の診断方法について説明ができる	5	4	3	2	1
2. 歯列欠損の治療計画について説明ができる					
1) 歯列欠損の分類について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 固定性補綴装置の治療計画立案の手順について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

3. 診断ができる					
1) 歯列欠損の診断ができる	5	4	3	2	1
4. 治療計画の立案ができる					
1) 症例に応じた治療計画の立案ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－④）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ④個人トレー製作

GIO：歯質・歯の欠損の治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：個人トレーの製作ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 個人トレーについて説明ができる					
1) 個人トレーの目的について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 個人トレーの設計について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 個人トレーの製作ができる					
1) 個人トレーの設計ができる	5	4	3	2	1
2) 適切なリリーフができる	5	4	3	2	1
3) トレー用レジンを適切な厚みに圧接ができる	5	4	3	2	1
4) 辺縁の長さを適切に修整ができる	5	4	3	2	1
5) 把柄を適切な形態に固着ができる	5	4	3	2	1
6) 口腔内での使用に適した形態に修整ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－⑤）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ⑤支台築造

GIO：歯質・歯の欠損の治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：支台築造ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 支台築造について説明ができる					
1) 支台築造の意義と目的について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 支台築造の種類とその特徴について説明ができる	5	4	3	2	1
3) 支台築造の手技について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 支台築造ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
3) 適切なポジショニングをとることができる	5	4	3	2	1
4) 支台築造のための支台菌形成ができる	5	4	3	2	1
5-1) 直接法による支台築造ができる	5	4	3	2	1
5-2) 間接法による支台築造ができる	5	4	3	2	1
6) 医療安全に配慮した片付けを行うことができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－⑥）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ⑥支台歯形成

GIO：歯質・歯の欠損の治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：クラウンの支台歯形成ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 支台歯形成について説明ができる					
1) クラウンの種類とその特徴について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 支台歯形成の目的と該当する各要件について説明ができる	5	4	3	2	1
3) 支台歯形成の手順について説明ができる（切削器具など）	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 適切な支台歯形成ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
3) 除痛ができる	5	4	3	2	1
4) 歯肉圧排ができる	5	4	3	2	1
5) 適切なバー・ポイントの選択ができる	5	4	3	2	1
6) 歯髄／築造体に配慮した支台歯形成ができる	5	4	3	2	1
7) 適切な支台歯形態に形成ができる	5	4	3	2	1
8) 隣在歯や辺縁歯肉に配慮した支台歯形成ができる	5	4	3	2	1
9) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－⑦）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ⑦プロビジョナルレストレーション

GIO：歯質・歯の欠損の治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：プロビジョナルクラウンの製作ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. プロビジョナルクラウンの製作方法について説明ができる					
1) 直接法について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 間接法について説明ができる	5	4	3	2	1
2. プロビジョナルクラウンの試適・仮着について説明ができる					
1) 試適・仮着時の注意事項について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 装着の手順について説明ができる	5	4	3	2	1
3) 仮着用セメントについて説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

3. プロビジョナルクラウンの製作ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
3) 支台歯に対する前処置ができる	5	4	3	2	1
4) マージン部の調整ができる	5	4	3	2	1
5) 適切な歯冠形態を整えることができる	5	4	3	2	1
6) 適切な咬合接触の付与ができる	5	4	3	2	1
7) 研磨ができる	5	4	3	2	1
8) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

4. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－⑧）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ⑧最終印象採得

GIO：歯質・歯の欠損の治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：クラウンブリッジの印象採得ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. クラウンブリッジにおける印象採得について説明ができる					
1) 印象材料の種類とその特徴について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 印象採得の手順について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. クラウンブリッジにおける印象採得を行うことができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
3) 印象採得の前処置（歯肉圧排など）ができる	5	4	3	2	1
4) 印象採得ができる	5	4	3	2	1
5) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－⑨）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ⑨咬合採得

GIO：歯質・歯の欠損の治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：クラウンブリッジの咬合採得ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にできた 3：指導医の介助下にできた
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 咬合採得の手順について説明ができる					
1) 有歯顎の下顎位について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 咬合採得時の患者の姿勢について説明ができる	5	4	3	2	1
3) 咬合採得の手順について説明ができる	5	4	3	2	1
4) 咬合器付着までの流れについて説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 咬合採得ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
3) 適切なポジショニングをとることができる	5	4	3	2	1
4) 咬合採得ができる	5	4	3	2	1
5) 咬頭嵌合位の確認ができる	5	4	3	2	1
6) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－⑩）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ⑩作業用模型作製

GIO：歯質・歯の欠損の治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：作業用模型の作製ができる

SBOs：採得された咬合関係を咬合器に再現することができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にできた 3：指導医の介助下にできた
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 作業用模型作製手順について説明ができる					
1) 作業用模型の種類とその特徴について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 作業用模型の製作手技について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 作業用模型の製作ができる					
1) 適切な石膏操作ができる	5	4	3	2	1
2) 咬合器に模型の付着ができる	5	4	3	2	1
3) 菌型の適切な取扱い／分割ができる	5	4	3	2	1
4) 菌型のトリミングができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－⑪）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ⑪色調選択

GIO：歯質・歯の欠損の治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：色調選択ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 色調の評価法について説明ができる	5	4	3	2	1
2. 色調選択の術式について説明ができる					
1) 色調選択の手順について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 色調選択に適切な環境について説明ができる	5	4	3	2	1
3) 色調選択に適切な姿勢について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

3. 色調選択ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
3) 正しい光源下でみることができる	5	4	3	2	1
4) シェードガイドの使用ができる	5	4	3	2	1
5) 正しい姿勢で見ることができる	5	4	3	2	1
6) 色調選択ができる	5	4	3	2	1
7) 患者に最終確認ができる	5	4	3	2	1
8) 色調の記録ができる	5	4	3	2	1
9) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

4. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－⑫）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ⑫技工指示書の作成

GIO：歯の欠損治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：技工指示書の作成ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：指導医への説明

1. 技工指示書について説明ができる					
1) 技工指示書の法的根拠について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 技工指示書の記載内容の列挙ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 技工指示書の作成ができる					
1) 固定性補綴装置の設計の記入ができる	5	4	3	2	1
2) 補綴材料の種類の記入ができる	5	4	3	2	1
3) 選択した色調情報の指示ができる	5	4	3	2	1
4) 付与する咬合様式の指示ができる	5	4	3	2	1
5) 法律で定められた内容の記載ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－⑬）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ⑬装着

GIO：歯質・歯の欠損の治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：クラウンブリッジの試適・装着ができる

症例の概要

--

診断・治療方針の概要

--

今回行った治療内容・手順

--

使用した器材・材料

--

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にできた 3：指導医の介助下にできた
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. クラウンブリッジの装着について説明ができる					
1) 装着操作と手技について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 合着材料の種類やその特徴について説明ができる	5	4	3	2	1
3) 自験で使用する合着材料の選択理由について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. クラウンブリッジの装着ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
3) プロビジョナルクラウン／ブリッジの除去，歯面清掃ができる	5	4	3	2	1
4) 補綴装置の隣接面の調整と確認ができる	5	4	3	2	1
5) 補綴装置の辺縁適合状態の調整と確認ができる	5	4	3	2	1
6) ブリッジのポンティック基底面形態の調整と確認ができる	5	4	3	2	1
7) 補綴装置の咬合状態の調整と確認ができる	5	4	3	2	1
8) 合着・接着に関連した操作ができる	5	4	3	2	1
9) 余剰セメントの除去ができる	5	4	3	2	1
10) 最終装着状態の確認ができる	5	4	3	2	1
11) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－⑭）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ⑭装着時の患者指導

GIO：歯質・歯の欠損の治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：クラウンブリッジ装着時の患者指導ができる

SBOs：残存歯の清掃方法について患者に指導ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にした 3：指導医の介助下にした
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. 装着時の患者指導について説明ができる					
1) 装着時の患者指導の必要性について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 装着時の患者指導項目とその概要について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

2. 装着時の患者指導ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 装着後の諸症状に対する対応について説明ができる	5	4	3	2	1
3) 刷掃指導ができる	5	4	3	2	1
4) 刷掃補助器具を説明することができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

3. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－⑮）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ⑮メンテナンス

GIO：歯質・歯の欠損の治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：メンテナンスができる

症例の概要

--

診断・治療方針の概要

--

今回行った治療内容・手順

--

使用した器材・材料

--

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にできた 3：指導医の介助下にできた
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. クラウンブリッジにおけるメンテナンスの必要性について説明ができる					
1) 補綴装置管理の必要性について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 定期的リコールの必要性について説明ができる	5	4	3	2	1
2. クラウンブリッジにおけるメンテナンスについて説明ができる					
1) 術後管理のチェック項目について説明ができる	5	4	3	2	1
2) 補綴物のプラークコントロールについて説明ができる	5	4	3	2	1
3) SPT (Supportive Periodontal Therapy) について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

3. メインテナンスができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
3) 補綴装置の適合状態の検査ができる	5	4	3	2	1
4) 口腔衛生状態の診察ができる	5	4	3	2	1
5) 病状が安定しているか判断ができる	5	4	3	2	1
6) 咬合機能障害の有無を診察ができる	5	4	3	2	1
7) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

4. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

東京歯科大学 臨床実習 補綴科ポートフォリオ（Ⅲ－⑬）

学生番号： 氏名： 実施日： 年 月 日

Ⅲ. クラウンブリッジ症例 ⑬ブリッジ支台歯形成

GIO：歯質・歯の欠損の治療のために，固定性補綴装置についての基本的な知識，技能および態度を修得する

SBOs：ブリッジの支台歯形成ができる

症例の概要

診断・治療方針の概要

今回行った治療内容・手順

使用した器材・材料

自己評価

5：できた 4：一部指導医の介助下にできた 3：指導医の介助下にできた
2：ほとんどできなかった 1：できなかった

領域：知識 LS：術前レポート，指導医への説明

1. ブリッジにおける支台歯形成について説明ができる	5	4	3	2	1
2. ブリッジにおける支台歯形成の手順について説明ができる	5	4	3	2	1

領域：技能 LS：自験

3. ブリッジの支台歯形成ができる					
1) これから行う診療内容について患者に説明ができる	5	4	3	2	1
2) 必要な器材の準備ができる	5	4	3	2	1
3) 除痛ができる	5	4	3	2	1
4) 歯肉圧排ができる	5	4	3	2	1
5) 適切なバー・ポイントの選択ができる	5	4	3	2	1
6) 歯髄／築造体に配慮した支台歯形成ができる	5	4	3	2	1
7) 適切な支台歯形態に形成ができる	5	4	3	2	1
8) 隣在歯や辺縁歯肉に配慮した支台歯形成ができる	5	4	3	2	1
9) 支台歯の平行性の測定ができる	5	4	3	2	1
10) 医療安全に配慮した片付けができる	5	4	3	2	1

領域：態度 LS：自験

4. 患者に配慮した診療ができる					
1) 患者の安全に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1
2) 患者の態度，要求を把握し，不快感に配慮しながら診療ができる	5	4	3	2	1
3) 清潔，不潔に配慮した診療ができる	5	4	3	2	1

振り返り（自由記載）

よかった点：	反省点・今後の課題：

フィードバック（指導医記載欄）

指導医コメント：	指導医概略評価
	5 4 3 2 1
	指導医印：

口腔外科

「卒前臨床実習のガイドライン」

- ① 立案した治療計画や、装着予定の製作物などは事前に指導医（学生インストラクター）に提示して確認を受ける。
- ② 受け持ち患者さんに対する当日の治療内容と必要な器具・器材の確認。
- ③ 患者を診療室に誘導・案内し、ユニットに案内する。
- ④ 当日の患者さんの状態，検査結果，治療計画・治療内容について指導医とディスカッションを行い，フィードバックを受ける。
- ⑤ 治療計画に沿って診療を行う。診療終了時に指導医の確認を受ける。
- ⑥ 指導医とともに患者さんへの病態の説明に参加する。
- ⑦ 患者さんの診療終了時には，当日行った治療内容につき詳しく資料録（ケースレポート）に記載する。資料録（ケースレポート）は必ず指導医がチェックし，確認と署名あるいは捺印を行う。
- ⑧ 使用した器具・器材の後片付けを行う。

口腔外科－ 1

臨床実習教育目標

項 目	教 育 目 標
1. 診療の基本技能	
1) 医療面接	G I O：正確な症状把握，良好な医師・患者関係を築くために，医療面接の基本を修得する。 S B O s：1 患者と術者の良好な位置関係がとれる。 2 挨拶など社会人としての対応がとれる。 3 患者家族の身体的および精神的苦痛と社会的背景を理解し，適切に対応できる。 4 歯科医師がとる好ましい態度で患者と家族に対応できる。 5 診療の流れを説明できる。 6 治療方針の説明，再診の約束ができる。 7 患者の訴えの中から主訴を的確に捉えることができる。 8 的確な病歴聴取（現病歴，既往歴，家族歴等）を行い，必要な部分を抽出できる。
2) 基本的診療	
(1) 基本的診査	G I O：口腔・顎・顔面の診査，診断，治療を行うために，基本的な診査の知識，技能を身につける。 S B O s：1 患者の訴えの中から主訴を的確に捉えることができる。 2 的確な病歴聴取（現病歴，既往歴，家族歴等）を行い，必要な部分を抽出できる。 3 視診，触診，打診等から患者の現症を的確に捉えることができる。 4 基本的診査方法と診断との関連を説明できる。 5 歯科疾患と全身との関連を理解し説明できる。 6 歯科ユニットを的確に操作できる。 7 基本的診査により必要な検査を想定できる。 8 診査に必要な器材を準備できる。 9 適切に血圧を測定できる。 10 他科・医科との対診の必要性を判断し，照会状の記載について説明できる。 11 各種の臨床検査によって得られた情報を解釈し説明できる。
(2) 診療器具の管理・扱い方	G I O：診療器具の安全で正しい管理，扱いができるようになるために，基本的な知識，技能を身に付ける。 S B O s：1 使用する診療器具を準備できる。 2 診療器具の正しい扱いが出来る。 3 診療器具の使用によって起こる危険性を説明できる。 4 診療器具使用後のかたづけ，保守・管理ができる。
(3) 診療書類の作成（診療録，処方箋）	G I O：歯科医師法および関連法規に基づいた診療書類を正しく作成するために，基本的な知識を身に付ける。 S B O s：1 劇薬・毒薬および麻薬等の表示と保管について説明できる。 2 処方箋の記載法を説明できる。 3 対診書，返書の記載法を説明できる。 4 患者からの情報を整理し，必要な事項を記録することができる。
(4) 手術後管理	G I O：手術後管理を正しく理解し実践するために，基本的な知識を身に付ける。 S B O s：1 術後の生体反応について説明できる。 2 術後経過と病態生理の関係について説明できる。 3 創傷の治癒過程を説明できる。 4 術後の観察ポイントを説明できる。 5 術後の偶発症，継発症を列挙し，それに対する処置法を説明できる。

口腔外科－ 2

項 目	教 育 目 標
(5) 抜歯	G I O：適切かつ安全に抜歯を行うために，基本的な知識，態度，抜歯法を身に付ける。 S B O s：1 滅菌と消毒を説明できる。 2 抜歯の適応症について説明できる。 3 抜歯の禁忌症について説明できる。 4 抜歯時の注意すべき事項を説明できる。 5 抜歯に関する注意すべき事項，継発症に対する処置法を説明できる。 6 症例に応じた器具を選択できる。 7 患者の不安を緩和し，適切な声かけを行うことができる。 8 抜歯部位に合わせて患者の体位を設定できる。 9 術者の正しい姿勢・ポジションをとることができる。 10 適切な抜歯手順を説明できる。 11 抜歯手順を適切に実施できる。 12 器具を正確に操作できる。 13 縫合法の種類を列挙し，その適応を説明できる。 14 症例に応じた縫合を行うことができる。 15 適切な抜糸ができる。 16 抜歯後の注意を行うことができる。 17 埋伏智歯の抜歯法を説明できる。 18 難抜歯の介補を円滑に行うことができる。
2. 疾患別基本知識	G I O：与えられた症例に対しの確な診査，診断，治療を行うために必要な知識を修得する。 S B O s：1 全身状態を評価できる。 2 鑑別疾患を診断できる。 3 診断に必要な検査方法を選択できる。 4 画像検査において所見を述べることができる。 5 得られた情報から診断し，治療法を列挙できる。 6 適切な治療方針を立案できる。

口腔外科－ 3

臨床実習実施方法

水道橋・千葉

項 目	実習期間	SBOs No.	方 法	場 所	時間(分)	評価方法	リクアイメント項目
医療面接： 1-1)-(1)	前期	1～8	ロールプレイ	診療室	60		医療面接
	前期・後期	1～8	臨床実習	診療室	60	チェックシート	医療面接実習
基本的診査： 1-2)-(1)	前期・後期	1～11	臨床講義	診療室	60	チェックシート	基本的診査実習
診療器具の管理・扱い方： 1-2)-(2)	前期	3	臨床講義	診療室	90	客観テスト	
診療書類の作成： 1-2)-(3)	前期	1～4	臨床講義	6階会議室	120	客観テスト	
	前期	2～4	ケーススタディ	実習室		シミュレーションテスト	診療書類の作成、シミュレーション
縫合・抜糸	前期	14, 15	臨床実習	診療室	10	チェックシート	縫合・抜糸
抜歯	後期	1～17	講義	6階会議室	360	客観テスト	
	後期	6～16	ロールプレイ	外来			抜歯実習
疾患別基本知識：2	前期	1～6	講義	6階会議室	30	客観テスト	
	前期	1～6	臨床実習(手術見学)	病棟	180	ポートフォリオ・口頭試問	手術見学
	前期	1～6	疾患別課題	自宅		ポートフォリオ・口頭試問	
	後期	1～6	臨床実習(手術参加)	病棟	180	ポートフォリオ・口頭試問	手術参加
	後期	1～6	疾患別課題	自宅		ポートフォリオ・口頭試問	

口腔外科－４

臨床実習リクワイヤメント１ 水道橋（前・後期）・千葉（前期（２日）・後期（４日））

リクアイヤメント	実施期間	G I O	SBOs	学習方法・方略	媒 体	評価方法	ケース数
必須ケース							(前期, 後期)
医療面接	前期	1-1)-(1)	1～8	ロールプレイ	学生		
	前期			臨床実習	患者	チェックシート	(1, 1)
基本的診査	前期	1-2)-(1)	1～11	臨床講義		チェックシート	(1, 1)
	後期			臨床講義		客観テスト	
診療器具の管理・扱い方	前期			臨床講義		客観テスト	
診療書類の作成	前期・後期	1-2)-(3)	1～4	臨床実習		観察記録	
	前期			ケーススタディ		シミュレーション テスト	
手術後管理	後期	1-2)-(4)	1～5	臨床実習		観察記録	
拔牙	後期	1-2)-(5)	1～18	臨床講義		客観テスト	
				ロールプレイ	マネキン		
疾患別基本知識	前期・後期			臨床講義		ポートフォリオ・ 口頭試問	

臨床実習リクワイヤメント２ 水道橋（前・後期）・千葉（後期のみ）

リクアイヤメント	実施期間	G I O	SBOs	学習方法・方略	媒 体	評価方法	ケース数
実習							
・医療面接	前期	1-1)-(1)	1～8	ロールプレイ	学生		1
	前期			臨床実習	患者	チェックシート	2
・頭頸部の診察	前期	1-2)-(1)	1～11	臨床実習	患者	チェックシート	2
・縫合	前期	1-2)-(5)	14	臨床実習		チェックシート	2
・拔牙	前期	1-2)-(5)	15	臨床実習		チェックシート	2
・拔牙	後期	1-2)-(5)	1～18	ロールプレイ	学生		1
口頭試問							
・疾患別基本知識	前・後期	2	1～6			口頭試問	
客観試験							
・疾患別基本知識	前・後期	2	1～6	臨床実習		ポートフォリオ	
・基本的診査	前期	1-2)-(1)	1～11	臨床実習		客観試験	
・診療器具の管理・扱い方	前期	1-2)-(2)	1～4	臨床実習		客観試験	
・診療書類の作成	前期	1-2)-(3)	1～4	臨床実習		客観試験	
・拔牙	後期	1-2)-(5)	1～18	臨床実習		客観試験	
・口腔内消炎手術	後期	1-2)-(6)	1～14	臨床実習		客観試験	
講義							
・疾患別基本知識	前期	1-2)-(2)	1～6	臨床講義	スライド・ プリント	客観試験・ ポートフォリオ	

口腔外科－ 5

臨床実習評価方法

前 期

評価項目	評価方法	評価割合	備 考
症例検討			
・診療書類の作成	シミュレーションテスト		
実習			
・医療面接	チェックシート		チェックシート# 1 参照
・頭頸部の診査	チェックシート		チェックシート# 3 参照
・縫合・抜糸	チェックシート		チェックシート# 2 参照
・臨床検査実習	チェックシート		チェックシート# 4 参照
ポートフォリオ		10%	
・疾患別基本知識	ポートフォリオ		
口頭試問		30%	
・疾患別基本知識	口頭試問		
客観試験		25%	
・基本的診査	客観試験		
・診療器具の管理・扱い方	客観試験		
・診療書類の作成	客観試験		
・疾患別基本知識	客観試験		
リクアイヤメント	リクアイヤメント帳	35%	
出席	出席日数		適宜評価とする。
総合評価		100%	

後 期

評価項目	評価方法	評価割合	備 考
症例検討			
・手術後管理	ケースレポート		
・疾患別基礎知識	ケースレポート		
実習			
・手術参加	ケースレポート		
・臨床検査実習	チェックシート		チェックシート# 4 参照
ポートフォリオ		10%	
・疾患別基本知識	ポートフォリオ		
口頭試問		30%	
・疾患別基本知識	口頭試問		
客観試験		25%	
・抜歯	客観試験		
・口腔内消炎手術	客観試験		
・疾患別基本知識	客観試験		
リクアイヤメント	リクアイヤメント帳	15%	
出席	出席日数		適宜評価とする。
総合評価		100%	

口腔外科－ 6

1 提出ポートフォリオの内容および評価基準

前期：学習到達目標に挙げた各項目について診断と治療に必要な知識を問う課題

後期：学習到達目標に挙げた各項目について臨床で遭遇する機会が多い症例を呈示し，それについて診断から治療に至る内容を問う課題

ポートフォリオ（前期・後期）の評価基準は以下のとおり。

- 1 点
- 2 点
- 3 点
- 4 点 課題ポートフォリオを提出している。
- 5 点 内容に誤った記載が多い。
- 6 点 内容の大部分の不足（全体の 3 割程度の内容）
- 7 点 内容の一部不足（全体の 7 割程度の内容）
- 8 点 内容は詳細に記載されているが整理されていない。
- 9 点 内容は詳細かつ整理されて記載されている。
- 10 点

2 口頭試問の内容および評価基準

前期：提出レポートの課題について問う。

後期：提出レポートの課題について則した視覚資料を呈示し，それについて診断から治療について問う。

口頭試問（前期・後期）の評価基準は以下のとおり。

- 1 点
- 2 点
- 3 点
- 4 点 課題ポートフォリオをまとめて，提出している。
- 5 点 疾患の分類，解剖，病理等の基本的事項をある程度誘導することで引き出すことができる。
- 6 点 上記のことが自力で回答できる。
ポートフォリオの課題について，誘導することで解答が得られる。
- 7 点 ポートフォリオの課題に沿った質問に対して，筋道だった妥当な解答が得られる。
- 8 点 ポートフォリオの課題に沿った質問に対して，知識の裏付けをもった解答ができる。
- 9 点 ポートフォリオの課題から派生した質問に対して，基礎科目の知識に裏付けされた解答が得られる。
- 10 点

※合格基準

全必修項目を満たさなければならない。

医 療 面 接

番 氏名

年 月 日実施

担当医

できた できない

診察にふさわしい服装，身支度ができる

☐
☐

（白衣着用の仕方，バッチ，清潔な手指，頭髮）

患者と術者の良好な位置関係がとれる

☐
☐

（椅子の距離，机の置き方，体の方向）

挨拶など社会人としての対応がとれる

☐
☐

（挨拶，相手の名前をフルネームで確認，自己紹介）

患者・家族の身体的および精神的苦痛を理解し適切に対応できる

☐
☐

（同意，共感，間を持つ，車椅子などの身体状況に応じた対応）

患者・家族の社会的背景を理解し適切に対応できる

☐
☐

（あいづち，うなづき，自由に話せる工夫，同伴者を在席させるかどうかの判断）

歯科医師がとる好ましい態度で患者と家族に対応できる

☐
☐

（確認，まとめ，患者の話を理解する）

診療の流れを説明できる

☐
☐

（言葉づかい，平易な用語，話すスピード）

縫 合 ・ 抜 糸

番 氏名

年 月 日実施

担当医

ポジションを正しくとることができる
症例に応じた方法の選択が出来た
こま結びが正しくできた

できた	できない
☐	☐
☐	☐
☐	☐

抜 糸

年 月 日実施

適切な消毒ができる
適切な抜糸ができる
適切な切断部位を選択できた
正しい剪刀の使い方ができた

できた	できない
☐	☐
☐	☐
☐	☐
☐	☐

頭 頸 部 の 診 察

番 氏名

年 月 日実施

担当医

できた できない

顎関節疾患の診断と治療に必要な筋肉の触診

ポジションを正しくとることができる

☐
☐

声かけをして触診ができる

☐
☐

下顎頭外側の触診ができる

☐
☐

咬筋の触診ができる

☐
☐

内側翼突筋の触診ができる

☐
☐

側頭筋の触診ができる

☐
☐

疾患の診断と治療に必要な筋肉，臓器の触診

ポジションを正しくとることができる

☐
☐

顔色，顔面の対象性を診査できる

☐
☐

声かけをして触診ができる

☐
☐

胸鎖乳突筋の触診ができる

☐
☐

僧帽筋の触診ができる

☐
☐

顎二腹筋の触診ができる

☐
☐

顎下腺の触診ができる

☐
☐

舌骨の触診ができる

☐
☐

乳様突起の触診ができる

☐
☐

顎下，オトガイ下リンパ筋の触診を行うことができる

☐
☐

内頸動脈，顔面動脈の触診ができる

☐
☐

診療の結果を記録し，指導医に報告できる

☐
☐

歯科麻酔科

「卒前臨床実習のガイドライン」

- ① 全身管理計画を指導医とディスカッションする。
- ② 受け持ち患者さんに対する当日の診療内容の確認，器具・器材の準備の介助を行う。
- ③ 患者さんを診療室に案内し，ユニットに座ってもらう。
- ④ 診療計画に沿って診療チームの一員として診療に参加する。
- ⑤ 指導医とともに患者さんへの病態の説明に参加する。
- ⑥ 診療内容について指導医とディスカッションする。
- ⑦ 次の患者さんがいるときは③から同様に繰り返す。

臨床実習教育目標

項 目	教 育 目 標
1. 診療の基本技能	
1) 診療の態度技能	
(1) 安全性への配慮と危機管理	G I O：歯科医療における安全性と危機管理についてその知識と態度を修得する。 S B O s：1. 歯科医療を行うにあたっての危険性を説明できる。 2. 医療事故の防止法について説明できる。 3. 医療事故防止のための対策について説明できる。 4. 医療事故発生時の対応方法について説明できる。
2) 基本的診療技能	
(1) 診察と検査技術	G I O：患者の病態を把握して正しい診察を行うために、必要な診断方法を修得する。 S B O s：1. 医科の他科との対診の必要性を判断できる。 2. 初診患者の問題点の抽出をできる。 3. 初診患者の問題点に対する対応策を立案できる。
(2) 局所麻酔	G I O：無痛治療を安全に行うために、必要な局所麻酔の知識と技能を修得する。 S B O s：1. 器具と薬剤を選択できる。 2. 提示された症例に対して必要な局所麻酔法を選択できる。 3. 提示された症例に対して必要な局所麻酔法を実施できる。 4. 効果を判定できる。 5. 合併症の予防に必要な事項を判断できる。
2. 疾患別の基本治療技能	
1) 歯顎口腔の発育異常・加齢に伴う疾患	
(1) 心身障害（児）者の歯科診療	G I O：障害者の歯科診療を行うために精神的、身体的特徴を考慮した対応方法を修得する。 S B O s：1. 障害を考慮したコミュニケーションがとれる。 2. 全身状態を評価できる。 3. 歯科治療と全身管理の方針を立案できる。
(2) 高齢者の歯科診療	G I O：高齢者の QOL の向上のために、精神的身体的特徴を考慮した基本的な対応方法を修得する。 S B O s：1. 日常生活動作の評価ができる。 2. 提示された全身管理を必要とする症例の歯科治療を説明できる。
2) 顎・口腔領域の疾患	
(1) 口腔領域の神経疾患・心因性病態	G I O：口腔領域の神経疾患・心因性病態に関する基本的な知識を修得する。 S B O s：1. 診断名を推定できる。 2. 治療方針を立案できる。
3) 全身管理および救急処置	
	G I O：安全な歯科治療を行うために、全身管理と救急処置に関する知識と技能と態度を修得する。 S B O s：1. モニタリング機器を装着できる。 2. 提示された症例のバイタルサインを得ることができる。 3. 提示された症例の全身状態を評価できる。 4. 提示された症例の全身管理法を立案できる。 5. 静脈確保を行うことができる。 6. 一次救急処置を行うことができる。

歯科麻酔科－２（水道橋）

臨床実習実施方法

項 目	実習期間	SBOs No.	方 法	場 所	時間(分)	評価方法	リクアイメント項目
安全性への配慮と危機管理： 1-1)-(1)	前期	1～4	講義	示説室	60		リスクマネジメント
診査と検査技術： 1-2)-(1)	前期	1～3	講義	示説室	90	観察記録	診査
		1～3	臨床見学	診療室			診査
局所麻酔： 1-2)-(2)	前期	1～5	講義・ロールプレイ	示説室 診療室	90	観察記録	下顎孔伝達麻酔
心身障害（児）者の 歯科診療： 2-1)-(1)	前期	1～3	臨床見学	診療室		観察記録	外来全身麻酔・鎮静
						レポート	障害者管理法計画
	後期	1～2	臨床見学	診療室		観察記録	外来全身麻酔・鎮静
						レポート	障害者管理法計画
高齢者の歯科診療： 2-1)-(1)	前期	1～2	臨床見学	診療室		観察記録	高齢者・有病者鎮静法
						レポート	高齢者・有病者管理法計画
	後期	1～2	臨床見学	診療室		観察記録	高齢者・有病者鎮静法
						レポート	高齢者・有病者管理法計画
顎・口腔領域の疾患： 2-2)-(1)	前期	1～2	臨床見学	診療室		観察記録	顎顔面領域のペインクリニック
	後期	1～2	臨床見学	診療室		観察記録	顎顔面領域のペインクリニック
						レポート	顎顔面領域のペインクリニック
全身管理および救急処置： 2-3)	前期	1	講義・ロールプレイ	示説室 診療室	90	観察記録	モニタ装着実習
		1～6	臨床見学	手術室		観察記録・レポート	手術室全身麻酔症例見学
		5	講義・ロールプレイ	示説室 診療室	90	観察記録	静脈確保実習
	後期	1～6	臨床見学	手術室		観察記録・レポート	手術室全身麻酔症例見学
		2～4	講義・ロールプレイ	示説室	90	観察記録・レポート	歯科治療中の偶発症
周術期管理	前・後期		病棟実習	病棟	60	レポート	
疾患別基本知識	前期		外来見学	診療室	60	レポート・口頭試問	
	後期		外来見学	診療室	60	レポート・口頭試問	
	前期		手術見学	病棟	180	レポート・口頭試問	
	後期		手術見学 (ガウンを着用して手術に参加する)	病棟	180	レポート・口頭試問	

歯科麻酔科－２（千葉）

臨床実習実施方法

項 目	実習期間	SBOs No.	方 法	場 所	時間(分)	評価方法	リクワイヤメント項目
心身障害（児）者の 歯科診療： 2-1)-(1)	前期	1～3	臨床見学	診療室		観察記録	外来鎮静
高齢者・有病者の歯 科診療： 2-1)-(2)	前期	1～2	臨床見学	診療室		観察記録	高齢者・有病者 の歯科診療
顎・口腔領域の疾 患： 2-2)-(1)	前期	1～2	臨床見学	診療室		観察記録	手術室全身麻酔 症例
全身管理および救急 処置： 2-3)	後期	6	講義・ロールプレイ	診療室	90	観察記録	救急蘇生法実習

歯科麻酔科－ 3

臨床実習リクワイヤメント

リクワイヤメント	実施期間	G I O	SBOs	学習方法・方略	媒 体	評価方法	ケース数
●症例検討							
・障害者管理法	前期	2-1)-(1)	1～3	臨床見学	患者	レポート	1
・高齢者・有病者管理法	前期	2-1)-(2)	1～2	臨床見学	患者	レポート	1
・手術室管理法	前・後期	2-3)	3～4	臨床見学	患者	レポート	1
・ペインクリニック	前期	2-2)-(1)	1～2	臨床見学	患者	レポート	1
●実習							
・下顎孔伝達麻酔実習	前期	1-2)-(2)	1～5	ロールプレイ	学生	観察記録	1
・モニタ装着実習	前期	2-3)	1	ロールプレイ	学生	観察記録	1
・静脈確保実習	前期	2-3)	5	ロールプレイ	学生	観察記録	1
・救急蘇生法実習	前期	2-3)	6	シミュレーション	マネキン	観察記録	1
●症例見学							
・障害者外来全身麻酔	前期	2-1)-(1)	1～3	臨床見学	患者	観察記録	1
・高齢者・有病者鎮静法	前期	2-1)-(2)	1～2	臨床見学	患者	観察記録	1
・手術室全身麻酔	前・後期	2-3)	1～6	臨床見学	患者	観察記録	1
●口頭試問	前・後期	1-1)-(1) ～2-3)					

歯科麻酔科－ 4

臨床実習評価方法

前 期

評価項目	評価方法	評価割合	備 考
●症例検討		10%	
・精神鎮静法	レポート		
・全身麻酔	レポート		
・ペインクリニック	レポート		
●実習		10%	
・下顎孔伝達麻酔実習	観察記録		
・モニタ装着実習	観察記録		
・静脈確保実習	観察記録		
・救急蘇生法実習	観察記録		
●症例見学		10%	
・精神鎮静法	観察記録		
・全身麻酔	観察記録		
・ペインクリニック	観察記録		
●口頭試問	口頭試問	70%	
総合評価	100%		

後 期

評価項目	評価方法	評価割合	備 考
●全身麻酔シミュレーション		30%	
・手術室全身麻酔	観察記録		
●口頭試問	口頭試問	70%	
総合評価	100%		

小児歯科・障害者歯科

「卒前臨床実習のガイドライン」

- ① 患者さんの状態について口腔内の診察を行い、口頭で指導医に提示し、検討する。
- ② 介補担当患者さんに対する当日の器具・器材の準備を行う。
- ③ 患者さんを診療室に案内し、ユニットに座ってもらう。
- ④ 「介補・見学ケース」は、指導医の患者さんの診療補助または見学を行う。
- ⑤ 「実地ケース」は、指導医の指示に従い診療を行い、ステップごとに指導医の確認を受ける。
- ⑥ 「実地ケース（必須項目）」は、小児歯科領域の特に重要な処置について術者として実際に行う。
- ⑦ 各ケースにおいては、指導医とともに患者さんおよび保護者への病態の説明に参加する。
- ⑧ 使用した器具・器材の後片付けを行う。

小児歯科・障害者歯科－ 1

臨床実習教育目標

項 目	教 育 目 標
1. 診療の基本技能	
1) 診療の態度技能	
(1) 医療面接	G I O：正確な症状把握，良好な医師・患者関係を築くために医療面接の基本を修得する。 S B O s：1. 歯科医師がとる好ましい態度で患者と家族に対応できる。 2. 患者・家族の身体的および精神的苦痛と社会的背景を理解し適切に対応できる。 3. 来院動機と主訴を聞き取り記述できる。 4. 既往歴を聞き取り記述し，重要性を判断できる。 5. 時系列に現病歴を聞き取り記述できる。 6. プライバシーへの配慮ができる。 7. 収集した医療情報を整理し，問題点を抽出できる。
2) 基本的診療技能	
(1) 診察と検査技術	G I O：正しい診療を行うために，必要な診察と検査に関する知識と技能を修得する。 S B O s：1. 診察によって得られた情報を記録できる。 2. 簡単な画像検査を実施できる。
(2) 診断・治療計画の立案	G I O：個々の患者に適した治療を行うために，基本的な歯科疾患についての診断能力を身に付け，治療計画立案の方法を修得する。 S B O s：1. 診療および検査結果から，問題点を抽出できる。 2. 問題点の重要度を判定できる。 3. 診断名が推定できる。 4. 診断理由を述べることができる。 5. 診断名に対する診療法を列挙できる。 6. 治療方法に関する情報収集ができる。 7. 治療計画を立てることができる。
2. 疾患別の基本治療技能	
1) 口腔の発育異常・加齢に伴う疾患	
(1) 小児の歯科疾患	G I O：口腔領域に発生する疾患や異常に対して，成長・発達を考慮した予防法と治療法の基本を修得する。 S B O s：1. 小児の心身・口腔機能の成長・発達を評価できる。 2. 小児患者の一般的対応が行える。 3. 齲蝕・歯周疾患の予防処置が実施できる。 4. 乳歯・幼若永久歯の簡単な歯冠修復が実施できる。 5. 乳歯・幼若永久歯の簡単な歯髄・根尖性歯周組織疾患の治療が実施できる。 6. 簡単な外科的処置ができる。 7. 咬合誘導装置の適切な説明ができる。 8. 口腔保健指導が実施できる。 9. 可撤式保険装置の作成ができる。
2) 歯・歯髄・歯周組織の疾患	
(1) 齲蝕	G I O：齲蝕が原因で発生した障害の回復のために，齲蝕の基礎を理解し治療法を修得する。 S B O s：1. 歯冠修復に関する治療方針，術式などを説明できる。 2. 齲窩の処置を行える。 3. 簡単な修復処置を行える。
(2) 歯髄・根尖性歯周組織疾患	G I O：基本的な歯内療法処置を行うための治療法の知識，技能を修得する。 S B O s：1. 診察と検査の実施手順を説明できる。 2. 各疾患について基本的な治療方法を説明できる。 3. 各疾患に対する治療術式・治療経過を適切に説明できる。 4. 各処置に応じて器材・薬剤を選択でき，使用法を説明できる。 5. 防湿法，除痛法，根管清掃・貼薬などの基本的操作を行うことができる。 6. 各疾患を診断するための診察と検査が実施できる。 7. 齲窩の処置や髄室開拓など基本的な切削操作が実施できる。 8. 治療後の治癒について，病理組織学的に説明できる。 9. 疾患の概要と治療方針・治療経過を患者に説明できる。

小児歯科・障害者歯科－2

項 目	教 育 目 標
3) 歯科疾患の予防・管理	
(1) 口腔保健指導	G I O：セルフ・ケアの支援のための口腔保健指導を修得する。 S B O s：1. 学習援助型の保健指導ができる。 2. セルフ・ケアのための動機づけができる。 3. 口腔清掃指導ができる。 4. 食事指導（間食指導を含む）ができる。 5. 生活習慣に関する指導ができる。 6. セルフ・ケアでのフッ化物応用の重要性を説明できる。 7. 定期的な健康管理の重要性を説明できる。
(2) 口腔疾患の予防（個人口腔保健）	G I O：口腔保健状態を向上させるための予防処置（プロフェッショナル・ケア）を修得する。 S B O s：1. 生活および保健行動の評価ができる。 2. 疾患の発病リスクを評価できる。 3. フッ化物歯面塗布ができる。 4. 窩溝填塞法が実施できる。 5. 定期的な予防処置の重要性を説明できる。
3. 障害者への基本治療技能	
1) 障害の種類と特徴および対応	
(1) 障害を有する患者への対応	G I O：各障害の身体的・心理的特徴，特徴の歯科的問題に対する知識や対応法を修得する。 S B O s：1. 各障害の種類とその身体的特徴，歯科的特徴を説明できる。 2. 各障害への対応法を説明できる。 3. 各障害を有する患者の口腔管理の方法を説明できる。

小児歯科・障害者歯科－ 3

臨床実習実施方法

項 目	実習期間	SBOs No	方 法	場 所	時間(分)	評価方法	リクアイメント項目
医療面接： 1-1)-(1)	前期	1～7	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	
	後期	1～7	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	
検査と検査技術： 1-2)-(1)	前期	1, 2	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	
	後期	1, 2	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	
診断・治療計画の立案： 1-2)-(2)	前期	1～7	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	
		1～7	講義	学生 控室	30	口頭試問	客観試験 1
	後期	1～7	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	
小児の歯科疾患： 2-1)-(1)	前期	1～8	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	実地ケース
	後期	1～8	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	実地ケース
		1～8	講義	学生 控室	30	課題発表 口頭試問	客観試験 1
齲蝕： 2-2)-(1)	前期	1～3	講義	学生 控室	60	口頭試問	
		1	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	
	後期	1～3	講義	学生 控室	30	課題発表 口頭試問	客観試験 1, 2
		1～3	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	
歯髄・根端性歯周組織疾患： 2-2)-(2)	前期	1～5	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	技術技能評価試験
		1～9	講義	学生 控室	30	客観試験 口頭試問	
		5	講義	学生 控室	120	実技試験	器材及び器具の取り扱いデモ
	後期	1～9	臨床実習	診療室		観察記録 客観試験	
		1～9	講義	学生 控室	30	課題発表 口頭試問	客観試験 1
口腔保健指導： 2-2)-(1)	前期	1～7	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	
		1～7	シミュレーション	診療室		観察記録 口頭試問	
		1～7	講義	学生 控室	30	口頭試問	
	後期	1～7	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	
		1～7	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	
口腔疾患の予防： 2-3)-(3)	前期	1～5	講義	学生 控室	30	口頭試問	
		1～5	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	
	後期	1～5	講義	学生 控室	30	課題発表 口頭試問	客観試験 1, 2
		1～5	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	
障害を有する患者への対応 3-1)-(1)	前期	1～3	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	
		1～3	講義	学生 控室	30	観察記録 口頭試問	
	後期	1～3	臨床実習	診療室		観察記録 口頭試問	
		1～3	講義	学生 控室	30	観察記録 口頭試問	

小児歯科・障害者歯科－ 4

臨床実習リクワイヤメント

リクワイヤメント	実施期間	G I O	SBOs	学習方法	媒 体	評価方法	ケース数
●見学・介補ケース							
前期		全範囲	全範囲	臨床実習	患者	観察記録 口頭試問	20
後期		全範囲	全範囲	臨床実習	患者	観察記録 口頭試問	20
●実地ケース							
前期		2-1)-(1)	1～9	臨床実習	患者	観察記録 口頭試問	2
後期		2-1)-(1)	1～9	臨床実習	患者	観察記録 口頭試問	2
●実地ケース（必須項目）							
前期		全範囲	全範囲	臨床実習	患者	観察記録 口頭試問	3
後期		全範囲	全範囲	臨床実習	患者	観察記録 口頭試問	3
●客観試験 1							
前期		1-2)-(2)	1～7			観察記録 口頭試問	1
後期		全範囲	全範囲			観察記録 口頭試問 筆記試験	2
●客観試験 2							
前期		全範囲	全範囲			筆記試験	1
●実技試験（前期）							
前期		2-2)-(2)				実技試験	1

※必須ケースは、前後期合計で3ケース以上とする。

※実地ケースは、必須項目を除き前・後期それぞれ2ケース以上とする。

※口頭試問は6.7点以上で合格とする。

小児歯科・障害者歯科－5

臨床実習評価方法（小児歯科）

評価項目	評価方法	評価割合
1. 出席点		20%
2. 見学・介補ケース		
前期	観察記録	20%
後期	観察記録	20%
3. 実地ケース		
前期	観察記録 口頭試問	10%
後期	観察記録 口頭試問	10%
4. 実地ケース（必須項目）		
前期（後期に合わせて評価する）	観察記録 口頭試問	
後期	観察記録 口頭試問	20%
5. 客観試験 1		
前期	課題発表 口頭試問	20%
後期	課題発表 口頭試問 筆記試験	30%
6. 客観試験 2		
前期	筆記試験	10%
7. 技術能力評価試験		
前期	実技試験	20%

1. 出席点

前・後期：すべて出席した場合に評価する。

2. 見学・介補ケース

(1) 内容

前・後期：学生は指導医の診療の介補あるいは見学を行い診療に参加する。

(2) 評価

介補見学合わせて20ケースを超えた部分について評価する。各患者の治療終了後、担当医からの質問に答えチェックを受けたものをケースとする。介補ケースは見学よりも高く評価する。

3. 実地ケース

(1) 内容

前・後期：学生は術者として、指導医の介補のもと、指導医の患者の診療を行う。

前・後期とも2ケースを超えた部分について評価する。

4. 実地ケース（必須項目）

(1) 内容

前・後期：小児歯科の基本的な6種類の処置や患児・保護者への説明のうち、少なくとも3種類以上について術者として実際に行う。

(2) 評価

前・後期で3種類以上処置を行い、検印をうけているかを評価する。

5. 客観試験 1

(1) 内容

前期：3～4人の学生を1グループとして、1症例の小児患者の診療計画を立案し、発表する。

後期：3～4人の学生を1グループとして、口腔内写真またはパノラマエックス線から得られる所見をまとめ発表する。

(2) 評価：前期は発表内容および内容に関する口頭試問によって評価する。後期は口頭試問または筆記試験によって評価する。6.7点以上を合格とする（10点満点）。

6. 客観試験 2

(1) 内容

前期：初日に第4学年の臨床基礎実習の内容に関する復習テスト（筆記試験）を行う。実習開始前に復習してお

小児歯科・障害者歯科－6

くこと。

(2) 評価

前・後期：6.7点以上を合格とする（10点満点）。

7. 技術技能評価試験

(1) 内容

前期：小児歯科で用いる材料，薬剤等から1課題について技術能力試験を行う。

(2) 評価

前期：実技試験を行う。6.7点以上を合格とする（10点満点）。

8. 合格判定

(1) 全項目をみたさなければならない。

(2) 客観試験および技術技能評価試験に合格しなければならない。

小児歯科・障害者歯科－ 7

臨床実習評価方法（障害者歯科）

評価項目	評価方法	評価割合
1. 見学・介補ケース		
前期または後期	観察記録 レポート 口頭試問	100%

1. 見学・介補ケース

(1) 内容

後期：障害者歯科に来院する障害を有する患児の歯科治療の介補あるいは見学を行う。

(2) 評価

障害の内容または患児の所見に関するレポートを提出する。レポートの内容について口頭試問を行う。

矯正歯科

「卒前臨床実習のガイドライン」

- ① 受け持ちチェアーの患者さんに対する当日の治療内容の確認，器具・器材の準備を行う。
- ② 患者さんを診療室に誘導し，ユニットに座ってもらう。
- ③ 当日の患者さんの状態について担当医・指導医に伝える。
- ④ 治療計画に沿った診療の介補を行う。
- ⑤ 指導医のもとで，臨床実習水準1（診査）を行う。
- ⑥ 担当医・指導医とともに患者さんへの病態の説明に参加する。
- ⑦ 使用した器具・器材の後片付けを行う。
- ⑧ 次の患者さんがいるときは②から同様に繰り返す。

矯正歯科－1

臨床実習教育目標

項 目	教 育 目 標
1. 診療の基本技能	
1) 診療の態度技能	
(1) 医療面接	G I O：正確な症状把握，良好な医師・患者関係を築くために医療面接の基礎を修得する。 S B O s：1. 歯科医師がとる好ましい態度で患者と家族に対応できる。 2. 患者・家族の身体的および精神的苦痛と社会的背景を理解し適切に対応できる。 3. 来院の動機と主訴を聞き取り記述できる。 4. 既往歴を聞き取り記述し，重要性を判断できる。 5. 時系列に現病歴を聞き取り記述できる。 6. プライバシーへの配慮ができる。 7. 収集した医療情報を整理し，問題点を抽出できる。
(2) 安全性への配慮と危機管理	G I O：歯科医療における安全性と危機管理について基礎的知識を修得する。 S B O s：1. 医療事故防止のための対策について説明できる。 2. 医療事故発生時の対応法について説明できる。 3. 危機管理マニュアルに沿った対応ができる。
2. 疾患別基本治療知識	
1) 咬合・咀嚼障害	
(1) 咬合異常	G I O：不正咬合に対する治療の必要性とその意義を理解するために基本的な診断と治療計画の立案の知識を修得する。 S B O s：1. 診断に必要な資料採取を適切に行うことができる。 2. 提示された症例の模型分析が適切に行え，歯列不正を説明できる。 3. 提示された症例のセファロ分析が適切に行え，形態的特徴を説明できる。 4. 提示された症例の Tweed 分析が適切に行え，抜歯・非抜歯を判定できる。 5. 提示された症例の診断を適切に行うことができる。 6. 提示された症例の診断結果から治療方針を立案できる。 7. 適切な矯正装置を選択できる。 8. 矯正治療の流れを説明できる。 9. 矯正治療の効果，装置の作用機序について説明できる。 10. 適切な口腔清掃指導ができる。

矯正歯科－2

臨床実習実施方法

項 目	実習期間	SBOs No.	方 法	場 所	時間(分)	評価方法	リクアイヤメント項目
医療面接： 1-1)-(1)	前期・後期	1～7	臨床見学	診療室		観察記録 レポート	予診
安全性への配慮と危機管理：1-1)-(2)	前期	1～3	講義	示説室	30	観察記録 レポート	講義
咬合異常： 2-1)-(1)	前期	1	実習	診療室	180	観察記録	セファロ撮影，印象採得， 写真撮影，診断模型作製
		2～6	講義	示説室	420	観察記録 試験	模型分析，セファロトレース， セファロ分析，Tweed分析， 総合診断，治療方針， 装置，保定，外科的矯正治療， 頭頸部解剖
		2～6	実習，発表	示説室	120	レポート 観察記録	自己症例
		7	臨床実習	診療室		観察記録 レポート	資料採取，診断，早期 治療，本格治療，保定
		8	講義	診療室	30	観察記録 試験	口腔清掃指導
		8	臨床実習	診療室		観察記録	実地ケース
	後期	2～7	講義	示説室	360	観察記録 試験	セファロ分析，Tweed分析， 総合診断，治療方針， 装置，保定，外科的矯正治療， 歯の移動の生体反応
		2～6	PBL	示説室	180	観察記録 レポート	叢生，上顎前突，下顎 前突症例
		2～6	実習	示説室		レポート	典型症例
		7	臨床実習	診療室		観察記録 レポート	資料採取，診断，早期 治療，本格治療，保定
		1,7,8	臨床実習	診療室		観察記録	実地ケース

評価 全てのリクアイヤメント項目を満たさなければならない。

*実地ケースには印象採得，口腔清掃指導，可徹式装置の装着，エッジワイズ装置の結紮，ダイレクトボンディングがあり，評価シートによる評価を受けなければならない。
試験に合格しなければならない。（試験とは口頭試問をいう。）

矯正歯科－3

臨床実習リクワイヤメント

リクワイヤメント	実施期間	G I O	SBOs	学習方法	媒 体	評価方法	ケース数
●実習							
・印象採得・写真撮影	前期	3	1～3	臨床実習	学生	観察記録	1
・セファロ撮影およびトレース	前期	3	1～3	臨床実習	学生	観察記録	1
●見学・介助ケース							
・初診	前・後期	1	1～7	臨床実習	患者	ポートフォリオ	2(各期1)
・資料採取	前・後期	2	1	臨床実習	患者	ポートフォリオ	2(各期1)
・診断・治療計画の立案	前・後期	2	6	臨床実習	患者	ポートフォリオ	2(各期1)
・早期治療	前・後期	2	7	臨床実習	患者	ポートフォリオ	16(各期8)
・本格治療	前・後期	2	7	臨床実習	患者	ポートフォリオ	16(各期8)
・保定	前・後期	2	7	臨床実習	患者	ポートフォリオ	16(各期8)
●実地ケース							
・口腔清掃指導	前・後期	2	8	臨床実習	患者	観察記録	2(各期1)
・口腔診査	前・後期	1	1, 3, 7	臨床実習	患者	観察記録	2(各期1)
●症例分析・PBL							
・自己症例	前期	2	2～7	ケーススタディ・PBL	学生	ポートフォリオ	1
・自己資料	前期	2	2～7	ケーススタディ	学生	ポートフォリオ	1
・基礎系 PBL	前期	2	2～9	ケーススタディ	学生	ポートフォリオ	2
・叢生症例	後期	2	2～9	ケーススタディ	症例スライド	ポートフォリオ	1
・上顎前突症例	後期	2	2～9	ケーススタディ	症例スライド	ポートフォリオ	1
・下顎前突症例	後期	2	2～9	ケーススタディ	症例スライド	ポートフォリオ	1
●講義							
・医療面接	前期	1	1～7	講義	スライド	口頭試問	
・矯正治療の流れ, 模型分析, トレース	前・後期	2	2	講義	スライド	口頭試問	
・セファロ分析・Tweed 分析	前・後期	2	3, 4	講義	スライド	口頭試問	
・矯正材料, 器具, 装置	前・後期	3	1～3	講義	スライド	口頭試問	
・口腔清掃指導	前・後期	2	8	講義	ビデオ	ポートフォリオ	
・症例解説 (叢生)	後期	2	2～9	PBL	スライド	口頭試問	
・症例解説 (上顎前突)	後期	2	2～9	PBL	スライド	口頭試問	
・症例解説 (下顎前突)	後期	2	2～9	PBL	スライド	口頭試問	
・症例検討会	前・後期	2	2～9	カンファレンス	スライド	口頭試問	2(各期1)
・国家試験問題実践	前・後期	2	2～9	スモールグループ討議・解説	スライド	ポートフォリオ	5

矯正歯科－４

臨床実習評価表

前期

リクアイヤメント	評価方法	評価割合	備 考
●見学・介助ケース(水道橋病院)	レポート	17%	サインカード
●見学・介助ケース		20%	
・予診	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
・資料採取	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
・診断・治療計画の立案	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
・早期治療	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
・本格治療	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
・保定	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
●実地ケース			
・資料採得	観察記録		評価シート・サインカード
・口腔清掃指導	観察記録		評価シート・サインカード
・口腔診査	観察記録		評価シート・サインカード
●症例分析・PBL		4%	
・自己症例	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
・PBL（基礎系）		2%	
・講義（水道橋）		1%	
●症例検討会	観察記録	8%	サインカード
●口頭試問	口頭試問	44%	サインカード
・国家試験問題実践	口頭試問	4%	評価シート・サインカード
総合評価		100%	

後期

リクアイヤメント	評価方法	評価割合	備 考
●見学・介助ケース		25%	
・予診	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
・資料採取	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
・診断・治療計画の立案	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
・早期治療	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
・本格治療	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
・保定	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
●実地ケース			
・口腔清掃指導	観察記録		口腔診査・評価シート・サインカード
・矯正装置調整	観察記録		口腔診査・評価シート・サインカード
●症例分析・PBL		5%	
・叢生症例	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
・上顎前突症例	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
・下顎前突症例・叢生	観察記録 ポートフォリオ		サインカード
●症例検討会	口頭試問	5%	サインカード
●口頭試問	口頭試問	55%	サインカード
・国家試験問題実践	口頭試問	5%	評価シート・サインカード
・基礎系講義	ポストテスト	5%	サインカード
総合評価		100%	

- 各項目の評価点数
 - 見学・介助ケース：
 - 実地ケース：評価シートを10点満点（前期），10点満点（後期）で評価。
 - 症例分析・チュートリアル：分析と診断および治療レポートを10点満点で評価（前期）。
 - 症例検討会：症例検討会に参加。5点満点で評価。
 - 口頭試問：前後期あわせて評価。
- 合格判定
 - 総合評価が67%以上であること。
 - 口頭試問が67%以上であること。
 - 見学・介助ケースは，必須ケース数を満たすこと（リクアイアメント参照）。

矯正歯科－5

臨床実習評価シート

学生番号：_____

氏名：_____

前期

刷掃指導	年	月	日	指導医：	評 価			
医療面接								
挨拶					4	3	2	1
患者との距離，向き					4	3	2	1
適切な言葉遣い					4	3	2	1
視線					4	3	2	1
質問の確認					4	3	2	1
刷掃指導								
ブラッシング方式					4	3	2	1
歯ブラシの持ち方					4	3	2	1
刷掃部位の順序					4	3	2	1
歯磨剤について					4	3	2	1
刷掃回数					4	3	2	1

後期

刷掃指導	年	月	日	指導医：	評 価			
医療面接								
挨拶					4	3	2	1
患者との距離，向き					4	3	2	1
適切な言葉遣い					4	3	2	1
視線					4	3	2	1
質問の確認					4	3	2	1
刷掃指導								
ブラッシング方式					4	3	2	1
歯ブラシの持ち方					4	3	2	1
刷掃部位の順序					4	3	2	1
歯磨剤について					4	3	2	1
刷掃回数					4	3	2	1

可撤式装置の調整	年	月	日	指導医：	評 価			
医療面接								
挨拶					4	3	2	1
患者との距離，向き					4	3	2	1
適切な言葉遣い					4	3	2	1
視線					4	3	2	1
質問の確認					4	3	2	1
可撤式装置調整								
プレイヤーの選択					4	3	2	1
プレイヤーの使用法					4	3	2	1
可撤式装置調整					4	3	2	1
可撤式装置試適					4	3	2	1
可撤式装置使用法の説明					4	3	2	1

矯正歯科－ 6

可撤式装置の装着	年	月	日	指導医：	評 価			
医療面接								
挨拶					4	3	2	1
患者との距離，向き					4	3	2	1
適切な言葉遣い					4	3	2	1
視線					4	3	2	1
質問の確認					4	3	2	1
可撤式装置の装着								
装置の試適					4	3	2	1
装置の着脱					4	3	2	1
装置の効果の患者への説明					4	3	2	1
装置使用時間の説明					4	3	2	1
装置着脱の指導					4	3	2	1

エッジワイズ装置の結紮(1)	年	月	日	指導医：	評 価			
医療面接								
挨拶					4	3	2	1
患者との距離，向き					4	3	2	1
適切な言葉遣い					4	3	2	1
視線					4	3	2	1
質問の確認					4	3	2	1
エッジワイズ装置の結紮（結紮線）								
プライヤーの選択					4	3	2	1
プライヤーの使用法					4	3	2	1
結紮					4	3	2	1
結紮線の切断					4	3	2	1
断端の処理					4	3	2	1

エッジワイズ装置の結紮(2)	年	月	日	指導医：	評 価			
医療面接								
挨拶					4	3	2	1
患者との距離，向き					4	3	2	1
適切な言葉遣い					4	3	2	1
視線					4	3	2	1
質問の確認					4	3	2	1
エッジワイズ装置の結紮（モジュール）								
プライヤーの選択					4	3	2	1
プライヤーの使用法					4	3	2	1
モジュールの把持					4	3	2	1
結紮					4	3	2	1
確認					4	3	2	1

放射線科

「卒前臨床実習のガイドライン」

- ① 歯科放射線学臨床実習は基本的に、本館4階放射線科の学生実習室で行う。
- ② 画像検査法については、撮影見学を通じ、医療面接、安全性への配慮と危機管理、放射線防護、検査技術、各種撮影法の特徴などについて理解を深める。
- ③ 口内法とパノラマエックス線撮影については、実際にエックス線撮影を行う。
 - (1) 前期にファントム実習で撮影手技を習得する。
 - (2) 前期で習得した手技で後期は患者撮影を行う。
- ④ 超音波検査については、後期に相互実習を行い、理解を深める。
- ⑤ 画像診断については、各検査法の知識確認のための講義、ならびに実際の症例を通じて読影報告書作成をしながら、診断法への理解を深める。
- ⑥ 画像検査オーダー実習および総合画像診断実習では、患者から得られた情報をもとに、疑われる疾患の診断に有用な画像検査の選択方法、および画像診断法を学ぶ。

放射線科－ 1

臨床実習教育目標

項 目	教 育 目 標
1. 診療の基本技能	
1) 診療の態度・技能	
(1) 医療面接	G I O : 適切な画像検査法を選択するために医療情報の聴取を行い, 検査にあたってのインフォームドコンセントを得るのに必要な医療面接の基本を習得する。 S B O s : 1. 歯科医師として好ましい態度で患者および家族に対応できる。 2. 患者の身体的および精神的苦痛と社会的背景を理解し, 適切に対応できる。 3. プライバシーの配慮ができる。 4. 面接記録を整理し, 必要な情報を抽出できる。 5. 画像検査による利益とリスクを説明し, 検査の同意を得ることができる。
(2) 安全性への配慮と危機管理	G I O : 歯科医療における安全性と危機管理に関する基本的知識を修得する。 S B O s : 1. 歯科医療を行うにあたっての危険性を説明できる。 2. 医療事故の防止方法について説明できる。 3. 医療事故防止のための対策について説明できる。 4. 医療事故発生時の対応方法について説明できる。 5. 医療管理マニュアルに沿った対応ができる。
2) 基本的診療技能	
(1) 放射線防護	G I O : 放射線の人体への影響に関する基本的知識と放射線防護の方法を習得する。 S B O s : 1. 放射線の種類と性質を説明できる。 2. 放射線の人体への影響を説明できる。 3. 放射線防護の方法を説明できる。 4. 画像検査使用機材の特徴および管理技術を説明できる。
(2) 画像検査技術	G I O : 画像検査法に関する基本的知識と技術を修得する。 S B O s : 1. 口内法とパノラマ撮影法を実施できる。 2. 歯科用デジタルエックス線撮影システムを操作できる。 3. 簡単な品質保証計画を実施できる。 4. 超音波検査を実施できる。

放射線科－2

項 目	教 育 目 標
2. 検査画像別基本技能	
1) 口内法	G I O : 口内法の画像診断に必要な基本的知識を習得する。 S B O s : 1. 口内法の画像形成原理を説明できる。 2. 口内法の種類と適応を列挙できる。 3. 口内法画像上の解剖構造を説明できる。 4. 口内法画像から異常所見を列挙できる。 5. 得られた所見から診断名を推定できる。
2) パノラマエックス線検査	G I O : パノラマエックス線写真の画像診断に必要な基本的知識を習得する。 S B O s : 1. パノラマエックス線写真画像形成原理を説明できる。 2. パノラマエックス線検査の適応を説明できる。 3. パノラマエックス線写真上の解剖構造を説明できる。 4. パノラマエックス線写真から異常所見を列挙できる。 5. 得られた所見から診断名を推定できる。
3) 頭部単純エックス線検査	G I O : 頭部単純エックス線写真の画像診断に必要な基本的知識を習得する。 S B O s : 1. 頭部単純エックス線写真の種類と適応を列挙できる。 2. 頭部単純エックス線写真上の解剖構造を説明できる。 3. 頭部単純エックス線写真から異常所見を列挙できる。 4. 得られた所見から診断名を推定できる。
4) CBCT	G I O : CBCT の画像診断に必要な基本的知識を習得する。 S B O s : 1. CBCT 画像形成原理を説明できる。 2. CBCT の適応を説明できる。 3. CBCT 画像上の解剖構造を説明できる。 4. CBCT から異常所見を列挙できる。 5. 得られた所見から診断名を推定できる。
5) CT	G I O : 単 CT の画像診断に必要な基本的知識を習得する。 S B O s : 1. CT 画像形成原理を説明できる。 2. CT 造影剤の特徴と禁忌を説明できる。 3. CT の適応を説明できる。 4. CT 画像上の解剖構造を説明できる。 5. CT から異常所見を列挙できる。 6. 得られた所見から診断名を推定できる。
6) MRI	G I O : 単純 MRI の画像診断に必要な基本的知識を習得する。 S B O s : 1. MRI の画像形成原理を説明できる。 2. MRI の適応を説明できる。 3. MRI 造影剤の特徴と禁忌を説明できる。 4. MR 画像上の解剖構造を説明できる。 5. MRI から異常所見を列挙できる。 6. 得られた所見から診断名を推定できる。
7) 超音波検査	G I O : 超音波の画像診断に必要な基本的知識を習得する。 S B O s : 1. 超音波の画像形成原理を説明できる。 2. 超音波画像の適応を説明できる。 3. 超音波画像から異常所見を列挙できる。 4. 得られた所見から診断名を推定できる。
8) 核医学検査	G I O : 核医学検査の画像診断に必要な基本的知識を習得する。 S B O s : 1. 核医学検査の画像形成原理を説明できる。 2. 核医学検査の種類と適応を列挙できる。 3. 核医学検査画像から異常所見を列挙できる。
9) 放射線治療	G I O : 放射線治療に関して必要な基本的知識を習得する。 S B O s : 1. 放射線治療の意義と目的を説明できる。 2. 放射線治療の種類と特徴を列挙できる。 3. 放射線治療の副作用 (有害事象), 予後および QOL について説明できる。 4. 治療前後の口腔管理について説明できる。

放射線科－ 3

臨床実習実施方法

項 目	実習期間	SBOs	方 法	場 所	時間(分)	評価方法	リクアイメント項目
医療面接： 1-1)-(1)	前・後期	1～5	臨床見学	診療室	—	観察記録	外来見学
安全への配慮と危機 管理： 1-1)-(2)	前・後期	1～5	臨床見学	診療室	—	観察記録	外来見学
	後期	1～5	患者撮影実習	診療室	—	観察記録	口内法患者撮影実習
	後期	1～5	患者撮影実習	診療室	—	観察記録	パノラマ患者撮影実習
放射線防護： 1-2)-(1)	前・後期	1～4	臨床見学	診療室	—	観察記録	外来見学
画像検査技術： 1-2)-(2)	前期	1～3	ファントム撮影実習	実習室	—	観察記録	口内法ファントム撮影実習
	後期	1～3	患者撮影実習	診療室	—	観察記録	口内法患者撮影実習
	後期	1～3	患者撮影実習	診療室	—	観察記録	パノラマ患者撮影実習
	後期	4	相互撮影実習	超音波検査室	90	観察記録	超音波検査相互実習
口内法： 2-1)	前期	1	ファントム撮影実習	実習室	120	観察記録	口内法ファントム撮影実習
	前・後期	1～5	臨床見学	診療室	—	観察記録	外来見学
	前・後期	2～5	症例検討会	診療室	30	観察記録	フィルムカンファレンス
	前期	1～3	講義,グループディスカッション	実習室	90	観察記録	臨床講義
	前期	1～5	ケーススタディと発表会	実習室	120	観察記録, レポート, 口頭試問	口内法読影実習
	後期	1～5	ケーススタディと発表会	実習室	120	観察記録, 口頭試問	総合画像診断実習
パノラマエックス線 検査： 2-2)	前・後期	1～4	臨床見学	診療室	—	観察記録	外来見学
	前・後期	2～4	症例検討会	診療室	30	観察記録	フィルムカンファレンス
	前期	1～3	講義,グループディスカッション	実習室	90	観察記録	臨床講義
	前期	1～4	ケーススタディと発表会	実習室	120	観察記録, レポート, 口頭試問	パノラマ読影実習
	後期	1～4	ケーススタディと発表会	実習室	120	観察記録, レポート, 口頭試問	総合画像診断実習
頭部単純エックス線 検査： 2-3)	前・後期	1～4	臨床見学	診療室	—	観察記録	外来見学
	前・後期	1～4	症例検討会	診療室	30	観察記録	フィルムカンファレンス
	前期	1, 2	講義,グループディスカッション	実習室	90	観察記録	臨床講義
	前期	1～4	ケーススタディと発表会	実習室	120	観察記録, レポート, 口頭試問	頭部単純エックス線写真読影実習
		1～4	ケーススタディと発表会	実習室	120	観察記録, 口頭試問	総合画像診断実習
CBCT： 2-4)	前・後期	1～5	臨床見学	診療室	—	観察記録	外来見学
	前・後期	2～5	症例検討会	診療室	30	観察記録	フィルムカンファレンス
	前期	1～3	講義,グループディスカッション	実習室	60	観察記録	臨床講義
	前期	1～5	ケーススタディと発表会	実習室	120	観察記録, レポート, 口頭試問	CBCT・CT 読影実習
	後期	1～5	ケーススタディと発表会	実習室	120	観察記録, 口頭試問	総合画像診断実習
CT： 2-5)	前・後期	1～4	臨床見学	診療室	—	観察記録	外来見学
	前・後期	2～6	症例検討会	診療室	30	観察記録	フィルムカンファレンス
	前期	1～4	講義,グループディスカッション	実習室	60	観察記録	臨床講義
	前期	5, 6	ケーススタディと発表会	実習室	120	観察記録, レポート, 口頭試問	CBCT・CT 読影実習
	後期	1～6	ケーススタディと発表会	実習室	120	観察記録, 口頭試問	総合画像診断実習
MRI： 2-6)	後期	1～4	講義,グループディスカッション	実習室	90	観察記録	臨床講義
	後期	1～6	ケーススタディと発表会	実習室	120	観察記録, レポート, 口頭試問	MRI 読影実習
	後期	1～6	ケーススタディと発表会	実習室	120	観察記録, 口頭試問	総合画像診断実習
超音波検査： 2-7)	前・後期	1～4	臨床見学	診療室	—	観察記録	外来見学
	前・後期	1～4	症例検討会	診療室	30	観察記録	フィルムカンファレンス
	後期	1, 2	講義,グループディスカッション	実習室	90	観察記録	臨床講義
	後期	1～4	ケーススタディと発表会	実習室	120	観察記録, 口頭試問	総合画像診断実習
核医学検査： 2-8)	後期	1, 2	講義,グループディスカッション	実習室	90	観察記録	臨床講義
	後期	1～3	ケーススタディと発表会	実習室	120	観察記録, 口頭試問	総合画像診断実習
放射線治療： 2-9)	後期	1～3	講義,グループディスカッション	実習室	90	観察記録	臨床講義

放射線科－ 4

臨床実習リクアイヤメント

リクアイヤメント	実施期間	G I O	SBOs	学習方法	媒 体	評価方法	ケース数
外来見学	前・後期	1-1)-(1) 1-1)-(2) 1-2)-(1) 2-1) 2-2) 2-3) 2-4) 2-7)	1～5 1～5 1～4 1～5 1～5 1～5 1～4 1～4	見学	患者 症例画像	観察記録	12以上
口内法ファントム撮影実習	前期	1-2)-(2) 2-1)	1～3 1	ロールプレイ	撮影ファントム	観察記録	
口内法患者撮影実習	後期	1-1)-(1) 1-1)-(2) 1-2)-(1) 1-2)-(2)	1～6 1～5 1～4 1～3	ケーススタディ	患者	観察記録	1～2
パノラマ患者撮影実習	後期	1-1)-(1) 1-1)-(2) 1-2)-(1) 1-2)-(2)	1～6 1～5 1～4 1～3	ケーススタディ	患者	観察記録	1～2
超音波検査相互実習	後期	1-2)-(2) 2-7)	4 1	ロールプレイ	患者	観察記録	
フィルムカンファレンス	前・後期	2-1) 2-2) 2-3) 2-4) 2-5) 2-7)	2～5 2～5 1～4 2～5 2～6 2～4	示説	症例画像	観察記録	1～2
画像検査オーダー実習	後期	1-1)-(1) 2-1) 2-2) 2-3) 2-4) 2-5) 2-6) 2-7) 2-8)	1～5 2 2 1 2 3 2 2 2	ロールプレイ	症例画像	観察記録	1～2
口内法読影実習	前期	2-1)	3～5	ケーススタディ	症例画像	レポート	1～2
パノラマ読影実習	前期	2-2)	3～5	ケーススタディ	症例画像	レポート	1～2
頭部単純エックス線写真読影実習	前期	2-3)	2～4	ケーススタディ	症例画像	レポート	1～2
CBCT・CT 読影実習	前期	2-4) 2-5)	3～5 3～5	ケーススタディ	症例画像	レポート	1～2
MRI 読影実習	後期	2-6)	4～6	ケーススタディ	症例画像	レポート	1～2
総合画像診断実習	後期	1-2)-(2) 2-1) 2-2) 2-3) 2-4) 2-4) 2-5) 2-5) 2-6) 2-7)	6 2～5 2～4 2～4 2～4 1～3 2～4 1～3 2～4 2～4	ロールプレイ	症例画像	口頭試問	1～2
臨床講義	前・後期	2-1) 2-2) 2-3) 2-4) 2-5) 2-6) 2-7) 2-8) 2-9)	1～3 1～3 1, 2 1～3 1～4 1～4 1, 2 1, 2 1～4	ロールプレイ	症例画像	観察記録	

放射線科－ 5

臨床実習評価方法

前期リクアイヤメント	方 法	評価割合
外来見学	観察記録	20%
口内法ファントム撮影実習	観察記録	
フィルムカンファレンス	観察記録	
講義	観察記録	
口内法読影実習	レポート	20%
パノラマ読影実習	レポート	20%
頭部単純エックス線写真読影実習	レポート	20%
CBCT・CT 読影実習	レポート	20%

後期リクアイヤメント	方 法	評価割合
外来見学	観察記録	50%
口内法患者撮影実習	観察記録	
パノラマ患者撮影実習	観察記録	
超音波検査相互実習	観察記録	
画像検査オーダー実習	観察記録	
フィルムカンファレンス	観察記録	
講義	観察記録	
MRI 読影実習	レポート	50%
総合画像診断実習	口頭試問	

口腔インプラント科

「卒前臨床実習のガイドライン」

- ① 各小班の担当医局員に当日の処置・見学の内容を確認する。
- ② 必須ケースに関しては、術者に対して内容の事前確認を行い検印を受ける。
- ③ 見学に入る際は小班担当医局員の誘導に従う。
- ④ 1 診療につき見学は 3 名までとする。
- ⑤ 手術室へは患者のドレープが終わった後で入室する。
- ⑥ 備付のガウン・ヘッドキャップ・マスクを着用する。
- ⑦ 処置・外来見学後は術者とディスカッションを行い検印を受ける。
- ⑧ 術者から指示があった場合のみ、診療の介補を行うものとする。

「知識向上のための方略」

- ① 第 4 学年総合学力試験総合成績下位 30% の者を対象とする。総合学力試験においてインプラント学は出題数が少なく、インプラント学の成績が学生の学力を反映していない。また、臨床実習中に総合成績下位者の知識を底上げすることにより、第 6 学年時のインプラント学の学習時間の確保を図る。以上 2 点から総合成績下位者を対象とする。
- ② 実習期間 1 日目に多肢選択試験（インプラント学関連国家試験過去問題）を行う。実習期間中、問題内容に関する自習を行い、最終日に担当医局員から問題の解説を受ける。
- ③ 診療時間後、1 日の見学内容を小班担当医局員に報告し、関連分野の口頭試問を受ける。
- ④ 朝礼時の口頭試問で理解不足と判定された内容に関して、追加の口頭試問を受ける。

口腔インプラント科－1

臨床実習教育目標

項 目	教 育 目 標
1. 診療の知識・態度	(1) 医療面接 G I O：インプラント治療における良好な医師・患者間の信頼関係を築くために、基本的なインプラント医療面接の知識・態度を身につける。 S B O s：1. 歯科医師がとる好ましい態度で患者と家族に対応できる。 2. 患者・家族の身体的および精神的苦痛と社会的背景を理解し適切に対応できる。 3. 来院の動機と主訴を聞き取り記述できる。 4. インプラント治療に対する患者の期待、希望、不安を把握する。 5. 既往歴を聞き取り記述し、重要性を判断できる。 6. 時系列に現病歴を聞き取り記述できる。 7. プライバシーへの配慮ができる。 8. 収集した医療情報を整理し、問題点を抽出できる。 (2) 安全性への配慮と危機管理 G I O：安心・安全なインプラント治療を実施するために、歯科医療における安全性と危機管理について基礎的知識を修得する。 S B O s：1. 医療事故防止のための対策について説明できる。 2. 医療事故発生時の対応法について説明できる。 3. 危機管理マニュアルに沿った対応ができる。
2. インプラント治療の知識・技能	(1) 他診療領域の基本的知識の再確認 G I O：インプラント学を理解するための歯科医療の基礎を整理し、その再確認を行う。 S B O s：1. 口腔外科領域の基礎知識・術式について説明できる。 2. 歯内・歯周療法領域の基礎知識・術式について説明できる。 3. 補綴治療領域の基礎知識・術式について説明できる。 (2) インプラント学の基本的知識の修得 G I O：インプラント学を通して、系統科目間の横のつながりを理解し、統合型学習を身につける。 S B O s：1. インプラント学臨床総論を説明できる。 2. インプラント学基礎総論を説明できる。 3. インプラントの概要およびインフォームドコンセントについて説明できる。 4. インプラントの材料を説明できる。 5. インプラント治療と従来の治療法の違いを説明できる。 6. 全身状態とインプラント治療について説明できる。 7. インプラントの画像所見を説明できる。 8. インプラント治療の診査・診断・治療計画について説明できる。 9. インプラント治療と臨床検査について説明できる。 10. インプラント埋入時に必要な基礎的知識を説明できる。 11. インプラント組織界面形成期における生体反応を説明できる。 12. インプラントの上部構造について説明できる。 13. インプラント機能時における咬合の特徴と生体反応を説明できる。 14. インプラントの失敗の原因と対処法について説明できる。 15. インプラントのメンテナンスについて説明できる。 (3) インプラントの基本的診断技能の修得 G I O：的確な治療計画を立案するため、インプラント手術前の基本的な画像診断と設計の技能を修得する。 S B O s：1. 提示された症例の画像分析が適切に行える。 2. 提示された症例の顎骨の形態的特徴を説明できる。 3. 提示された症例の顎骨の画像を正確にトレースできる。 4. インプラントの種類・サイズを正しく選択できる。 5. インプラント埋入位置・方向を正しく設計ができる。 (4) インプラントの外科処置に必要な知識の修得 G I O：安全かつ正確にインプラントを埋入するための術式・器具・手技について説明できる。 S B O s：1. インプラント埋入手術の術式を説明できる。 2. インプラント埋入手術に必要な器具について説明できる。 3. 術中の患者管理について説明できる。 4. 合併症への対応について説明できる。

口腔インプラント科－２

項 目	教 育 目 標
(5) インプラントの印象採得に必要な知識の修得 G I O : 正確なインプラント上部構造を製作するための印象採得手技を説明できる。 S B O s : 1. 提示された症例に対し、適切にアバットメントが装着できる。 2. 器具の操作方法について説明できる。 3. 手技について説明できる。 4. 術中のエラーの確認方法について説明できる。 5. 印象採得後の技工操作について説明できる。	
(6) 上部構造製作に必要な知識の修得 G I O : アバットメント・上部構造の装着手順を説明できる。 S B O s : 1. 症例に応じた、適切なアバットメントの選択ができる。 2. 上部構造の適合性の確認方法を説明できる。 3. 上部構造の装着手技を説明できる。 4. 器具の使用方法を説明できる。 5. インプラント上部構造作製の流れを説明できる。	
(7) インプラントのメンテナンスに必要な知識の修得 G I O : インプラントのメンテナンス・合併症およびその対応について説明できる。 S B O s : 1. メンテナンスに使用する器具について説明できる。 2. メンテナンスの手技について説明できる。 3. メンテナンスの診査・検査項目について説明できる。 4. コンポーネントの破折の対応を説明できる。 5. 上部構造の破折の対応を説明できる。 6. インプラント周囲炎について説明できる。 7. インプラント周囲炎の対応について説明できる。	

臨床実習実施方法

項 目	実習期間	SBOs No.	方 法	場 所	時間(分)	評価方法	リクアイヤメント項目
医療面接：1-(1) 安全性への配慮と危機管理：1-(2)	前期	1～8 1～3	臨床見学	水道橋病院 診療室	240	観察記録	患者説明見学
他診療領域の基本的知識の再確認：2-(1)	前期	1～3	朝礼時 口頭試問	13階 セミナー室	150	口頭試問	朝礼・口頭試問
インプラント学の基本的知識の習得：2-(2)	前期	1～15	講義 口頭試問	13階 セミナー室	180 60	ポストテスト 口頭試問	基礎知識講義 口頭試問
インプラントの基本的診断技能の習得：2-(3)	前期	1～5	実習	13階 セミナー室	600	診断レポート	治療計画立案実習
インプラントの外科処置に必要な知識の修得：2-(4)	前期	1～4	臨床見学 実習	水道橋病院 診療室	240	観察記録	手術見学
インプラントの印象採得に必要な知識の修得：2-(5)	前期	1～5	臨床見学	水道橋病院 診療室	240	観察記録	印象採得見学
上部構造製作に必要な知識の修得：2-(6)	前期	1～5	臨床見学	水道橋病院 診療室	240	観察記録	上部構造装着見学
インプラントのメンテナンスに必要な知識の修得：2-(7)	前期	1～7	臨床見学	水道橋病院 診療室	240	観察記録	メンテナンス見学

評価 全てのリクアイヤメント項目を満たさなければならない。
試験に合格しなければならない。(口頭試問)

口腔インプラント科－3

臨床実習リクアイヤメント

リクアイヤメント	実施期間	G I O	SBOs	学習方法	媒 体	評価方法	ケース数
●基礎知識講義	前期	2－(2)	1～15	講義	スライド	口頭試問	1
●朝礼口頭試問	前期	2－(1)	1～3	講義	プリント	口頭試問	5
●治療計画立案実習	前期	2－(3)	1～5	講義・ ディスカッション	患者資料	診断 レポート	1
●シミュレーター実習	前期	2－(4)	4	実習	シミュレーター	観察記録	1
●外来見学							
患者説明	前期	1－(1)	1～8	臨床見学	患者	観察記録	2
		1－(2)	1～3				
1次手術(インプラント埋入)	前期	2－(4)	1～4	臨床見学	患者	観察記録	2
2次手術(アバットメント連結)	前期	2－(4)	1～4	臨床見学	患者	観察記録	2
骨増生術	前期	2－(4)	1～4	臨床見学	患者	観察記録	1
印象採得	前期	2－(5)	1～5	臨床見学	患者	観察記録	2
上部構造装着	前期	2－(6)	1～5	臨床見学	患者	観察記録	2
メンテナンス	前期	2－(7)	1～7	臨床見学	患者	観察記録	2

口腔インプラント科－４

臨床実習評価方法

評 価 項 目	方 法	評価割合	備 考
●朝礼	口頭試問	5%	サインカード
●基礎知識 講義	口頭試問	45%	サインカード・評価シート
●治療計画立案実習	レポート	40%	評価シート
●シミュレーター実習	観察記録	－	
●外来見学			
患者説明	観察記録	－	サインカード
1次手術（インプラント埋入）	観察記録（必須）	5%	サインカード
2次手術（アバットメント連結）	観察記録	－	サインカード
骨増生術	観察記録	－	サインカード
印象採得	観察記録（必須）	5%	サインカード
上部構造装着	観察記録	－	サインカード
メンテナンス	観察記録	－	サインカード
総合評価		100%	

1. 各項目の評価点数
 - 1) 見学：サインカードを10点満点で評価
 - 2) 症例分析：レポートを10点満点で評価
 - 3) 口頭試問：10点満点で評価
 - 4) 態度評価による減点を行う
2. 合格判定
 - 1) 総合評価が67%以上であること
 - 2) 口頭試問が67%以上であること
 - 3) 見学の必須項目を満たしていること
 - 4) 実習，症例分析，口頭試問は必ず行うこと

口腔インプラント科ー5

チェックシート・評価シート

●症例診断レポート

1. 現症の把握	1	2	3	4	5
2. 問題点の抽出	1	2	3	4	5
3. 治療方針	1	2	3	4	5
4. 追加検査など	1	2	3	4	5
5. 治療計画説明書	1	2	3	4	5
6. トレース・設計	1	2	3	4	5

臨床検査部

「卒前臨床実習のガイドライン」

- ① 原則、月曜日は水道橋校舎および水道橋病院で行うが日程変更もおこりうるので注意すること。集合場所は原則として、本館13階セミナー室とする。
- ② 水道橋病院では、主に各自 PC を用いて、
 - (1) 臨床検査学（臨床病理学を含む）に関するプリント課題演習を行う。
 - (2) バーチャルスライドシステムによる病理組織診断演習を行う。
 - (3) 学内 LAN に接続可能な各自の PC（PASORI を含む）を必ず持参すること。
 - (4) 実際の検体を用いて検体検査の流れ、実際について理解する。
 - (5) 有病者の臨床検査データを解析する。
 - (6) 臨床検査部医員および臨床検査技師による説明と口頭試問により知識の確認と整理を行う。
- ③ 当日行った実習内容について、詳しく資料録（レポート）に記載し、指導医のチェックを受け、確認と署名または捺印を受けて終了する。
- ④ 検査申込書に必要な記載事項、確定診断に至る病理組織学的所見について理解する。
- ⑤ 課題演習、病理組織診断演習のプロダクトは、指導医のチェックを受け、確認と署名または捺印を受けて終了する。

臨床検査部－ 1

臨床実習教育目標

項 目	教 育 目 標
1. 診療の基本技能	G I O：患者の病状を把握できるようになるために、臨床検査の知識、技能と態度を修得する。 S B O s：1. 臨床検査の種類および項目を列挙できる。 2. 臨床検査の意義を説明できる。 3. 一般症状からみた臨床検査を概説できる。 4. 歯科特殊検査を列挙できる。 5. 歯科特殊検査について説明できる。 6. 基本的な病理診断標本について正しく診断ができる。

臨床検査部－2

臨床実習実施方法

項 目	実習期間	SBOs	方 法	場 所	時間(分)	評価方法
知識整理課題	後期	1～5	課 題	セミナー室	180	ポートフォリオ
知識整理	後期	1～6	臨床見学	臨床検査室	180	口頭試問
病理診断演習	後期	6	演 習 (バーチャルスライド含む)	セミナー室, 臨床検査室	60	ポートフォリオ チェックシート (報告書)

臨床検査部－ 3

臨床実習リクワイヤメント

リクワイヤメント	実施期間	G I O	SBOs	学習方法	媒 体	評価方法	ケース数
知識整理課題	後期	1	1 ～ 5	課 題	プロダクト	ポートフォリオ	1
知識整理	後期	1	1 ～ 6	臨床見学	検体, 標本	口頭試問	1
病理診断演習	後期	1	6	演 習	バーチャル スライド, 標本	ポートフォリオ チェックシート	1

臨床検査部－4

臨床実習評価方法

1) 知識整理課題（ポートフォリオ，チェックシート，レポート）

学習到達目標に掲げた各項目について診断と治療に必要な検査の知識を問う課題。評価は以下の通りとする。

評価 A：課題の全てが記入しており，特によくまとめているもの。

評価 B：課題の全てが記入しているもの。

評価 C：課題の記入が不完全なもの。

評価 D：課題の未記載が多いもの，あるいは未提出。

2) 知識整理課題（口頭試問）

学習到達目標に掲げた各項目について診断と治療に必要な検査の知識を問う課題。評価は以下の通りとする。

評価 A：回答が合理的であり，特によく理解しているもの。

評価 B：回答がおおむね質問の趣旨をみたしているもの。

評価 C：回答が多少の誘導の元に導けるもの。

評価 D：回答が質問の趣旨を満たさないもの。

3) 病理診断演習

学習到達目標に掲げた各項目について診断と治療に必要な病理検査の知識と技能を問う。評価は以下の通りとする。

評価 A：病理検査申込書に記載された内容を十分理解し，適切な鑑別診断の中から，病理組織学的根拠に基づいて適切な診断が行えたもの。

評価 B：病理検査申込書に記載された内容をおおむね理解し，鑑別診断の中から病理組織学的根拠に基づいて適切な診断が行えたもの。

評価 C：適切な診断は行えたものの，病理組織学的根拠に基づいて診断に至った経緯がみられないもの。

評価 D：病理組織学的診断が行えなかったもの，あるいは未提出。

病理診断演習

番 氏名：

(年 月 日実施) 担当医：

課題（ポートフォリオ）に記載された内容について以下の項目を評価する。

	できた	できない
病理組織検査申込書の記載内容が理解できる。	☐	☐
鑑別診断として、十分な臨床診断が挙げられる。	☐	☐
バーチャルスライドの接続，操作ができ，診断に必要な所見を得ることができる。	☐	☐
標本を検鏡し，診断に必要な所見を抽出できる。	☐	☐
得られた所見から診断の鑑別を行うことができる。	☐	☐
適切な病理組織診断ができる。	☐	☐

スポーツ歯科

「卒前臨床実習のガイドライン」

- ① 治療計画や、装着予定の製作物などは事前に指導医と相談し確認する。
- ② 受け持ち患者さんに対する当日の治療内容と必要な器具・器材の確認。
- ③ 患者さんを診療室に案内し、ユニットに座ってもらう。
- ④ 当日の患者さんの状態、検査結果、治療計画・治療内容について指導医とディスカッションを行い、フィードバックを受ける。
- ⑤ 指導医とともに、治療計画に沿って診療を行う。診療終了時に指導医の確認を受ける。
- ⑥ 指導医とともに患者さんへの病態の説明に参加する。
- ⑦ 指導医の指示のもと、検査指示書などを記載する。
- ⑧ 診療終了後、指導医が記載する診療録を確認する。
- ⑨ 初診患者さんの場合には、医療面接を行い、診療録の作成、治療計画の立案、検査指示書などの記載を行う。
- ⑩ 使用した器具・器材の後片付けを行う。

スポーツ歯科ー 1

臨床実習教育目標

項 目	教 育 目 標
1. 診療の基本技能	
1) 診療の態度技能	
(1) 医療面接	G I O : 正確な症状把握, 良好な医師・患者関係を築くために医療面接の基礎を修得する。 S B O s : 1. 歯科医師がとる好ましい態度で患者と家族に対応できる。 2. 患者・家族の身体的および精神的苦痛と社会的背景を理解し適切に対応できる。 3. 来院の動機と主訴を聞き取り, 記述ができる。 4. 既往歴を聞き取り記述し, 重要性を判断できる。 5. 時系列に現病歴を聞き取り, 記述ができる。 6. プライバシーへの配慮ができる。 7. 収集した医療情報を整理し, 問題点を抽出できる。
(2) 安全性への配慮と危機管理	G I O : 歯科医療における安全性と危機管理について基礎的知識を修得する。 S B O s : 1. 医療事故防止のための対策について説明できる。 2. 医療事故発生時の対応について説明できる。 3. 危機管理マニュアルに沿った対応ができる。
2) 基本的診療技能	
(1) 診察と検査技術	G I O : 正しい診断を行うために, 必要な診察と検査に関する知識と技能を習得する。 S B O s : 1. 診察と検査によって得られた情報を記録できる。 2. 他科・医科との対診の必要性を判断できる。
(2) 診断・治療計画の立案	G I O : 個々の患者に適した治療を行うために, 基礎的な歯科疾患についての診断能力を身につけ, 治療計画立案の方法を修得する。 S B O s : 1. 診察および検査結果から問題点を抽出できる。 2. 問題点の重要性を判定できる。 3. 診断名を推定できる。 4. 診断理由を述べることができる。 5. 診断名に対する治療法を列挙できる。 6. 治療方法に関する情報収集ができる。 7. 治療計画を立てることができる。
(3) 消毒・滅菌	G I O : 歯科医療を安全に行うために, 感染予防に必要な消毒・滅菌の知識と技能を修得する。 S B O s : 1. Standard precautions を実施できる。 2. 手指, 器具および技工物などの消毒・滅菌を実施できる。 3. 医療廃棄物を適切に扱うことができる。
(4) 指示書等の作成	G I O : 診療を進めるために, 診療記録と各種指示書の作成法を身につける。 S B O s : 1. 診療記録の記載ができる。 2. 処方箋の記載を説明できる。 3. 技工指示書の内容を説明できる。

スポーツ歯科ー 2

項 目	教 育 目 標
2. 疾患別基本治療技能	
1) 顎口腔系のスポーツ外傷	
(1) 歯冠破折, 歯根破折, 顎顔面骨折など	G I O : 歯の外傷や顎顔面骨折の処置に対する基本的な知識, 技術を修得する。 S B O s : 1. 提示された症例に対して治療方針を述べることができる。 2. 提示された症例に対しての診療手順を述べることができる。 3. 適切なマウスガードの選択し, 製作手順を述べることができる。 4. 適切なフェイスガードの設計ができる。 5. 提示された症例の処置前, 処置後の保健指導ができる。
2) 睡眠障害関連	
(1) 睡眠時無呼吸症候群	G I O : 睡眠時無呼吸症候群の処置に対する基本的な知識, 技術を修得する。 S B O s : 1. 提示された症例に対して治療方針を述べることができる。 2. 提示された症例に対しての診療手順を述べることができる。 3. 適切な口腔内装置の選択し, 製作手順を述べることができる。 4. 提示された症例の処置前, 処置後の保健指導ができる。
(2) ブラキシズム	G I O : ブラキシズムの処置に対する基本的な知識, 技術を修得する。 S B O s : 1. 提示された症例に対して治療方針を述べることができる。 2. 提示された症例に対しての診療手順を述べることができる。 3. 適切な口腔内装置の選択し, 製作手順を述べることができる。 4. 提示された症例の処置前, 処置後の保健指導ができる。
3) 顎機能障害	
(1) 顎関節症	G I O : 顎関節症の処置に対する基本的な知識, 技術を修得する。 S B O s : 1. 提示された症例に対して症型を分類することができる。 2. 提示された症例に対して治療方針を述べることができる。 3. 提示された症例に対しての診療手順を述べることができる。 4. 適切な口腔内装置を選択し, 製作手順を述べることができる。 5. 提示された症例の処置前, 処置後の保健指導ができる。

スポーツ歯科－３

臨床実習実施方法

項 目	実習期間	SBOs No.	方 法	場 所	時間(分)	評価方法	リクアイメント項目
歯冠破折、歯根破折、 顎顔面骨折など： 2-1)-(1)	—	1～5	臨床講義 ケーススタディ	講義室 診療室	240分	観察記録 客観試験	一般担当ケース、 講義
マウスガードの作製： 2-1)-(1)	—	3	実習 ケーススタディ	診療室 技工室	300分	観察記録 口頭試問	実習
睡眠時無呼吸症候群： 2-2)-(1)	—	1～4	臨床講義 ケーススタディ	講義室 診療室	90分	観察記録 客観試験	一般担当ケース、 講義
ブラキシズム：2-2)-(2)	—	1～4	臨床講義 ケーススタディ	講義室 診療室	90分	観察記録 客観試験	一般担当ケース、 講義
顎関節症：2-3)-(1)	—	1～5	臨床講義 ケーススタディ	講義室 診療室	120分	観察記録 客観試験	一般担当ケース、 講義

スポーツ歯科－４

臨床実習リクワイヤメント

リクワイヤメント	実施期間	G I O	SBOs	学習方法	媒 体	評価方法
●一般担当ケース／ケーススタディ						
歯冠破折，歯根破折， 顎顔面骨折症例	—	2-1)-(1)	1～5	臨床実習 ケーススタディ	患者／模型	観察記録 客観試験
睡眠時無呼吸症候群症例	—	2-2)-(1)	1～4	臨床実習 ケーススタディ	患者／模型	観察記録 客観試験
ブラキシズム症例	—	2-2)-(2)	1～4	臨床実習 ケーススタディ	患者／模型	観察記録 客観試験
顎関節症症例	—	2-3)-(1)	1～5	臨床実習 ケーススタディ	患者／模型	観察記録 客観試験
●実習						
マウスガード製作	—	2-1)-(1)	4	実習	模型	観察記録 口頭試験

スポーツ歯科－5

臨床実習評価方法

評 価 項 目	方 法	評価割合
試験成績点	客観試験	50%
臨床実地点	観察記録	25%
実習点	観察記録, 口頭試問	25%

摂食嚥下リハビリテーション科

「卒前臨床実習のガイドライン」

- ① 臨床実習に先立ち、摂食嚥下機能評価、摂食嚥下リハビリテーション、口腔ケアの相互実習を行う。
- ② 臨床実習で与えられた症例について、事前に治療方針を検討する。
- ③ 訪問診療先の患者さんの全身状態、嚥下機能、これまでの治療経過について診療録を確認し、指導医と事前にディスカッションを行う。
- ④ 持参する器具・器材を確認する。
- ⑤ 訪問先では患者・家族の身体的および精神的苦痛と社会的背景を理解し、適切に対応する。
- ⑥ 訪問診療後は患者さんの状態、治療内容、検査方法および結果などについて指導医とディスカッションを行い、フィードバックを受ける。
- ⑦ 訪問した患者さんに関連するレポートを作成し、指導医とディスカッションを行う。

摂食嚥下リハビリテーション科ー 1

臨床実習教育目標

項 目	教 育 目 標
1. 診療の基本技能	
1) 診療の態度技能	
(1) 医療面接	G I O : 正確な症状把握, 良好な医師・患者関係を築くために医療面接の基礎を修得する。 S B O s : 1. 挨拶など社会人として適切な対応をする。 2. 歯科医師として好ましい態度で患者と家族に対応する。 3. 患者・家族の身体的および精神的苦痛と社会的背景を理解し, 適切に対応する。 4. 的確に病歴を聴取し, 問題点を抽出する。 5. プライバシーに配慮する。
(2) 安全性への配慮と危機管理	G I O : 歯科医療における安全性と危機管理について基礎的知識を修得する。 S B O s : 1. 医療事故防止のための対策について説明できる。 2. 医療事故発生時の対応法について説明できる。 3. 危機管理マニュアルに沿った対応ができる。
2) 基本的診療技能	
(1) 診察と検査技術	G I O : 正しい診断を行うために, 必要な診察と検査に関する知識と技能を修得する。 S B O s : 1. 必要な診察と検査を行うことができる。 2. 診察と検査によって得られた情報を記録できる。 3. 他科・医科との対診の必要性を判断し, 照会状の記載について説明できる。
(2) 診療器具の管理・扱い方	G I O : 診療器具の安全で正しい管理・扱いができるようになるために, 基本的な知識と技能を修得する。 S B O s : 1. 使用する診療器具を準備できる。 2. 診療器具の正しい扱いができる。 3. 診療器具の片付け, 消毒, 保守・管理ができる。
(3) 診療書類の作成	G I O : 診療を進めるために, 診療記録と各種指示書の作成法を身に付ける。 S B O s : 1. 診療記録の記載ができる。 2. 処方箋の記載法を説明できる。
(4) 他職種との連携	G I O : 効率的な治療を進めるために, 他職種との連携についての基本的な知識を修得する。 S B O s : 1. 患者に関わる他職種とその役割を説明できる。 2. 他職種との連携の取り方を説明できる。
2. 疾患別基本治療技能	
1) 摂食嚥下障害	G I O : 摂食機能障害の改善のために, 摂食嚥下機能の評価法およびリハビリテーションの基本的知識と技能を修得する。 S B O s : 1. 摂食嚥下機能の評価ができる。 2. 治療計画の立案ができる。 3. 摂食機能療法を行うことができる。
2) 在宅における歯科治療	G I O : 安全で確実な歯科訪問診療を行うために, 必要な知識・態度・技能を修得する。 S B O s : 1. 治療計画の立案ができる。 2. 在宅において基本的な歯科治療ができる。 3. 安全で確実な口腔ケアができる。

摂食嚥下リハビリテーション科－2

臨床実習実施方法

項 目	実習期間	SBOs No.	方 法	場 所	評価方法
医療面接： 1-1)-(1)	後期	1～5	臨床見学・スモールグループディスカッション	セミナー室・訪問診療先	口頭試問 観察記録
安全性への配慮と危機管理： 1-1)-(2)	後期	1～3	講義・スモールグループディスカッション	セミナー室	口頭試問 客観試験
診察と検査技術： 1-2)-(1)	後期	1～3	講義・相互実習・臨床見学	セミナー室・訪問診療先	口頭試問 客観試験
診療器具の管理・扱い方： 1-2)-(2)	後期	1～3	講義・相互実習・臨床見学	セミナー室・訪問診療先	口頭試問 客観試験
診療書類の作成： 1-2)-(3)	後期	1～2	臨床見学・実習	セミナー室	観察記録
他職種との連携： 1-2)-(4)	後期	1～2	講義・臨床見学	セミナー室・訪問診療先	口頭試問 客観試験
摂食嚥下障害： 2-1)	後期	1～3	臨床見学・相互実習・スモールグループディスカッション	セミナー室・訪問診療先	レポート 口頭試問
在宅における歯科治療： 2-2)	後期	1～2	臨床見学・相互実習・スモールグループディスカッション	セミナー室・訪問診療先	レポート 口頭試問

摂食嚥下リハビリテーション科－3

臨床実習リクアイヤメント

リクアイヤメント	実施期間	G I O	SBOs No.	学習方法	媒 体	評価方法
●相互実習						
摂食嚥下機能評価	後期	1-2)-(1)	1～3	相互実習	学生	口頭試問 客観試験
口腔ケア	後期	2-2)	2	相互実習	学生	口頭試問 客観試験
摂食嚥下リハビリテーション	後期	2-1)	1～3	相互実習	学生	口頭試問 客観試験
●臨床見学						
訪問診療	後期	全て	全て	臨床実習 ケーススタディ	患者	レポート 観察記録 口頭試問

摂食嚥下リハビリテーション科－4

知識向上を必要とする学生のための方略

対象学生に対し、プレテスト・ポストテストを軸にした口頭試問を充実させることで重点指導を行う。また、実習後に宿題レポートを課し、後日追加の口頭試問を実施する。

臨床実習評価方法

相互実習については①（客観試験および口頭試問）によって形成的評価を行い、臨床見学については②（レポート、観察記録および口頭試問）によって評価する。実習全てに出席し、①と②の平均点が6.7以上を合格とする。

障害者歯科・口腔顔面痛

「卒前臨床実習のガイドライン」

- ① 患者さんの全身管理計画及び疼痛管理計画を指導医と議論する。
- ② 患者さんの口腔内の状態について診察し，指導医に提示する。
- ③ 患者さんの口腔内治療計画を指導医と議論する。
- ④ 指導医の患者さんの診療補助または見学を行う。
- ⑤ 診療補助をする患者さんに対する当日の医療器具・器材の準備を行う。
- ⑥ 指導医とともに患者さんおよび介護者への病態の説明に参加する。
- ⑦ 診療内容について指導医と議論する。

障害者歯科・口腔顔面痛－ 1

臨床実習教育目標

項 目	教 育 目 標
1. 診療の基本技能	
1) 診療の態度技能	
(1) 医療面接	G I O：主訴の聴取などから適切に症状を把握し、良好な医師・患者関係を築くために医療面接の基本を修得する。 S B O s：1. 歯科医師がとる好ましい態度で患者と家族に対応できる。 2. 患者・家族の身体的および精神的苦痛と社会的背景を理解し適切に対応できる。 3. 来院動機と主訴を聞き取り記述できる。 4. 既往歴を聞き取り記述し、重要性を判断できる。 5. 時系列に現病歴を聞き取り記述できる。 6. プライバシーへの配慮ができる。 7. 収集した医療情報を整理し、問題点を抽出できる。
(2) 安全性への配慮と危機管理	G I O：歯科医療における安全性と危機管理についてその知識と態度を修得する。 S B O s：1. 歯科医療を行うにあたっての危険性を説明できる。 2. 医療事故の防止法について説明できる。 3. 医療事故防止のための対策について説明できる。 4. 医療事故発生時の対応方法について説明できる。
2) 基本的診療技能	
(1) 診察と検査技術	G I O：患者の病態を把握して正しい診察を行うために、必要な診断方法を修得する。 S B O s：1. 医科の他科との対診の必要性を判断できる。 2. 初診患者の問題点の抽出をできる。 3. 初診患者の問題点に対する対応策を立案できる。
(2) 治療計画の立案	G I O：個々の患者に適した治療を行うために、基本的な歯科疾患についての治療計画立案の方法を修得する。 S B O s：1. 診療および検査結果から、問題点を抽出できる。 2. 問題点の重要度を判定できる。 3. 診断名に対する診療法を列挙できる。 4. 治療方法に関する情報収集ができる。 5. 治療計画を立てることかできる。

障害者歯科・口腔顔面痛－2

項 目	教 育 目 標
2. 疾患別基本治療技能	
1) 歯顎口腔の発育異常・加齢に伴う疾患	
(1) 心身障害（児）者の歯科診療	G I O：障害者の歯科診療を行うために精神的，身体的特徴を考慮した対応方法を修得する。 S B O s：1. 障害を考慮したコミュニケーションがとれる。 2. 全身状態を評価できる。 3. 歯科治療と全身管理の方針を立案できる。
(2) 要介護者の歯科診療	G I O：要介護者の QOL の向上のために，精神的身体的特徴を考慮した基本的な対応方法を修得する。 S B O s：1. 日常生活動作の評価ができる。 2. 提示された全身管理を必要とする症例の歯科治療を説明できる。
2) 顎・口腔領域の疾患	
(1) 顎・口腔領域の疼痛疾患（神経疾患，筋骨格系疾患）	G I O：疼痛疾患患者の QOL の向上のために，心理面を考慮した基本的な対応方法を修得する。 S B O s：1. 痛みのレベルを評価できる。 2. 診断名を推定できる。 3. 治療方針を立案できる。
3) 全身管理および救急処置	
	G I O：安全な歯科治療を行うために，全身管理と救急処置に関する知識と技能と態度を修得する。 S B O s：1. モニタリング機器を装着できる。 2. 提示された症例のバイタルサインを得ることができる。 3. 提示された症例の全身状態を評価できる。 4. 提示された症例の全身管理法を立案できる。 5. 点滴治療の準備ができる。 6. 静脈確保を行うことができる。 7. 一次救急処置を行うことができる。

障害者歯科・口腔顔面痛－3

臨床実習実施方法

項 目	実習期間	SBOs No.	方 法	場 所	時間(分)	評価方法	リクワイヤメント項目
医療面接	後期	1～7	臨床見学 ケーススタディー	診療室		観察記録 レポート	臨床見学, 医療面接
安全性への配慮と危機管理	後期	1～4	臨床見学 ケーススタディー	診療室		観察記録 レポート	臨床見学, 医療面接
診察と検査技術	後期	1～3	臨床見学 ケーススタディー	診療室		観察記録 レポート	臨床見学, 医療面接
治療計画の立案	後期	1～5	臨床見学 ケーススタディー	診療室		観察記録 レポート	臨床見学, 医療面接
心身障害（児）者の歯科診療	後期	1～3	臨床見学 ケーススタディー	診療室		観察記録 レポート	臨床見学, 医療面接
要介護者の歯科診療	後期	1～2	臨床見学 ケーススタディー	診療室		観察記録 レポート	臨床見学, 医療面接
顎・口腔領域の疼痛疾患 (神経疾患, 筋骨格系疾患)	後期	1～3	臨床見学 ケーススタディー	診療室		観察記録 レポート	臨床見学, 医療面接
全身管理および救急処置	後期	1～7	臨床見学 ケーススタディー	診療室		観察記録 レポート	臨床見学

障害者歯科・口腔顔面痛－４

臨床実習リクワイヤメント

リクワイヤメント	実施期間	G I O	SBOs	学習方法・方略	媒 体	評価方法	ケース数
●臨床見学							
・心身障害者の治療	後期	2-1)-(1)	1～3	臨床見学	患者	観察記録	1
・要介護者の治療	後期	2-1)-(2)	1～2	臨床見学	患者	観察記録	1
・神経疾患の治療	後期	2-1)-(3)	1～3	臨床見学	患者	観察記録	1
・筋骨格系の治療	後期	2-1)-(3)	1～3	臨床見学	患者	観察記録	1
・他疼痛疾患	後期	2-1)-(3)	1～3	臨床見学	患者	観察記録	1
●医療面接							
・心身障害者	後期	2-1)-(1)	1～2	臨床見学	患者	観察記録	1
・要介護者	後期	2-1)-(2)	1～2	臨床見学	患者	観察記録	1
・疼痛疾患患者	後期	2-1)-(3)	1～3	臨床見学	患者	観察記録	1
●実習							
・神経ブロックの準備	後期	2-1)-(3)	1～3	ロールプレイ	学生	観察記録	1
・点滴セットの準備	後期	2-1)-(3)	1～3	ロールプレイ	学生	観察記録	1
・モニタリング	後期	2-3)	1～4	ロールプレイ	学生	観察記録	1
●口頭試問	後期						

障害者歯科・口腔顔面痛－5

臨床実習評価方法

評価項目	評価方法	評価割合	備考
●臨床見学		10%	
・心身障害者の治療	観察記録		
・要介護者の治療	観察記録		
・神経疾患の治療	観察記録		
・筋骨格系の治療	観察記録		
・他疼痛疾患	観察記録		
●医療面接		10%	
・心身障害者	観察記録		
・要介護者	観察記録		
・疼痛疾患患者	観察記録		
●実習		10%	
・神経ブロックの準備	観察記録		
・点滴セットの準備	観察記録		
・モニタリング	観察記録		
●口頭試問		70%	

市川総合病院

「卒前臨床実習のガイドライン」

医科（前期）・オーラルメディシン・口腔外科学講座（前・後期）

1. 事前に当日の診療内容の確認を行う。
2. 当日の患者さんの状態，検査結果について指導医より説明を受ける。
3. 指導医の診察，治療を見学する。
4. 指導医とともに患者さんへの病態の説明に参加する。
5. 必要に応じて，指導医のもとでエックス線撮影依頼，処方箋，紹介状あるいは対診願いを作成する。
6. 患者さんの診察終了時には，指導医が記載する診療録を確認し，診療内容を理解する。
7. 医療面接を行い，診療録の作成ならびに治療計画の立案を行う。

臨床実習教育目標

項 目	教 育 目 標
1. 診療の基本技能	
1) 診療の態度技能	
(1) チーム医療と総合病院における他科との連携	G I O：医療におけるチームワークの重要性を理解し、他の医療従事者との連携を学ぶ。 S B O s：1. 医療チームのメンバーの役割と連携を説明できる。 2. 保健・医療・福祉の連携を理解し、歯科医師の役割を説明できる。 3. 総合病院の仕組みを理解できる。 4. 医科への照会の必要性を判断できる。
(2) 医療面接	G I O：正確な症状把握、良好な医師・患者関係を築くために医療面接の基礎を習得する。 S B O s：1. 歯科医師として好ましい態度で患者に対応できる。 2. 患者・家族の身体的および精神的苦痛と社会的背景を理解し対応できる。 3. 主訴を正確に聞き取ることができる。 4. 現病歴を正確に時系列で聞き取ることができる。 5. 既往歴を正確に聞き取ることができる。 6. 家族歴を正確に聞き取ることができる。 7. 患者・家族のプライバシーに配慮できる。 8. 収集した医療情報を整理し、問題点を抽出できる。
(3) 診察・検査技能	G I O：正確な診断を行うために、必要な診察と検査に関する知識と技能、医科的疾患に関する知識を習得する。 S B O s：1. 必要な診察項目を列挙できる。 2. 診察によって得られた情報を記録できる。 3. バイタルサインの確認を実施し、得られた情報を解釈できる。 4. 採血検査を実施できる。 5. 臨床検査（細菌、血液、病理、画像検査）により得られた情報を解釈できる。 6. 既往歴を聞き取り理解できる。 7. 歯科治療に問題となる他科の疾患を列挙できる。 8. 他科のカルテや検査結果から情報を得ることができる。
(4) 診断・治療計画の立案	G I O：診断した疾患に対する、患者各々に適した治療計画の立案を修得する。 S B O s：1. 診察および検査結果から問題点を抽出できる。 2. 患者の持つ問題点の重要性を判断できる。 3. 診断名が推定できる。 4. 診断理由を述べることができる。 5. 診断名に対する治療法を列挙できる。 6. 治療方法に関する情報収集ができる。 7. 患者の既往歴を考慮して、治療計画を立てることができる。 8. 社会的背景を考慮した治療計画を立てることができる。 9. 他職種と連携した治療計画を立てることができる。

市川総合病院－2

項 目	教 育 目 標
2. 疾患別基本治療技能	
1) 口腔顎顔面の疾患	
(1) 高齢者の歯科診療（急性期摂食・嚥下機能訓練を含む） G I O：高齢者の QOL の向上のために、精神的、身体的特徴を考慮した基本的な対応方法を修得する。 S B O s：1. 高齢者の精神的特徴を列挙できる。 2. 高齢者の身体的特徴を列挙できる。 3. 日常生活動作の評価ができる。 4. 摂食・嚥下機能障害を評価できる。 5. 口腔機能の維持・向上を目的とした口腔保健指導ができる。 6. 呈示された全身管理を必要とする症例の歯科治療を説明できる。	
(2) 全身的疾患を有した患者の歯科診療 G I O：全身的疾患を有した患者の歯科診療を行うために必要な基本的知識と技能を修得する。 S B O s：1. 歯科治療上問題となる全身的疾患を列挙できる。 2. 歯科治療時の各全身疾患の異常発現に対する予防策を列挙できる。 3. 歯科治療時のバイタルサインの変化を理解できる。 4. 歯科治療時の各全身疾患の異常発現に対する対処方法を列挙できる。 5. 各全身疾患に対する禁忌・注意薬剤を列挙できる。 6. 静脈血採血を行うことができる。	
(3) 妊産婦患者の歯科診療 G I O：妊産婦患者の歯科診療 S B O s：1. 妊産婦の口腔内、身体的特徴を理解できる。 2. 妊産婦に特異的な口腔疾患を理解できる。 3. 安定期を理解できる。 4. 歯科治療時の異常発現に対する対処方法を列挙できる。 5. 禁忌・注意薬剤を列挙できる。 6. 口腔機能の維持・向上を目的とした母子への口腔保健指導ができる。	
(4) 口腔粘膜疾患 G I O：口腔粘膜疾患に関する基本的知識を修得する。 S B O s：1. 診断名を推定できる。 2. 呈示された症例の診断に必要な検査方法を列挙できる。 3. 血液・細菌検査結果を理解できる。 4. 病理標本を鏡し、理解できる。 5. 全身的疾患と関連する口腔粘膜疾患について理解できる。 6. 治療方針を立案できる。	
(5) 口腔疾患の診断に関連する全身的疾患 G I O：口腔疾患の診断に関する基本的知識を修得する。 S B O s：1. 代謝性、内分泌疾患の特徴的な口腔疾患を列挙できる。 2. 免疫・アレルギー疾患の特徴的な口腔疾患を列挙できる。 3. 消化器疾患の特徴的な口腔疾患を列挙できる。 4. 口腔心身症の特徴的な口腔疾患を列挙できる。 5. エイズ患者の特徴的な口腔疾患を列挙できる。	
(6) 周術期口腔機能管理 G I O：周術期口腔機能管理に関する基本的知識を修得する。 S B O s：1. 周術期の口腔機能管理の必要性を説明できる。 2. 患者の病態・手術内容を理解できる。 3. 患者の口腔内の状態、口腔衛生状態を評価し、術後に起こりうる変化を予測できる。 4. 放射線治療、化学療法によって起こりうる口腔内の変化を列挙できる。 5. 他職種と連携した治療計画を立案できる。	
(7) 口腔外科的疾患 G I O：総合病院内における、口腔外科的疾患の診断と治療計画の立案を修得する。 S B O s：1. 基本的な口腔外科的疾患を理解し、基本的診断方法ならびに治療方法の説明ができる。 2. 全身疾患の一症状としての口腔内病変の診断ができる。 3. 重症感染症の隣接臓器の担当科、多重外傷の担当科と連携した治療方針を理解できる。 4. 小児の口腔外科的疾患の治療にあたっての、小児科との連携を理解できる。 5. 口腔がんの他臓器転移、また他臓器からの口腔内転移の病態に際し、関連各科との連携が理解できる。 6. 周術期、入院療養中の管理にあたって、他科への診察依頼の必要性と方法を理解できる。	

市川総合病院－ 3

臨床実習実施方法

項 目	実習期間	G I O	SBOs	方 法	場 所	時間(分)	評価方法
チーム医療	前期	1-1)-(1)	1～4	講義	示説室	360	レポート
	後期			講義 院内見学	示説室 各検査室	180	
医療面接	前期	1-1)-(2)	1～8	講義 臨床実習	示説室 診療室	180	レポート 客観試験
	後期					180	
診察と検査技能	前期	1-1)-(3)	7	講義	示説室	1980	
	後期		1～8	講義 臨床実習	示説室 診療室	360 360	
診断・治療計画の立案	後期	1-1)-(4)	1～9	講義 臨床実習	示説室 診療室	540	
高齢者の歯科診療 (急性期の摂食嚥下訓練)	前期	2-1)-(1)	1～2			180	
	後期		1～6			540	
全身的疾患を有した患者の歯科診療	前期	2-1)-(2)	1～5			180	
	後期		1～6			360	
妊産婦患者の歯科診療	前期	2-1)-(3)	1～5			180	レポート 客観試験
	後期		1～6			180	
口腔粘膜疾患	前期	2-1)-(4)	1～6			180	レポート 客観試験
	後期					360	
口腔疾患の診断に関連する全身 的疾患	前期	2-1)-(5)	1～5			180	レポート
	後期					900	レポート 客観試験
周術期口腔機能管理	前期	2-1)-(6)	1～5			180	レポート
	後期					180	レポート 客観試験
口腔外科疾患	前期	2-1)-(7)	1～6	臨床実習 手術見学	診療室 病 床 手術室	180	レポート 客観試験
	後期					360	

市川総合病院－ 4

臨床実習リクアイヤメント

項 目	実施期間	G I O	SBOs	学習方法	媒 体	評価方法
●一般医科実習						
・内科・消化器科実習	前期	1-1)-(3)	6, 7, 8, 12	臨床実習 講義	指導医 プリント	レポート 試験
・循環器科実習		1-1)-(3)	5, 12			
・外科実習		1-1)-(3)	10, 12			
・整形外科実習		1-1)-(3)	10, 12			
・リハビリテーション科実習		1-1)-(3)	10, 12			
・小児科実習		1-1)-(3)	10, 12			
・産婦人科実習		1-1)-(3)	10, 12			
・眼科実習		1-1)-(3)	4, 10, 12			
・耳鼻咽喉科実習		1-1)-(3)	4, 10, 12			
・放射線科実習		1-1)-(3)	10, 12			
・皮膚科・形成外科実習		1-1)-(3)	10, 12			
・泌尿器科実習		1-1)-(3)	9, 12			
・精神・神経科実習		1-1)-(3)	10, 12			
・脳神経外科実習		1-1)-(3)	10, 12			
・心臓血管外科実習		1-1)-(3)	5, 12			
・オーラルメディシン ・口腔外科実習	前期 後期	1-1)-(1)	1～4	臨床実習 講義	指導医	レポート
		2-1)-(2)	1～4			
		2-1)-(5)	1～4			
		2-1)-(1)	1～2			
		2-1)-(2)	1～4			
		2-1)-(3)	1～5			
		2-1)-(5)	1～4			
・口腔がんセンター実習	前期 後期	2-1)-(8)	1～6	臨床実習 講義	指導医	レポート
●相互実習 (オーラルメディシン・口腔外科実習)						
・臨床検査科実習	後期	1-1)-(2) 2-1)-(2)	3～5 6	臨床実習 ケーススタディ	相互学生	観察記録 レポート
●必修ケース (オーラルメディシン・口腔外科実習)						
・全身疾患を有する症例の医療面接	後期	1-1)-(2) 1-1)-(3) 1-1)-(4) 1-1)-(5)	1～8 1～2 1～8 1, 2, 12	臨床実習 ケーススタディ	患者	観察記録 レポート
・筆記試験	後期	1-1)-(3) 2-1)-(1) 2-1)-(2) 2-1)-(3) 2-1)-(5)	5～10 1, 2 1～4 1～5 1～4	講義	プリント	試験
・口頭試問 ・症例検討	後期	1-1)-(3) 2-1)-(1) 2-1)-(2) 2-1)-(3) 2-1)-(5)	5～10 1, 2 1～4 1～5 1～4	ケーススタディ 講義 ロールプレイ	指導医 資料	観察記録 試験 プレゼンテーション

市川総合病院－ 5

臨床実習評価方法

前期

評 価 項 目	評価法	評価割合	備 考
●出席		20%	
●一般医科実習	レポート	60%	
●症例検討実習	観察記録	10%	チェックシート参照
●スキルスラボ実習	レポート	10%	
総合評価		100%	

後期

評 価 項 目	評価法	評価割合	備 考
●出席		20%	
●医療面接		10%	
・診療書類の作成	口頭試問		
・基本的診査			
・疾患別基本知識			
●症例検討		30%	チェックシート参照
・全身的疾患を有する症例の治療計画立案	レポート 観察記録		
・口腔粘膜疾患の診断・治療計画立案			
●臨床検査実習	レポート	10%	
●外科病理実習	レポート	10%	
●口腔がんセンター実習	レポート	10%	
●スキルスラボ実習	レポート	10%	
総合評価		100%	

提出レポートの内容および評価基準

- 1点：レポートを提出している
- 2点：内容に誤った記載が多く、大部分が不足している
- 3点：内容の一部が不足している
- 4点：内容は詳細に記載されているが整理されていない
- 5点：内容は詳細かつ整理されている

口頭試問の内容および評価基準

- 1点：基本的事項を誘導することで回答できる
- 2点：基本的事項をある程度誘導することで回答できる
- 3点：質問に対して、妥当な回答ができる
- 4点：質問に対して、知識の裏付けがされた回答ができる
- 5点：派生した質問に対して、知識の裏付けがされた回答ができる

※合格基準

全必修項目を満たさなければならない。

試験に合格しなければならない。

診 断 学 実 習

学生番号

採点者氏名

平成 年 月 日実施

	4 点	3 点	2 点	1 点
1) 与えられた症例を十分に理解している	☐	☐	☐	☐
2) 鑑別診断および推定診断を提示できている	☐	☐	☐	☐
3) 具体的な治療方針の説明を行えている	☐	☐	☐	☐
4) テクニカルタームを正確に使用できている	☐	☐	☐	☐
5) 質問に答えられている※1問1点, 学生から質問がない場合は担当医で追加して下さい。	☐	☐	☐	☐

※評価者は必ず合計点の記入をお願いします。

合計点数

／20 点

§ 6 指 導 教 員 一 覽

保存科指導教員一覧			
歯内療法学講座			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
古 澤 成 博	教授	間 奈津子	講師
森 永 一 喜	准教授	杉 内 亜紀奈	助教
末 原 正 崇	講師	佐 古 亮	助教
藤 井 理 絵	講師	加 藤 広 之	客員准教授
歯周病学講座			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
齋 藤 淳	教授・部長	江 川 昌 宏	助教
富 田 幸 代	准教授	今 村 健太郎	助教
勢 島 典	講師	喜 田 大 智	助教
大 井 麻 子	講師	鈴 木 瑛 一	助教
色 川 大 輔	助教		
保存修復学講座			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
村 松 敬	教授	春 山 亜貴子	講師
杉 戸 博 記	准教授	半 場 秀 典	講師
亀 山 敦 史	准教授		
小児歯科指導教員一覧			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
新 谷 誠 康	教授・部長	櫻 井 敦 朗	講師
米 津 卓 郎	講師	熊 澤 海 道	助教
辻 野 啓一郎	講師	本 間 宏 実	助教
今 井 裕 樹	講師	荒 井 亮	助教

口腔外科指導教員一覧			
口腔顎顔面外科学講座			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
柴 原 孝 彦	教授	成 田 真 人	講師
高 野 正 行	准教授	山 村 哲 生	助教
高 木 多加志	准教授	森 川 貴 迪	助教
神 尾 崇	講師	吉 田 秀 児	助教
渡 邊 章	講師	関 根 理 予	助教
山 本 信 治	講師	大 野 啓 介	助教
恩 田 健 志	講師	齊 藤 力	客員教授
口腔病態外科学講座			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
片 倉 朗	教授・部長	山 本 雅 絵	助教
笠 原 清 弘	准教授	岩 本 昌 士	助教
菅 原 圭 亮	講師	西 山 明 宏	助教
別 所 央 城	講師	高 木 亮	助教
歯科麻酔科指導教員一覧			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
一 戸 達 也	教授・部長	川 口 潤	助教
松 浦 信 幸	准教授・部長代理	黒 田 英 孝	助教
半 田 俊 之	講師	久木留 宏 和	助教
松 木 由起子	講師	吉 田 香 織	助教
井 出 智 子	助教		
補綴科指導教員一覧			
老年歯科補綴学講座			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
櫻 井 薫	教授	竜 正 大	講師
上 田 貴 之	准教授	高 野 智 史	講師
石 崎 憲	准教授	太 田 緑	助教
大 神 浩一郎	講師	和 田 健	助教
クラウンブリッジ補綴学講座			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
佐 藤 亨	教授・部長	腰 原 輝 純	講師
久 永 竜 一	講師	新 谷 明 昌	講師
野 本 俊太郎	講師	神 田 雄 平	助教
四ッ谷 護	講師	林 原 貴 徳	助教

パーシャルデンチャー補綴学講座			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
山 下 秀一郎	教授	中 村 恵 子	助教
田 坂 彰 規	講師	大 平 真理子	助教
森 岡 俊 行	講師	齋 藤 研 太	助教
古 屋 克 典	助教		
矯正歯科指導教員一覧			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
末 石 研 二	教授・部長	石 井 武 展	講師
宮 崎 晴 代	講師	立 木 千 恵	助教
野 嶋 邦 彦	講師	安 村 敏 彦	助教
坂 本 輝 雄	講師	森 川 泰 紀	助教
片 田 英 憲	講師	海老澤 明 宏	助教
西 井 康	講師	茂 木 悦 子	客員教授
放射線科指導教員一覧			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
後 藤 多津子	教授・部長	佐 藤 晶 子	助教
和 光 衛	准教授	渡 邊 素 子	助教
音 成 実 佳	講師	岡 野 友 宏	客員教授
口腔インプラント科指導教員一覧			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
矢 島 安 朝	教授・部長	高 梨 琢 也	講師
伊 藤 太 一	准教授	守 源太郎	助教
本 間 慎 也	講師	平 野 友 基	助教
古 谷 義 隆	講師	松 浦 正 朗	客員教授
佐々木 穂 高	講師		
障害者歯科指導教員一覧			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
福 田 謙 一	教授・科長	半 沢 篤	助教
大多和 由 美	准教授		
スポーツ歯科指導教員一覧			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
武 田 友 孝	准教授・科長	中 島 一 憲	講師

摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科指導教員一覧			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
石 田 瞭	教授・科長	大久保 真 衣	講師
杉 山 哲 也	准教授		
内科指導教員一覧			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
山 岸 由 幸	准教授・科長		
眼科指導教員一覧			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
ビッセン 弘子	教授・科長	太 田 友 香	助教
平 沢 学	講師		
臨床検査部指導教員一覧			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
井 上 孝	教授・部長	國 分 克 寿	助教
松 坂 賢 一	教授	中 島 啓	助教
村 上 聡	講師		
水道橋病院指導教員一覧			
水道橋病院			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
吉 田 光 孝	助教（診療教員）	内 山 沙 姫	助教（診療教員）
千葉病院指導教員一覧			
総合診療科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
高 橋 俊 之	准教授	杉 山 利 子	講師
近 藤 祥 弘	講師	杉 山 節 子	助教
野 呂 明 夫	講師		
千葉病院			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
蒔 田 良 江	助教（診療教員）	小笠原 龍 一	助教（診療教員）
有 泉 大	助教（診療教員）	備前島 崇 浩	助教（診療教員）

市川総合病院指導教員一覧			
オーラルメディシン・口腔外科学講座			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
野 村 武 史	教授・部長	酒 井 克 彦	講師
佐 藤 一 道	准教授	三 條 祐 介	助教
澁 井 武 夫	講師	河 地 誉	助教
口腔がんセンター			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
大 金 覚	助教	高 野 伸 夫	客員教授
齋 藤 寛 一	助教		
内科学講座			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
西 田 次 郎	教授	大久保 佳 昭	講師
林 晃 一	教授	坂 巻 裕 介	講師
鈴 木 昌	教授	松 本 公 宏	助教
仁 科 牧 子	准教授	塚 本 昌 子	助教
瀬 田 範 行	准教授	阿 部 大 地	助教
消化器内科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
西 田 次 郎	教授・部長	財 部 紗基子	助教
岸 川 浩	准教授・部長代理	荒 畑 恭 子	助教
貝 田 将 郷	講師	尾 城 啓 輔	助教
循環器内科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
大 木 貴 博	准教授・部長	眞 野 恵 範	助教
馬 場 彰 泰	講師	助 川 博 章	助教
神経内科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
村 松 和 浩	教授・部長	小 泉 健 三	准教授
岡 田 聡	准教授		

呼吸器内科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
寺 嶋 毅	教授・部長	中 島 隆 裕	講師
松 崎 達	講師	池 村 辰之介	助教
小児科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
江 口 博 之	准教授・部長	本 田 美 紗	助教
佐々木 悟 郎	講師	林 美 恵	嘱託教員
外科学講座			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
松 井 淳 一	教授・部長	小 倉 正 治	助教
和 田 徳 昭	准教授	小 野 滋 司	助教
江 口 圭 介	准教授	別 宮 絵美真	助教
瀧 川 穰	講師	門 多 由 恵	助教
浅 原 史 卓	助教	下河原 達 也	助教
脳神経外科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
菅 貞 郎	教授・部長	井 上 賢	助教
片 山 正 輝	講師		
心臓血管外科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
申 範 圭	教授・部長	浅 原 祐 太	助教
森 光 晴	講師		
整形外科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
穴 澤 卯 圭	教授・部長	二 宮 研	助教
渡 部 逸 央	講師	鈴 木 悟 士	助教
越 智 健 介	講師	水 野 早希子	助教
青 山 龍 馬	講師		
リハビリテーション科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
堀 田 拓	准教授・部長		

産婦人科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
高 松 潔	教授・部長	杉 山 重 里	助教
吉 田 丈 児	教授（リプロダクションセンター）	橋 本 志 歩	助教
潮 田 真里子	准教授	井 上 治	助教
兼 子 智	講師	飯 野 孝太郎	助教
吉 丸 真 澄	助教		
眼科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
島 崎 潤	教授・部長	比 嘉 一 成	助教（角膜センター）
佐 竹 良 之	講師	八 木 紫	助教
山 口 剛 史	講師	柿 栖 康 二	助教
富 田 大 輔	助教		
耳鼻咽喉科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
中 島 庸 也	教授・部長	山 口 航	助教
露 無 松 里	助教		
泌尿器科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
中 川 健	教授・部長	萩生田 純	助教
香 野 日 高	講師	萩 原 正 幸	助教
放射線科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
最 上 拓 児	准教授・部長	馬 場 亮	助教
小 橋 優 子	講師	青 柳 裕	客員教授
山 添 真 治	助教		
皮膚科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
高 橋 慎 一	教授・部長	河 野 通 良	講師

形成外科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
田 中 一 郎	教授・部長	藤 井 貴 子	助教
麻酔科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
小板橋 俊 哉	教授	小 蘭 祐 紀	助教
大 内 貴 志	准教授・部長	伊 東 真 吾	助教
印 南 靖 志	講師	萩 原 知 美	助教
小 鹿 恭太郎	助教		
精神科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
森 本 陽 子	講師・部長		
臨床検査科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
佐々木 文	教授・部長	田 中 陽 一	客員教授
橋 本 和 彦	講師		
救急科			
氏 名	職 名	氏 名	職 名
鈴 木 昌	教授		